

2023年度 まほし会年報

2023年4月1日 ～ 2024年3月31日



医療法人社団 まほし会



真星病院



目 次

概要と沿革

概要と沿革	2
-------	---

組織機能図	6
-------	---

2023 年度 病院全体評価・理事長方針	7
----------------------	---

各部署の活動報告

医局

眼科	12
循環器科	16
整形外科	19
総合診療科	24
小児科	25
糖尿病内科	26
精神科	27

理事長補佐全体評価

(経営・情報管理担当)	28
-------------	----

看護部

2023 年看護部活動を振り返って	29
療養病棟科	36
介護医療院	36
腎・透析センター	36
一般病棟科	37
外来科	37
手術科	37
医療機器管理室	38
病児保育室	38

総合支援部

2023 年度を振り返って	40
薬剤科	40
放射線科	41
栄養科	41
臨床検査科	43
リハビリテーション科	44
訪問リハビリテーション科	45
総合サービス課	46
総務課	47

地域包括ケア部

在宅診療	48
地域連携室	49
通所介護デイサービスセンター	
まほしの里	51
訪問看護ステーションまほし	51
まほし居宅介護支援事業所	
コスモス	52
まほし居宅介護支援事業所からと	53

関連事業

有馬あんしんすこやかセンター	54
----------------	----

委員会等の活動報告

教育活動報告	55
救急委員会	58
カイゼンワーキンググループ	60
安全対策委員会	62
感染対策委員会	66
診療情報管理委員会	67
人間ドック委員会	67
広報委員会	68
接遇委員会	69
輸血療法委員会	70
臨床検査適正委員会	71
退院支援及び病棟管理	
カンファレンス	72

診療統計

外来・入院	73
疾患別退院患者数	74
疾患別平均在院日数	76
手術件数	78

概要と沿革

□ 概要

【所在地】 〒651-1242 神戸市北区山田町上谷上字古々谷 12-3
TEL : (078)-582-0111 FAX : (078)-583-8908
URL : <https://www.mahoshi.com>
E-mail : info@mahoshi.com

【交通機関】 神戸電鉄花山駅より東へ徒歩 3 分
市営地下鉄三宮駅から谷上方面へ、北神急行谷上駅にて神戸電鉄に乗り換え
三田または有馬温泉方面にお乗り下さい。
神姫バス花山停留所下車 1 分



【病 床 数】 174 床（一般 66 床（※1） 療養 90 床 介護医療院 18 床）
（※1）DPC 対象 40 床、 地域包括ケア病棟 26 床

【特 徴】 ケアミックスの医療機関で、特に糖尿病に関しては総合的な治療ができる
地域密着型の病院として活動

【診療科目】 外科 内科 糖尿病内科 眼科 小児科 整形外科 循環器外科 循環器内科
泌尿器科 人工透析内科 消化器内科 胃腸内科 消化器外科 呼吸器内科
肛門外科 リウマチ科 放射線科 リハビリテーション科 麻酔科 老年内科

【特殊診療機能】 糖尿病センター（病棟、糖尿病専門外来） 腎・透析センター（透析室、病棟）

【学会認定】 日本糖尿病学会認定教育施設
日本外科学会専門医療制度関連施設
循環器専門医研修関連施設
臨床研修協力施設

【機能評価】 財団法人日本医療機能評価機構認定「一般病院 1（3rdG:Ver2.0）」

□ 沿革

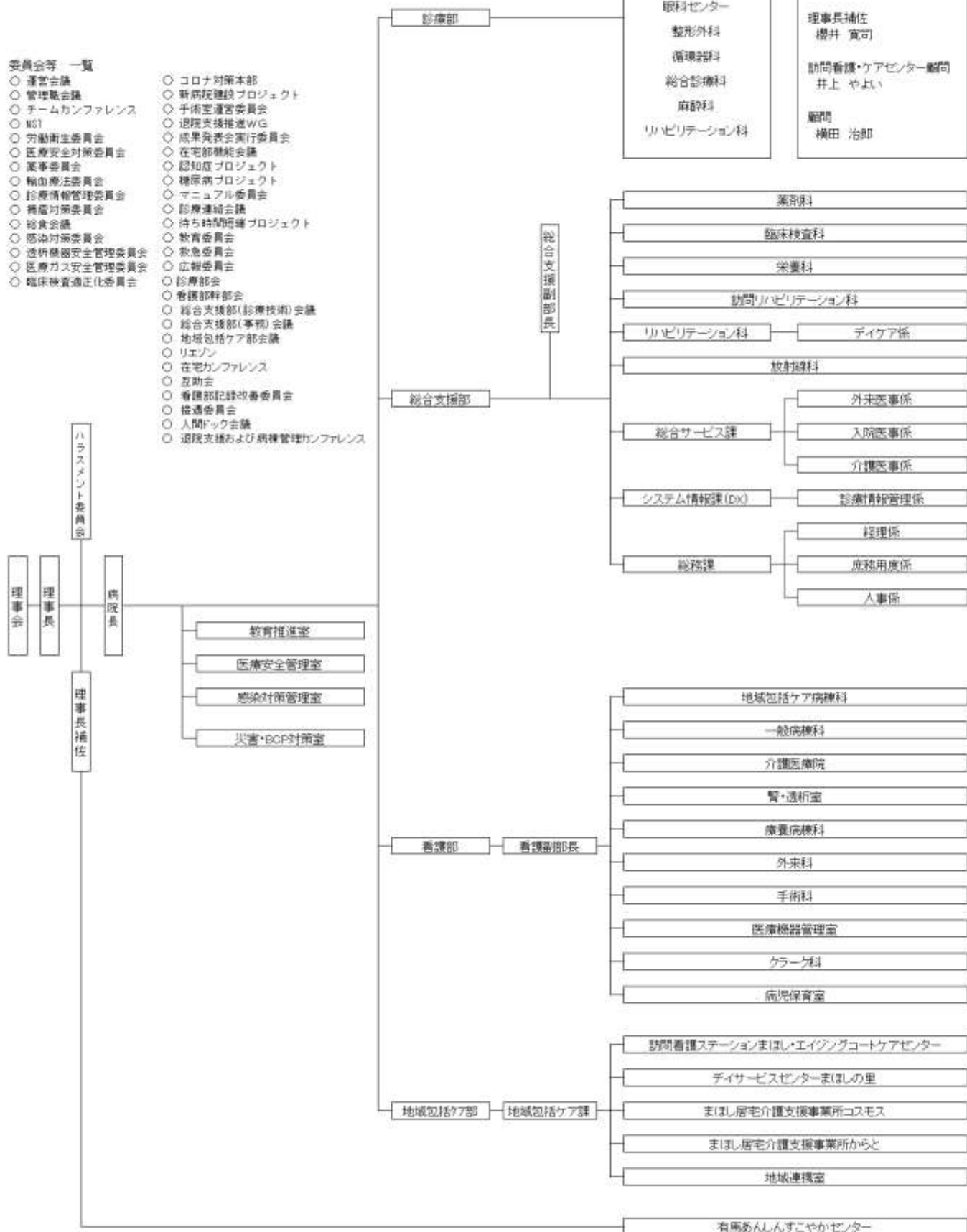
昭和	55(1980)	1月12日 4月1日 9月1日	真星外科胃腸科 19床で開業。 真星病院となる。診療科目は、循環器科・胃腸科・外科・放射線科であった。 一般28床に増床。
昭和	57(1982)	8月13日	一般59床に増床。
昭和	58(1983)	8月23日	65床に増床。 基準寝具・基準給食を実施。 内科・眼科・小児科・整形外科・理学療法科を新設する。
昭和	59(1984)	6月21日	95床に増床。
昭和	60(1985)	3月11日	103床に増床。 人工透析を開始する。
昭和	61(1986)	4月1日	130床に増床。
昭和	62(1987)	4月1日	耳鼻咽喉科・泌尿器科を新設。
昭和	63(1988)	9月30日 3月1日	東館を増築し、185床になる。 高気圧酸素治療装置を設置する。
平成	2年(1990)	4月1日	在宅訪問を開始する。
平成	4年(1992)	4月27日 4月28日	初代院長 大石健三 逝去。享年46歳であった。 亡夫の遺志を継ぎ、大石麻利子 第2代院長に就任する。
平成	5年(1993)	3月1日 6月1日	一般185床から一般84床と特例許可老人101床に変更する。 理学療法(Ⅲ)が承認される。
平成	6年(1994)	8月1日 10月1日	基本看護・基本看護料(Ⅰ)、特例許可老人病棟入院医療管理料(Ⅱ)が承認される。 新看護体系(3.5対1、B加算、13対1助手)になる。
平成	7年(1995)	7月1日	特例許可老人病棟入院医療管理料(Ⅰ)が承認される。
平成	8年(1996)	1月1日 12月1日	新看護体系(3対1、B加算、13対1助手)になる。 本館改修し特例許可老人101床から療養90床に変更する。 (全体：一般84床 療養90床) 療養型病棟2群入院医療管理料(Ⅰ)が承認される。
平成	9年(1997)	7月1日 12月1日	新看護体系(2.5対1、A加算、10対1助手)になる。 東館一般84床を一般50床 特例許可老人34床 に変更する。 (全体：一般50床 特例34床 療養90床)
平成	10(1998)	4月1日 5月1日 6月1日 6月13日 7月1日 10月1日	ホームヘルパー養成事業を開始する。 デイケアセンターを開設する。 ボランティア「まひるのほしの会」を結成する。 真誠会ホスピタウン・熊本ホスピタウン と姉妹提携を結ぶ。 情報誌「まひるのほし」創刊号を発行する。 健康管理センターを開設する。
平成	11(1999)	5月1日 6月11日 7月26日 9月20日	全日本病院協会より、日帰り人間ドック実施病院に認定される。 ホームページを開設する。 日本医療機能評価機構より病院複合A(一般、長期療養)が認定される。 神戸市で初めての病児保育「エンジェルさんのおうち」を始める。
平成	12(2000)	4月1日	創立20周年を迎える。 本館療養90床を介護療養42床 療養48床に変更する。 通所リハビリ、短期入所療養介護、訪問リハビリを開始する。 指定居宅介護支援事業所「コスモス」を開設する。 ヘルパーステーション「コスモス」を開設する。
平成	13(2001)	7月1日 9月1日 11月24日	理学療法(Ⅱ)が承認される。 糖尿病センターを開設する。 公立出石病院・社会福祉法人グリーンアルム福祉会 と姉妹提携を結ぶ。

平成 14 (2002)	4 月 1 日	「地域モニター会」を発足する。
	4 月 16 日	日本医療機能評価機構より病院複合 A（一般、長期療養）が再認定される。
	12 月 1 日	社団法人日本糖尿病学会教育施設に認定される。
平成 15 (2003)	1 月 1 日	社団法人日本外科学会 外科専門医制度関連施設に認定される。
	2 月 1 日	病児保育「エンジェルさんのおうち」が神戸市に認定され、病後児保育として開始する。
	4 月 1 日	東館増改築し、一般 50 床特例許可老人 34 床から一般 66 床・療養 18 床に変更する。 （全体：一般 66 床 療養 108 床）
		東館増改築に伴い、手術室・通所リハビリ・特浴室・透析室を移設する。
		腎・透析センターを開設する。
		能力主義人事制度を導入する。
	11 月 1 日	病児保育「エンジェルさんのおうち」を改装する。
平成 16 (2004)	12 月 1 日	更生医療機関指定（腎臓）となる。
	6 月 1 日	診療情報管理科を開設する。
	8 月 1 日	言語聴覚療法（Ⅱ）が承認される。
	9 月 27 日	日本医療機能評価機構より病院複合 A（一般、長期療養）が再認定される。
	11 月 1 日	社団法人日本循環器学会 循環器専門医研修関連施設に認定される。
	11 月 21 日	第 2 回 まほし健康フェア開催。
		第 9 回 ホスピタウン交流会を行う。（21～22 日）
平成 17 (2005)	12 月 1 日	更生医療機関指定（心臓脈管外科）となる。
	5 月 21 日	デイサービスセンター「まほしの里」を有馬口に開設する。
	4 月 1 日	創立 25 周年を迎える。
	8 月 27 日	神戸大学医学部附属病院卒後医師臨床研修施設となる。 神戸市長より救急業務の功績を表彰される。
平成 18 (2006)	2 月 1 日	介護療養病床（2 階本館）を医療療養病床に変更する。
	6 月 1 日	耳鼻科診療を終了する。
		ヘルパーステーション「コスモス」を閉鎖する。
	10 月 1 日	オーダーリングシステムを導入する。
	11 月 1 日	小児科コミュニティー「まほし Kids」を始める。
	12 月 12 日	医療法人社団まほし会 を設立する。
平成 19 (2007)	4 月 1 日	医療法人社団まほし会 真星病院 となる。
	6 月 1 日	敷地内全面禁煙となる。
	6 月 16 日	DPC 導入の影響評価に係る調査に参加する。
	8 月 1 日	一般 10 対 1 入院基本料となる。
	10 月 1 日	電算レセプトを開始する。
	10 月 9 日	情報誌「まひるのほし」が NPO 法人日本 HIS 研究センターBHI 賞に入選する。
	11 月 7 日	有馬救急隊、山田救急隊を迎え、救急隊地域病院研修を行う。
	11 月 24 日	第 12 回 ホスピタウン交流会を行う。（24～25 日）
平成 20 (2008)	4 月 1 日	16 列マルチスライス CT を導入する。
	5 月 1 日	居宅介護支援事業所「コスモス」が法人参加となる。
	7 月 1 日	デイサービスセンター「まほしの里」が法人参加となる。
	12 月 16 日	真星病院ぽっかぽか保育園を新設する。
平成 21 (2009)	2 月 1 日	オンラインレセプトを開始する。
	6 月 1 日	訪問看護ステーションまほしを開設する。
	7 月 1 日	DPC 対象病院となる。
	9 月 4 日	日本医療機能評価機構より「一般・療養 100 床以上 200 床未満」が再認定される。
	12 月 16 日	訪問看護ステーションまほし 有馬エイジングコートに移設。
平成 22 (2010)	4 月 1 日	医療法人社団まほし会 真星病院 30 周年を迎える。
	7 月 8 日	栄養科 改築工事完成。作業療法室 開設。
平成 23 (2011)	1 月 1 日	電子カルテを導入する。
	2 月 28 日	1 階トイレ改修工事完成。1 階待合ロビーの椅子新設。 30 周年の植樹。
平成 24 (2012)	6 月 1 日	厚生労働省より在宅医療連携拠点事業として採択される。
	10 月 15 日	グループウェアを導入する。
	11 月 3 日	在宅医療連携拠点事業の一環として「まほしふれあい文化祭 2012」を開催。

平成	25 (2013)	3 月 28 日 12 月 28 日	第 1 回 地域包括ケア研究会を開催する。 「喫茶コスモス」が閉店。
平成	26 (2014)	2 月 20 日 4 月 1 日 4 月 1 日 7 月 26 日 10 月 17 日	「café コスモス」が新規オープン。 病床種別変更。 [変更前] 一般病床 66 床 (DPC 対象 56 床、 亜急性期 10 床) [変更後] 一般病床 66 床 (DPC 対象 40 床、 地域包括ケア病棟 26 床) 真星病院が「北区医師会 地域包括ケア推進協議会事務局」に認定される。 日本医療機能評価機構より「一般病院 1 (100 床以上) (主たる機能)」が認定される。 神戸市より「平成 26 年度こうべ男女いきいき事業所」に選ばれる。
平成	27 (2015)	9 月 16 日 11 月 1 日	「真星ぽっかぽか相談室」を花山東団地のミニコープ前に開設する。 整形外科・眼科にて再診予約制を導入。
平成	28 (2016)	4 月 1 日	「まほしりハビリテーションセンター」をまほしの里 (有馬口) に開設する。
平成	29 (2017)	4 月 10 月 21 日 12 月 6 日	まほし居宅介護支援事業所からと 開設 ふれあいフェスティバル 2017・第 21 回ホスピタウン交流会開催 小児科専用 L I N E アプリ「まほしキッズ」開設
平成	30 (2018)	3 月 17 日 3 月 23 日	第二回神戸市北区地域包括ケア推進総括協議会 総会に事務局として携わる。 アイバンク支援の自動販売機を院内に設置
平成	30 (2018)	4 月 5 月 12 月	医療・介護同時改訂 麻酔科標榜 一般救急・精神科等地域医療機関連携モデル事業 (リエゾン事業) 開始
平成	31 (2019)	3 月 3 月 4 月	療養 3 東病棟閉院 (介護医療院開設の為) 有馬あんしんすこやかセンター、居宅介護支援事業所からと 新事業所移転 介護医療院開設
令和	1 (2019)	7 月 11 月 12 月	病院機能評価 (3rdG:Ver. 2.0 一般病院 1) が認定される。 自動精算機 導入 勤怠管理システム「勤次郎」導入
令和	2 (2020)	4 月 9 月 9 月 14 日 12 月	緊急事態宣言発令に伴い、玄関前トリアージ開始 外来診療 全科予約制開始 入院患者のオンライン面会サービス開始 西側駐車場に有熱外来専用のユニットハウス 3 棟設置
令和	3 (2021)	3 月 1 日	外来診療順番表示システム導入
令和	3 (2021)	7 月 15 日 12 月 21 日	コロナワクチン一般接種開始 C T を更新する まほし会就職説明会 新病院建設プロジェクト始動
令和	4 (2022)	1 月 23 日	まほし会就職説明会
令和	4 (2022)	4 月 8 月 8 日 12 月	マイナンバーカードによるオンライン資格確認導入 リフィル処方箋への対応開始 オンライン診療スタート
令和	5 (2023)	2 月 16 日	病児保育ネット予約サービス『あずかるこちゃん』導入
令和	5 (2023)	5 月	看護フェア、就職説明会実施
令和	6 (2024)	1 月 1 月 27 日	外来心臓リハビリテーション、運動負荷心電図検査開始 正面駐車場 有料化

組織機能図

2023 年度 まほし会組織図



2023年 病院全体評価

『2023年まほし会総括』

まほし会理事長 真星病院院長 大石 麻利子



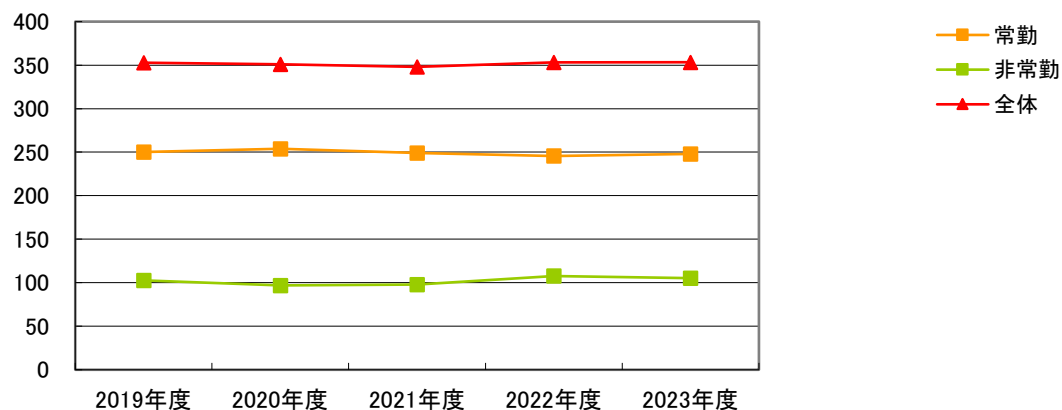
大石 麻利子（理事長・院長）

2023年は5月に新型コロナウイルス感染症が感染症法上の取り扱いに於いて2類から5類に変わり各種補助金や支援が次第に終了すると共にワクチン接種や有熱外来の外来患者数も激減しました。そして、主に看護師、介護スタッフの退職、産休、育休が相次ぎ2階療養病棟と4東急性期病棟の病床制限に踏みきらねばならず、日々の感染患者の発生のみならず、スタッフの勤務状況にも、気の抜けない日々でした。そのような中、介護系のサテライトのかたがたの頑張りが支えになり、病院内のスタッフ達も、残ったスタッフ達が、より団結し、一層良い組織にしようと各種委員会活動が活性化してきました。4月から大石醒悟医師が内科部長として着任し救急の受け入れ等、組織を、より活性化し、患者、家族、地域のかたがた、そしてスタッフの皆が安心して暮らし、働くことのできる職場にしようとする光が射してきました。そして1階外来棟の廊下が綺麗になり、ロビーの照明もLEDに変わりました。これまで年に2回のワックスがけでしたが今回はそのワックス自体を剥がし、再度ワックスを掛けなおす全く新しいやり方で作業をしていただき、これまでの40年間余りの汚れを洗い流すことができたようになりました。また、以前は足場を組む作業日数や多額の費用の為に、実施できずにいたロビーの照明を、作業工程と費用を見直し、変換することができ、病院全体が急に見違える程、明るくなりました。管理職のかたがたのみならず、すべての職員が私達の組織をより良いものにするために団結し、飛躍できる土台を創り上げる、しんどいけれど楽しい1日1日の積み重ねの1年でした。

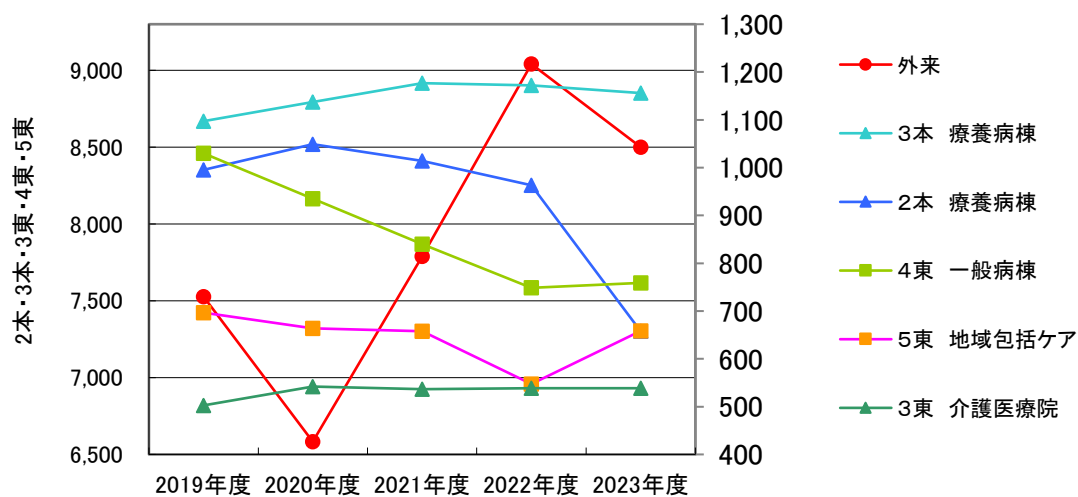
年度（4月～3月）		月平均				
		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
5東 一般病棟	延患者数	697	664	658	547	658
	1日平均数	23	22	22	18	22
	収入	28,870,014	27,363,820	25,836,271	23,421,454	27,972,412
	単価	39,624	39,373	39,366	37,739	40,809
	平均在院日数	23	22	21	15	19
4東 一般病棟	延患者数	1,030	935	840	749	759
	1日平均数	34	31	28	25	25
	収入	42,486,146	41,653,583	36,057,641	33,323,665	36,463,828
	単価	39,757	42,643	42,873	43,122	46,439
	平均在院日数	16	15	15	19	12
3東 介護医療院	延患者数	503	542	536	539	539
	1日平均数	16	18	18	18	18
	収入	8,497,640	8,707,917	8,035,871	8,724,816	8,682,235
	単価	16,926	16,061	16,435	16,196	16,116
3本 療養病棟	延患者数	1,097	1,137	1,177	1,172	1,156
	1日平均数	36	37	39	39	38

	収入	28,364,057	29,538,447	28,422,588	29,991,075	29,287,769
	単価	25,836	25,977	26,110	25,585	25,347
2本 療養病棟	延患者数	995	1,049	1,014	963	657
	1日平均数	33	34	33	32	22
	収入	20,052,880	20,524,188	19,289,139	20,272,709	14,041,446
	単価	20,153	19,563	20,838	21,022	21,369
外来	延患者数	7,528	6,583	7,789	9,041	8,499
	1日平均数	231	196	226	248	279
	収入	82,584,372	77,365,727	84,312,232	104,219,523	104,451,230
	単価	11,011	11,848	11,976	11,561	12,298
訪問診療	医療収入	6,032,045	5,754,073	5,515,884	5,500,776	5,979,292
	介護収入	510,809	510,841	493,748	415,386	390,507
居宅介護支援事業所 コスモス	収入	1,355,699	1,534,327	1,748,851	1,945,559	1,985,143
通所リハビリテーション ポーラスター（デイケア）	収入	3,813,497	3,222,449	3,422,472	3,729,668	3,643,027
訪問看護ステーション まほし	収入	4,050,648	4,377,269	5,623,141	5,125,825	5,736,096
デイサービスセンター まほしの里	収入	3,411,450	3,879,390	3,694,961	3,620,085	4,222,090
居宅介護支援事業所 からと	収入	1,576,221	1,954,764	2,425,651	2,299,634	2,137,677
有馬あんしんすこ やかセンター	収入	3,100,713	3,132,927	2,933,024	3,059,612	3,052,669
総収入		233,555,955	228,048,383	243,092,529	244,928,941	247,306,867
新患者数		256	194	454	372	259
救急受け入れ件数		46	32	32	29	51
手術件数		79	78	69	91	90
服薬指導件数		202	219	156	144	144
栄養指導件数	外来	24	23	30	29	26
	入院	17	48	48	36	53
透析	患者数	92	89	94	91	89
職員数	常勤	250	254	249	246	248
	非常勤	103	97	98	108	105
	全体	353	351	348	353	353

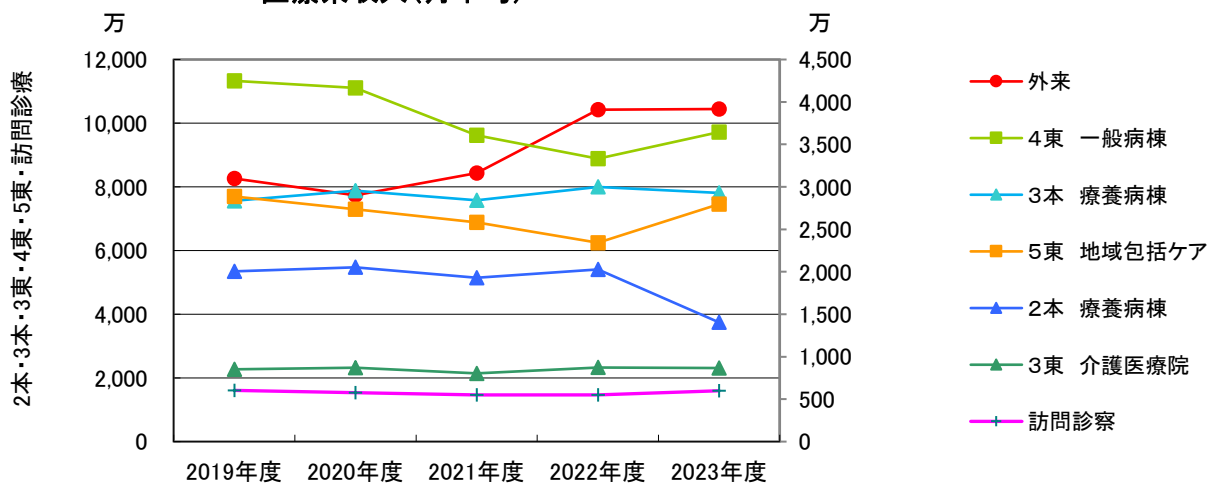
職員数(月平均)



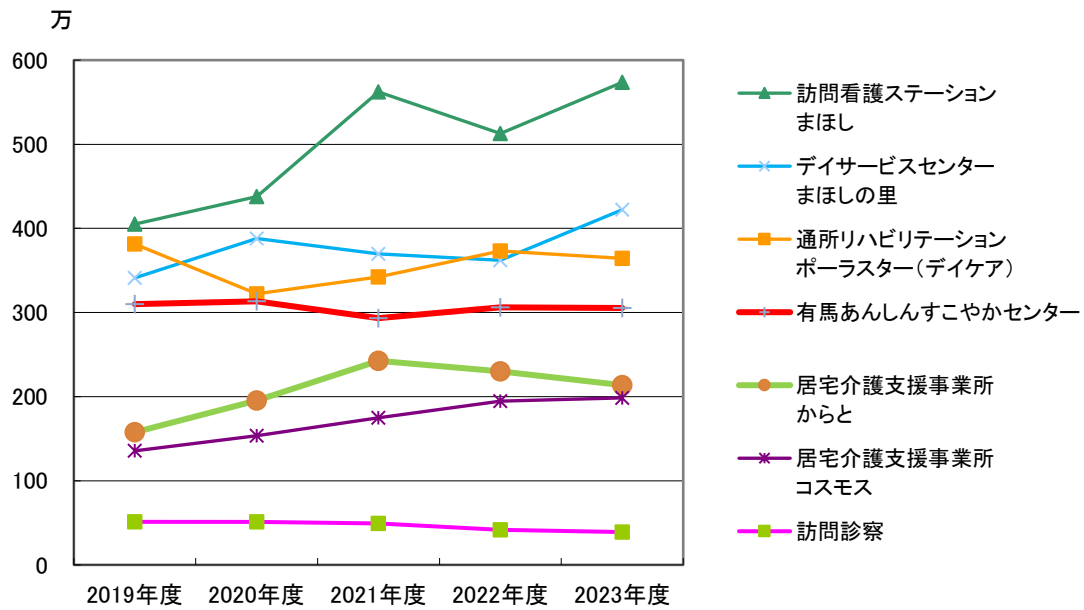
延患者数(月平均)



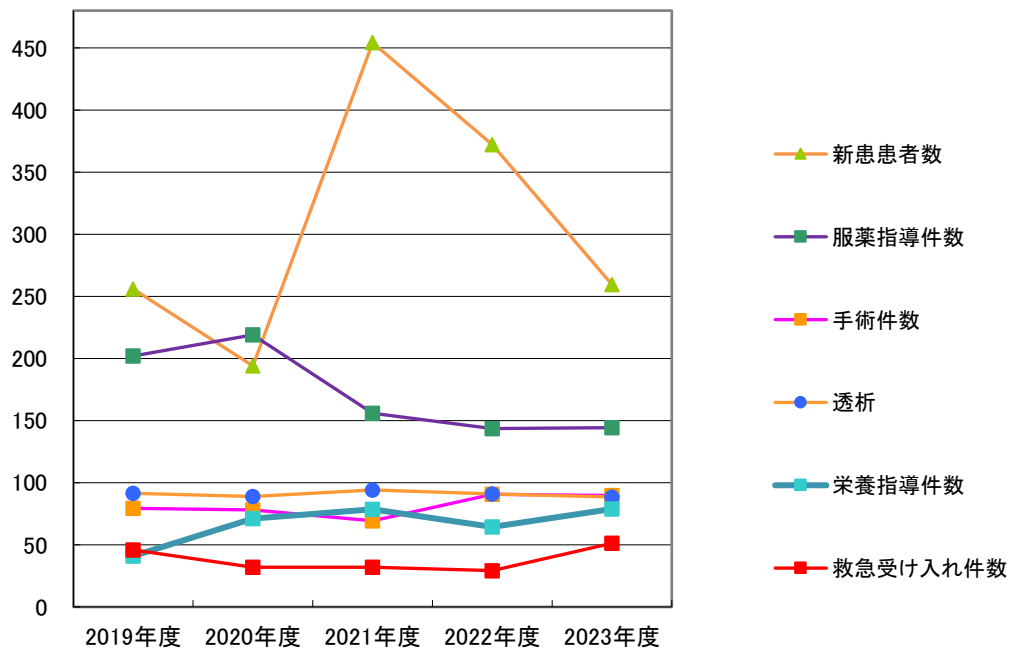
医療系収入(月平均)



介護系収入(月平均)



その他実績(月平均)



2023年度

理事長方針

団結と飛躍

マルチタスクの 日本1のプロ集団

- 常に自分自身と組織のレベルを上げることに努めよう。
- 確実な報告・連絡・相談のできる、より良い人間関係をつくらう。

理 念

1. 私達は患者、家族の方々の立場になり信頼され、納得のできる医療を目指します。
2. 私達は共に働く全職員が輝き、生き甲斐、働き甲斐ある職場を目指します。
3. 私達は関係機関や地域の方々と協力し、安心して暮らすことのできる街づくりに貢献します。

継続可能な組織

- 働き甲斐、生き甲斐ある人事・賃金制度にしていこう。
- 病院建設などのハード及びソフトの両面で進化しよう。

有馬
あんしんすこやかセンター

まほし
訪問看護ステーション

まほし居宅介護支援事業所
(コスモス・からと)

真 星 病 院

エイジングコート
ケアセンター

まほしの里
デイサービスセンター

各部署の活動報告

診療部

□ 眼科

『2023年度 眼科報告』

この1年は慌ただしく過ぎながらも、次へと繋ぎ直す団結の年でした。

前年に産休、育休だった三枝さん、永井さんの2人の視能訓練士が次々に可愛いお嬢ちゃんと一緒に戻って来、河合さんが退職後も、新たに加わった若手の下村さんと共に、多岐にわたる検査をしてくれました。

実績は（表1、グラフ1、2）のように総件数は昨年に比し減数していますが重症の増殖糖尿病網膜症に対する硝子体手術と白内障の手術件数は年々増加してきました。看護師不足による病床制限と働き方改革による業務時間制限による患者受け入れ制限があり入院、外来共に患者数が減りました（グラフ3、表2）。しかし、幸いにも売り上げ実績は、どうにか維持することが出来ました。これは高価な硝子体内注射の薬品代金も含まれており単純には喜べませんが、高度な硝子体手術等の増加によると思われます。

当院の眼科はこの10年間で徐々ではありますが北区の基幹病院として区内のみならず、他区や三田市などからも手術の紹介を頂けるようになりましたが、更にこの40年間、通院をして下さっている地元の方々の受診依頼をお断りせずに診させていただき、十分に診療のできる体制を作ることが私の使命であると日々痛感しています。

この1年間多忙で、休みも十分に取れない中、どうにか持ち応えてこられたのは3人の視能訓練士さんと堂園さんを中心に気遣いと小回りを利かしてくれている7名の眼科検査スタッフさんたちの人間関係の良さのお陰でした。またクラークさん、手術室、外来、病棟の看護師さんはじめ各総合支援部の方々、診療部の先生方、眼科非常勤の先生方に心より感謝申し上げます。

非常勤眼科医師

梶田医師 月、木曜日終日 眼科外来全般診療と硝子体内注射

坂本医師 水曜日午後 緑内障外来診療

今井医師 金曜日 午前外来診療 午後手術

神大専攻医 第3日曜日外来診療 金曜日手術補助



	月	火	水	木	金	土	日
午前	大石		大石	大石	今井	大石	大石(第2)
	梶田			梶田			神戸大(第3)
午後	大石		大石	大石	梶田(第2) (硝子体内注射)	往診 大石(第2)	
	梶田		坂本				梶田
手術			山崎(第1・3・5)	梶田(第4) (硝子体内注射)			今井
			鉄本(第2・4)				
			西崎(第2)				

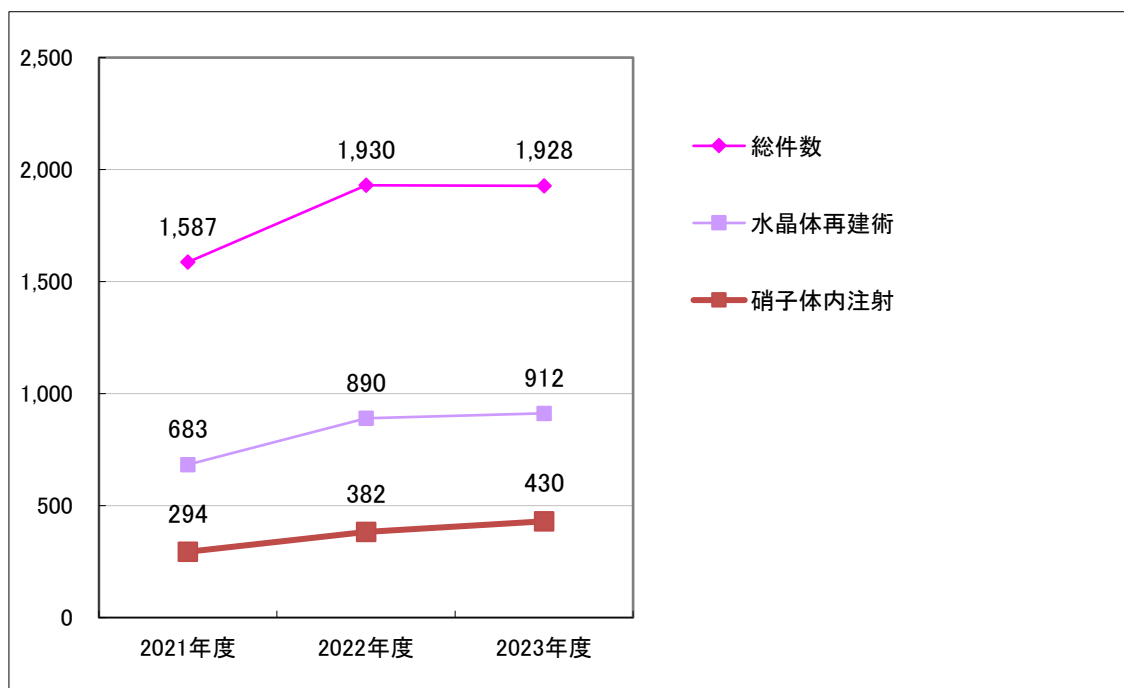
(表 1)

眼科 手術実績 (4 月～3 月)	2021 年度	2022 年度	2023 年度
総件数	1,587	1,930	1,928
水晶体再建術	683	890	912
網膜光凝固術	147	136	123
硝子体茎顕微鏡下離断術	75	116	109
増殖性硝子体網膜症手術	10	10	18
翼状片手術	12	10	12
眼瞼下垂症手術	9	8	3
緑内障手術(流出路再建)	9	8	3
斜視手術	3	3	0
その他(小手術含む)	345	367	318
硝子体内注射	294	382	430

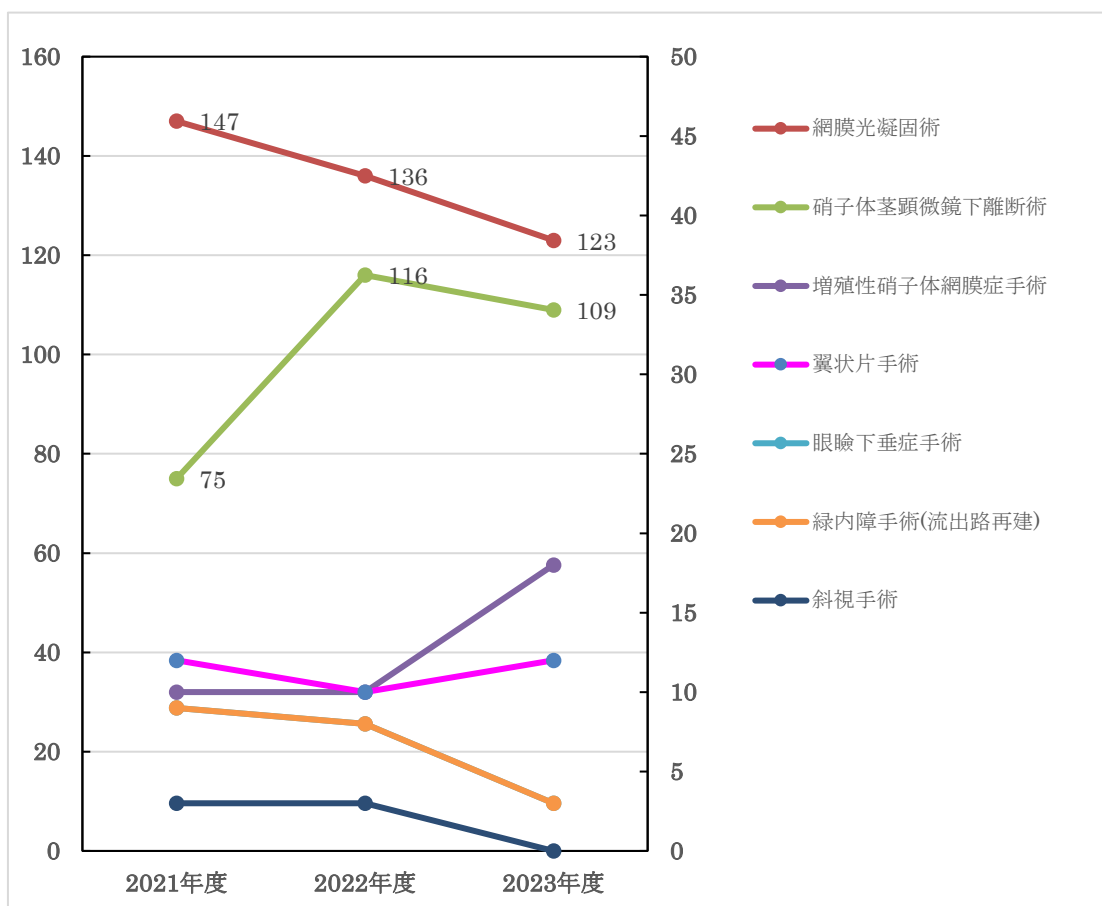
眼科 患者実績 (4 月～3 月)	2021 年度	2022 年度	2023 年度
外来	17,476	19,122	18,578
入院	1,133	809	640
合計	18,609	19,931	19,218

眼科 売上実績 (4 月～3 月)	2021 年度	2022 年度	2023 年度
外来	242,398,794	312,896,045	324,934,994
入院	110,843,402	95,112,624	83,891,809
合計	353,242,196	408,008,669	408,826,803

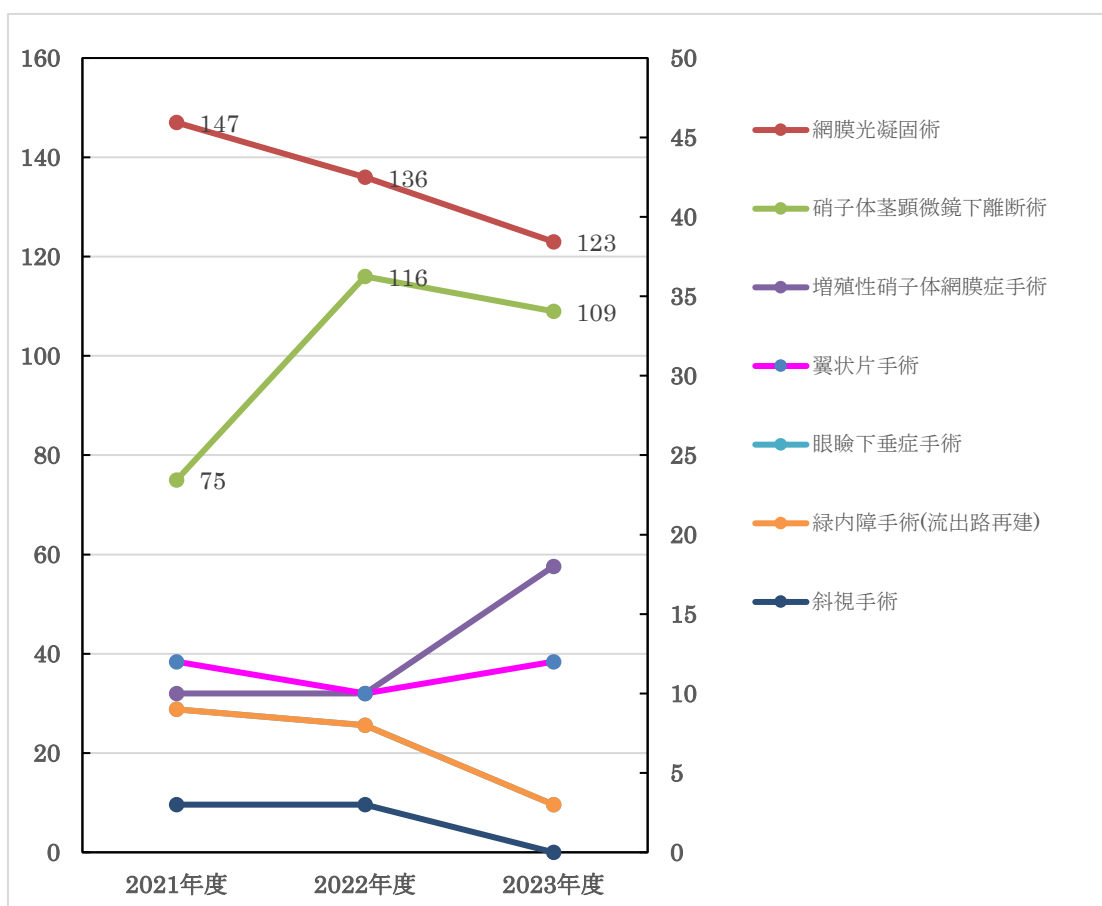
(グラフ 1)



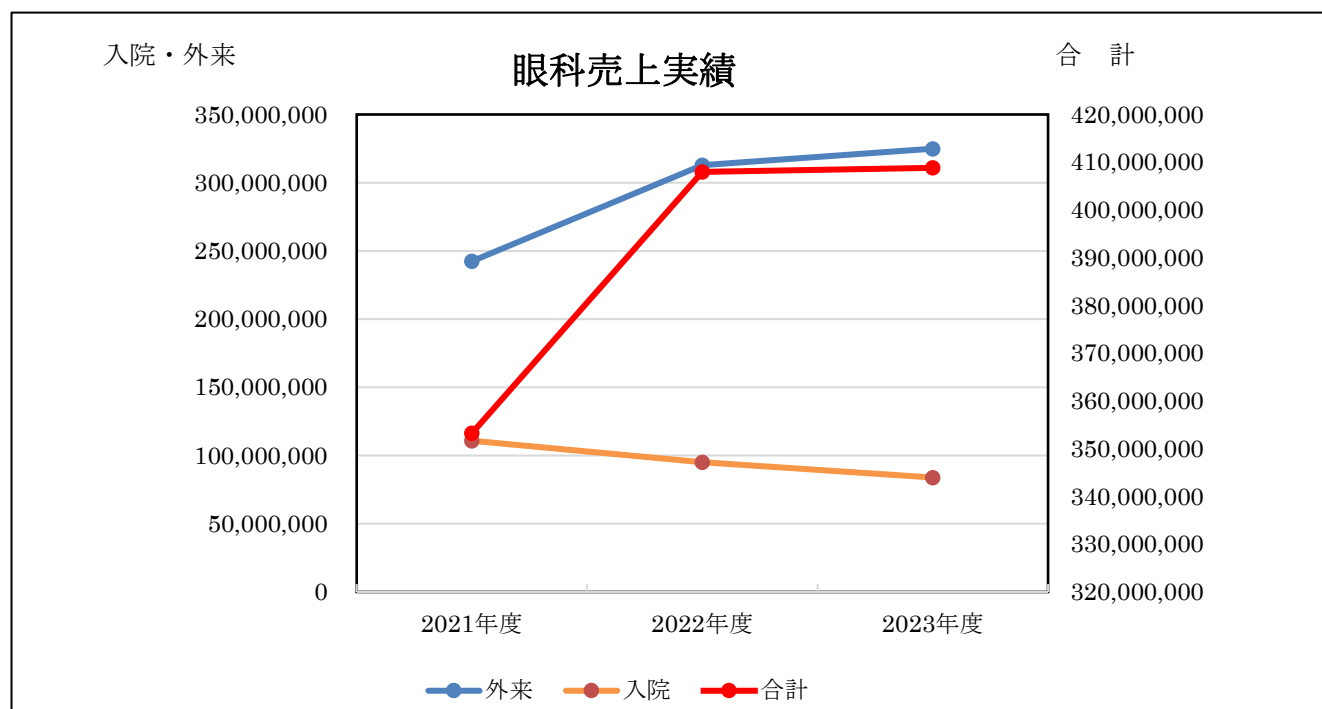
(グラフ2)



(グラフ3)



(表2)



『1年を振り返って』

循環器科は2023年4月から大石醒悟先生が着任されたことで、末期心不全を含むほぼすべての循環器疾患に対応できるようになりました。具体的な改善点として、生理機能検査の種類が増え、従来のホルター心電図や心エコーに加えて、下肢静脈エコー、エルゴメーターによる運動負荷検査、心肺運動負荷試験(CPX)が可能になりました。さらに、冠動脈CT検査も開始され、心筋虚血の非侵襲的診断が当院でほぼ完結できるようになりました。また、心臓リハビリテーションも2024年1月から4台のエルゴメーターを使用し、大石醒悟医師、理学療養士、臨床検査技師等の管理下で開始されています。一方、血液検査に関しても、8月からD-dimer、NT-proBNP、TSH、T3、T4などの迅速検査が可能になり、検査した当日にほとんどの循環器疾患を診断できるようになりました。救急患者も病床に余裕のある限り、できるだけ受け入れる体制となったため、循環器症例が着実に増加しているのは喜ばしい限りです。

診療部長としては、コロナ感染症対策が主要な業務になりました。2023年5月8日からコロナ感染症が5類感染症に移行された際、中等症～重症例が一定数認められ、感染を不安に思われる患者さんが多かったため、従来通り院外のユニットハウスでの診察を継続しました。しかし、2023年9月をピークに患者数が減少し始め、9月末で診療報酬上の特例措置も廃止されたため、10月からは感染対策を施した院内の限定した診察室で、午後に有熱患者を診察することにしました。ただ、日曜を中心としたワクチン接種は12月末まで続いたため、協力頂ける数少ないスタッフに呼びかけ、何とかワクチン接種当番や看取り待機当番を決定できました。この他、外来での診察予約、検査予約方式が変更されました。従来、次の診察予約は予約コーナーや総合サービス科で取ることが多く、検査も日時未定として予約することが多かったのですが、それに伴う問題点が指摘されていたため、8月からは検査予約はすべて日時を指定して診察室で取るようにし、11月からは予約コーナーを廃止して、診察予約も診察室で取るようにしました。これにより、予約に伴うインシデントやトラブルが大幅に減少したと感じています。

個人的な診療に関しては、循環器領域の外来診察に加え、スーパーコート神戸北とリブウェル西大池での訪問診療を引き続き担当し、オンライン診療も継続しています。オンライン診療は難しくはないと思いますが、協力して頂ける医師が他にいないため、院内での推進が少ないことを残念に思っています。

(文責：鎌倉 史郎)

『1年間の動向』

2023年4月に大石醒悟医師が新規入职し、循環器系の常勤医師は、現在3名体制(鎌倉、大石、紀)で担当しています。鎌倉医師は心電図を基盤とした不整脈疾患の世界的権威であり、当院循環器科としても名実ともにますます充実してきています。また6年前から当院検査科も臨床検査技師が心エコー検査の本格的な研修を始め、その後も積極的に症例数を重ね、現在では臨床検査技師による心エコー検査が軌道に乗り、検査件数の順調に伸びています。さらに、大石医師は末期心不全などを中心に研鑽を積み、この領域においては全国でもオピニオン・リーダー的存在です。当院における循環器領域の診療は質量ともにますます充実してきています。

当院での循環器科手術は現在、ペースメーカー手術が中心です。昨年同様、現在2名体制(紀、愛新)で担当しています。

院内研修教育の一環として2005年5月から開始された「循環器セミナー」は、現在は主に鎌倉医師が担

当していますが、長引くコロナ禍の影響を受け、従来のような対面形式の研修セミナーが開催できないのが現状です。

教育面ではさらに、神戸市医師会看護専門学校からの依頼を受け、2007 年度から紀が非常勤講師を務め、循環器疾患の講義（解剖学 + 生理学 + 循環器内科 + 心臓血管外科）を担当しています。若い世代の人材育成に、真星病院としても微力ながらお役に立てればと思っております。

（文責： 紀 幸一）

『1 年間の動向』

2023 年度から鎌倉、紀に加え、大石（醒）が診療に加わり、3 名体制で外来および入院診療を行っている。

2023 年度は外来 5550 名、26 名の心不全入院患者を含む 227 名の入院と外来は 18%、入院は 58% 増となり、外来売上、入院売上もそれぞれ 95%、38% 増となっている（表 1, 2）。

検査部門と協働し、心臓超音波検査、下肢静脈超音波検査を臨床検査技師で実施可能な体制を整え、脂質異常症や NT-pro BNP などの臨床検査も即日、報告できる体制を整え、404 件の心臓超音波検査、41 件の下肢静脈超音波検査を実施した。

理学療法士、作業療法士、言語聴覚士とも協働し、2023 年 4 月から入院患者を対象に心大血管リハビリテーションを開始し、2024 年 1 月から外来でも通院型外来リハビリテーションを開始しており、2024 年 3 月までに 37 名の入院患者を、5 名の外来患者を対象に心臓リハビリテーションの提供を行った。

外来リハビリテーションの開始に先立ち、コロナ患者の診療目的で利用していた作業療法室を改装し、心臓リハビリテーションを実施できる体制とし、4 台のエルゴメーターとともに心肺運動負荷試験を実施できる設備を整え、2024 年 3 月までに 7 件の心肺運動負荷試験を実施し、6 件の運動負荷心電図検査を実施しました。

虚血性心疾患の評価目的での冠動脈 CT も 2023 年度から開始しており、9 名の患者に実施し、狭心症での他院紹介に繋がっている。

2024 年度は地域における循環器診療の重点施設となるべく、心臓リハビリテーション、心不全診療、救急診療の充実を通し、他院との連携強化を図っていきたい。2024 年 4 月から心不全看護認定看護師の赴任もあり、多職種協働を目的とした心不全チームの立ち上げを行い、その後の新病棟稼働後に繋げる 1 年としたい。

（文責：大石 醒悟）



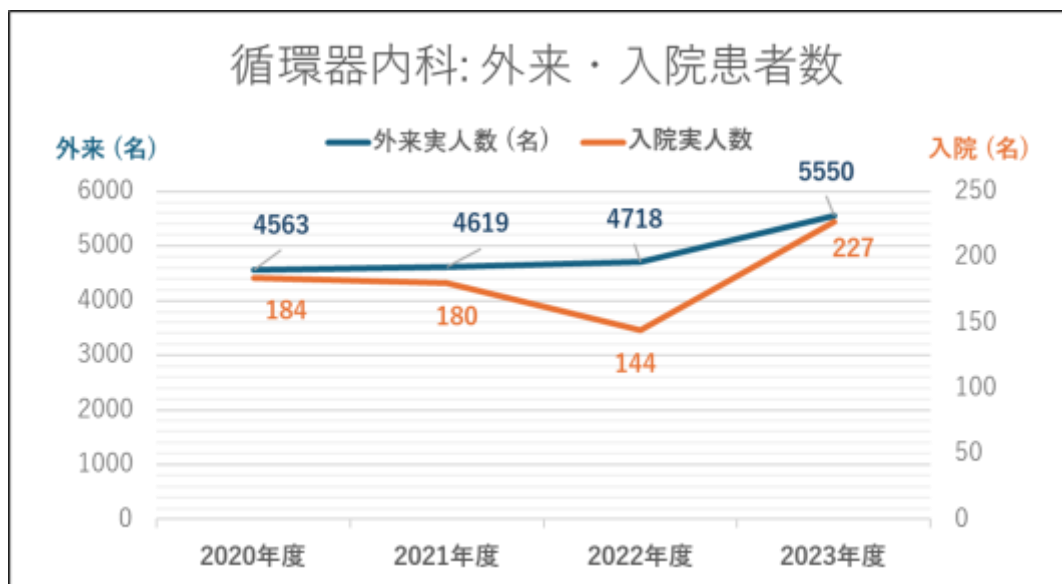


表 1: 循環器内科 外来・入院患者数推移

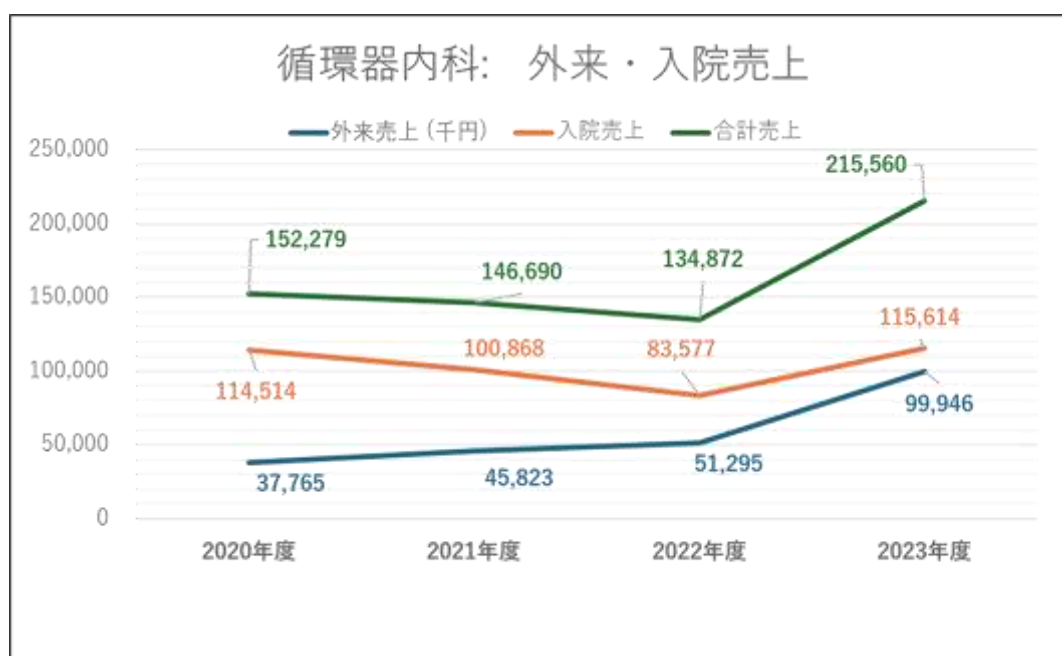


表 2: 循環器内科 外来・入院売上推移

□ 整形外科

『整形外科：2023 年度の結果と今後の展望』

2019 年 9 月より赴任させていただいてから、真星病院の整形外科部門は活性化への道を辿っていると思います。「ひろクリニック」の坂井宏成先生を始めとした整形外科各分野の一線で活躍されている先生方にご助力を賜りながら、北区だけではなく神戸全体を視野に入れ、今後も、発展への方向性を模索している次第です。

真星病院 整形外科を支えて頂いている先生方は、外傷など整形外科一般を担当されている常勤の南川 剛先生、肩関節鏡視下手術を中心とした肩関節疾患については

「ひろクリニック」院長 坂井宏成先生、人工膝関節置換術を始めとした膝関節手術は海星病院リウマチ・人工関節センター長 石田一成先生、人工股関節置換術は高槻病院部長 藤代高明先生、スポーツ整形外科については「ひろスポーツクリニック」院長 西澤勇一郎先生で、整形外科一般と「せぼね」外来で脊椎疾患を担当している鷺見正敏を含めた 6 名です。各医師が各々の分野を担当しながら有機的に連携し、若年からお年寄りまでの幅広い層を対象として診療を行っています。

また、真星病院では新病院建設計画がその工程表も含めて具体化し、プロジェクトチームが新病院建設に向けて一步一步その計画を前進させています。まもなくこの地に、MRI や新しい手術室・外来機能・入院設備などを備えた診療施設が建設されることになりました。この新しい病院を中心とした体制を展望しながら、真星病院のより良い将来について語ることができると思います。

以下にこの 1 年間（2023 年度）における整形外科の活動につき、項目ごとに振り返りながら、今後の 1 年の展望についても説明いたします。

1. 整形外科外来

1) 整形外科外来の診療体制

月曜日から土曜日までの午前は毎日「整形外科」外来を開設しています。火曜日の午前は隔週で坂井宏成先生が関節鏡や人工関節が対象となる関節疾患の外来を担当されています。水曜日は南川 剛先生が午後診の後、夜間当直もされるようになっています。金曜日の午後は西澤勇一郎先生がスポーツ疾患の外来を担当されています。また、土曜日の午前診では南川 剛先生の隔週での外来に加えて膝関節疾患の外来を石田一成先生にお願いしています。火曜日と木曜日の午後には鷺見正敏が「せぼね」外来を担当しています。

表 1. 真星病院 整形外科 外来診療担当表

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
午前	南川	南川 坂井（隔週）	鷺見	鷺見	鷺見	南川（隔週） 石田（隔週）
午後	椎間板内酵素 注入療法 ブロック酔	ブロック酔		ブロック酔	西澤	
	鷺見	鷺見（せぼね外来）	南川	鷺見（せぼね外来）		
夜間			南川			

2)「整形外科」外来患者数の推移

表2に「整形外科」外来患者数の推移を示します。実患者数、延べ患者数はともに経年的に増加を認め、2022年度の外来実患者数は6,142名、延患者数は11,732名と、共に2019年度の2倍以上の数に達しています。

表2. 外来患者数

実患者数（人）				
2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
2,810	3,620	4,741	5,610	6,142
延患者数（人）				
2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
5,404	6,652	9,071	10,479	11,732

3)「せぼね」外来の意義とその現状

2020年より「脊椎脊髄疾患」を対象とした「せぼね」外来を始めています。

「せぼね」の病気は、健康であるにもかかわらず身体が利きにくくなるという厄介なもので、きちんとした説明もなく手術を強く勧められたり、「寝たきり」になると脅されたり、病態を誤って理解させられていたり、症状が改善しなかったり、で今後の生活に不安を抱えておられる患者さんは多いようです。

こういった患者さんに対応する場合には、通常の整形外科外来よりも長い時間をとって問診や診察、病態の説明を十分に行う必要があります。このため真星病院では、火曜日と木曜日の午後に一般の整形外科外来とは別枠として「せぼね」外来を設けています。火曜日は午後2時から午後5時までの3時間で9名の患者さんを、木曜日は午後2時40分より午後5時までの7名の患者さんを診察しています。

明らかな手術適応があるわけではなく保存治療かどうか悩ましい症例、行き詰ったためにクリアカットな方針を立て難くなった症例、病態が果たして脊椎からきているのか不明な症例など、お困りの症例があれば遠慮なくお申し出ください。「せぼね」外来のHPを別途作成し、HPを通した診療申込みも可能にしています。以下のQRコードからHPに入って頂き、Web経由で患者さんをご紹介頂くことができます（2022年11月からの1年半で56件の申し込みがありました）。



5)「せぼね」外来患者数の推移

表3に「せぼね」外来患者数の推移を示します。2020年度に427人であった総患者数は2022年度以降700人以上を維持するようになっていきますし（患者数の枠は限られていますので、順次状態が落ち着けば一般外来へ移って頂いています）、新患の患者数は126人から165人へと順調に増加しています。

表3. 「せぼね」外来患者数

「せぼね」外来患者数（人）	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
総患者数	427	530	778	763
新患 患者数	126	150	154	165

6) 外来でのブロック治療

「せぼね」外来や通常の「整形外科」外来を受診された患者さんのうち、腰椎椎間板ヘルニアや腰部脊柱管狭窄症による下肢症状が強い患者さんに対しては、仙骨ブロック（仙骨部硬膜外ブロック）や神経根ブロックを施行しています。ブロック後はしばらくの時間、ベッド上で安静にさせていただく必要があるため、原則として火曜日と木曜日の午後 1 時から午後 2 時の間に行っています。各ブロック件数の推移を表 4 に示します。

仙骨ブロックは 2020 年度で 29 件に施行していましたが、年ごとに増加し、2023 年度には 115 件に達しています。

神経根ブロックは 2021 年 12 月より始めました。劇的な効果を期待できますが、痛みを伴う治療法ですので、投薬や仙骨ブロックが無効で強い根性疼痛を訴えておられる症例を選択し、患者さんとよく相談したうえで実施しています。2023 年度には 40 件に施行し、良好な成績をえることができています。

表 4. ブロック施行件数

ブロック施行件数（件）	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度
仙骨ブロック	29	89	89	115
神経根ブロック	0	7	22	40

7) 「せぼね」リハとの連携について

「せぼね」外来や通常の「整形外科」外来を受診される患者さんの中には、強い脊柱変形のためにバランスが不良となり、立位・歩行などが困難になっている方が多くなっています。こういった「成人脊柱変形」の患者さんには、リハビリでの運動指導などを行うことで症状が改善するとの報告がなされています。真星病院リハビリ科では、これらの「成人脊柱変形」患者さんに「せぼね」リハを個別指導いただくことにしています。定期的なリハビリの個別指導に加えて、自宅でのリハビリ実施状況についても点検しながら、患者さんのモチベーションを維持するための手助けをして頂いています。

また、新しい試みとしてノルディック・ウォーキングの講習会も開催するようになりました。ノルディック・ウォーキングでは、二本の杖（ストック）を使用しながら歩行練習をすることで、よりバランスの良い脊柱の状態を獲得することを期待します。患者さんたちの間にも積極的に取り組む姿勢がみられ、効果が確認できるようになってきました。

2. 整形外科手術件数

2021 年度から真星病院で行われてきた手術術式と件数を表 5 に示します。コロナ禍のための病床制限ということもあって、手術件数はさほど多くはありませんが、2022 年度と 2023 年度では 100 件を超える手術を行ってきています（表 5）。

これらの着実な件数増加は、常勤の南川先生による骨折など外傷を含めた整形外科一般の手術、坂井先生による肩鏡視下関節手術、西澤先生による膝関節手術、あるいは石田先生や藤代先生による人工関節置換術などによる成果が実を結び始めた結果だと考えています。

なお、腰椎椎間板ヘルニア症例のうち、保存治療に抵抗性であるため、従来ならば手術が施行されてきた症例の中から、適応のある症例には、1 泊入院のうえ手術室で X 線透視装置を利用した椎間板内酵素注入療法を行っています。良好な成績をえることができていますので、通常の保存治療が無効でも手術を希望されない方など適応のある症例には、積極的に本術式を施行しています。

表 5. 整形外科手術件数

手術分類	術 式	2021 年度 件数	2022 年度 件数	2023 年度 件数
関 節	全人工股関節置換術	3	5	3
	全人工膝関節置換術	3	6	7
	全人工肩関節置換術	0	0	1
	肩関節鏡視下関節唇形成術、腱板縫合術	25	19	17
	関節鏡視下肩関節授動術	0	2	4
	膝関節鏡視下半月板縫合術	2	9	1
	膝関節鏡視下半月板切除術	0	0	3
	関節鏡視下前十字靱帯断裂形成術	0	0	2
	膝関節鏡視下滑膜切除術	1	0	2
	関節鏡下軟骨移植術	0	1	0
	関節鏡下関節鼠摘出術	0	0	2
	関節形成術	1	0	0
	関節滑膜切除術	0	0	1
骨 折	股関節人工骨頭置換術	6	4	12
	観血的骨接合術	23	23	20
	関節内骨折観血的手術	3	9	0
	骨折経皮的鋼線刺入固定術	0	0	2
脊 椎	椎間板内酵素注入療法	10	13	6
その他	骨内異物除去術	7	10	6
	軟部腫瘍摘出術	3	5	6
	手根管開放術	2	2	1
	腱鞘切開術	1	3	3
	腱縫合術	0	1	2
	靱帯縫合術	0	1	0
	四肢切断術	1	0	0
	デブリードマン	1	0	0
	総 計	92	113	101

3. 国内発表と講演会

2023 年度は老人会など一般の方を対象とした講演も含めて、以下に示すような発表を行っています。また、これらの院外活動だけでなく、院内でパラメディカルの方たちとの間でより緊密な連携を維持するために、院内講演会も隔月開催を目途にして開催しています。

1) 神戸脊椎外科カンファレンス (2023.6.9 神戸 神戸医療センター)

鷲見正敏（演者）：「せぼね外来」を受診された「せぼね」以外の症例

- 2) 第4回神戸市北区整形外科カンファレンス (2023.8.5. 神戸)
 鷺見正敏 (演者): 尾骨部痛のため乾癬性脊椎炎を疑った1例
 鷺見正敏 (演者): 椎間板内酵素注入療法 32 例の治療成績
- 3) 第55回脊椎外科同好会 (2023.8.26. 淡路島)
 鷺見正敏 (演者): 有症状成人脊柱変形の推移 —2 年間の前向きコホート調査—
- 4) 第一三共社内 MR 研修会 (2023.9.04. 神戸)
 鷺見正敏 (演者): 椎間板ヘルニア
- 5) 大池見山台健康講座 (2023.9.18. 神戸)
 鷺見正敏 (演者): 腰部脊柱管狭窄症 手術した方が、良い?
- 6) 第141回中部日本整形外科災害外科学会 (2023.10.6)
 鷺見正敏 (演者): 症状を有する成人脊柱変形の推移 —2 年以上の前向き追跡調査—
- 7) 養生塾 新老人の会 (2023.10.13. 神戸)
 鷺見正敏 (演者): 整形外科、とくに「せぼね」の病気
- 8) 令和4年度兵庫県難病医療相談会 (2023.11.06. 西宮)
 鷺見正敏 (演者): 「頸椎後縦靱帯骨化症(OPLL)」
- 9) The 51st Cervical Spine Research Society 2023 (2023.11.29. Las Vegas, USA)
 Yutaro Kanda (演者) Masatoshi Sumi: Predictive risk factors for the incidence of cervical spine instabilities in rheumatoid arthritis: a multicenter prospective study during over 10 years
- 10) 有馬エイジングコート講演会 (2024.1.19. 神戸)
 鷺見正敏 (演者): 「せぼね」の変形
- 11) 第5回神戸市北区整形外科カンファレンス (2024.2.3. 神戸)
 鷺見正敏 (演者): 強い頸部痛の3例
- 12) The 7th International Seminar of Cervical Spine Surgery between Cambodia and Japan (2024.2.16. Phnom Penh, Cambodia)
 Masatoshi Sumi (演者): Clinical Examination & Assessment on Cervical Spine

4. 今後の展望

常勤の南川 剛先生、そして他施設から応援に来ていただいている坂井宏成先生、石田一成先生、西澤勇一郎先生、藤代高明先生など、多くの整形外科医の先生方による支援のおかげで、真星病院の整形外科診療は安定的に発展して参りました。

新病院建設のプロジェクトも進行していて、具体的な工事プランも公開されていますので、今後、さらに整形外科として種々の貢献を目指したいと思っています。そのためには整形外科全体の体制をより緊密なものにする必要があります。真星病院において整形外科に関わっていただいている医療事務・地域連携室・看護師・放射線科・リハビリ科・クラーク・看護助手・介護士などパラメディカルの方々、そして、できれば整形外科に直接関わりがない真星病院のスタッフの方々も含めたみなさんが、ワン・チームとしてうまくスムーズな連携関係を構築させることができればと考えています。真星病院のみなさんが整形外科のことを自分たちにとっての武器として意識頂くことができればと、今後を見据えています。よろしくご支援下さい。

(文責: 鷺見 正敏)

□ 総合診療科

『2023 年度 総合診療科・透析科』



【総合診療科】

総合診療科を受診される疾患は多岐にわたり、感染症、呼吸器疾患、内分泌疾患、循環器疾患、耳鼻科疾患、泌尿器科疾患、脳神経疾患、精神科疾患、皮膚科疾患、健診など例年の通りであった。有熱患者さんを集めて診療に当たることになったので、初診で感染症患者を診ることは少なくなった。地域住民に高齢者が多く疾患も多岐にわたり、かかりつけ医・地域に密着した病院であるためにも窓口として受診していただけると良いと思う。健診などをもっと増やせればと考えている。

＜透析科＞

年間患者の内訳は別表の通りで、受け入れ患者数は減少した。コロナ感染症の影響からかスタッフ不足があり受け入れ患者を制限せざるを得なかったが、今年度末からスタッフの増員があり受け入れ患者を増やせそうである。コロナ感染症の影響も少なくなり、徐々にコロナ渦の前の透析室に戻りつつある様に思われる。また、透析患者にコロナなどの感染が疑われた場合は、隔離するなど予防対応を徹底した。それによって、安定・安心の透析環境を提供することができた。

当院の透析施設としての強みは、療養病棟、糖尿病内科・眼科・整形外科、リハビリテーションなどがあり、合併症などに対して総合的に対処出来る点である。通院が困難になった場合に、リハビリ目的や療養病棟への入院をご希望されてのご紹介はあるが、割合的には外来通院患者が多く送迎車のやりくり等対策を急がれる。一方、訪問リハビリ、介護サービス等を利用して、近隣のクリニックの先生方にご協力頂きながら、可能な限り在宅復帰を目指している。そのため本年度の転入出は昨年に比して多くなった。当院の医療資源を始め療養病棟のあり方などをより近隣病院に周知して、入院患者をよりご紹介いただくようにする努力が必要と思われた。長期透析による合併症で外来通院が困難な患者や原疾患から介助が必要な患者などを受け入れる方針に大きな変更はなく、療養病棟では重症患者や認知症患者など在宅でのお世話ができなくなった患者を受け入れている。透析時の不穏行動の管理や抜針事故予防などスタッフの負担が増えている現状はあるが、高齢化になっていく透析患者に必要とされる施設になり、導入後間もない患者や高齢患者にも onlineHDF を実施し長期療養患者の合併症予防にも力を入れていきたいと思っている。

(文責：司尾 和紀)

【2023. 4. 1～2024. 3. 31 透析患者数の推移】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
患者数	89	89	87	88	87	87	91	88	88	91	89	88	1062
外来	66	65	65	65	66	66	69	67	68	72	72	72	813
入院	23	24	22	23	21	21	22	21	20	19	17	16	249
新規導入数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2
転入数	6	5	4	7	7	7	6	6	5	3	2	2	60
転出数	5	5	6	3	6	4	3	5	4	3	4	2	50
死亡数	2	0	2	2	4	0	0	3	0	1	2	0	16

□ 小児科

『令和5年度 小児科の動向』

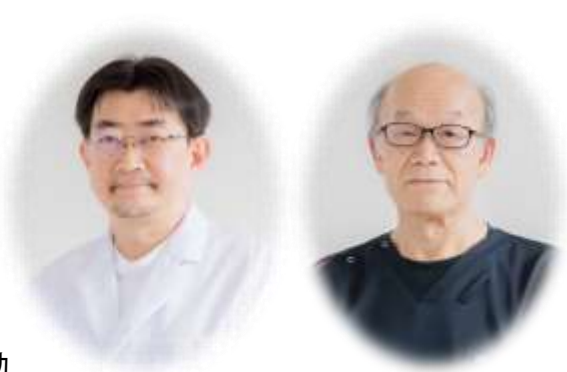
一般外来も院内で行うようになりコロナ前の状況に戻ってきている。

特殊外来としてはこれまで通り、週3回の予防接種外来を行い小児アレルギー外来は佃が舌下免疫療法と食物アレルギーの一部を担当し継続している。

石井先生によろず相談外来はいつも予約がいっぱいで、乳幼児の発達から思春期の心のケアに至るまでこの地域の子供たちにはなくてはならない総合小児科医として、日々の診療に当たられている。

佃が担当する循環器外来もこれまで通り主に先天性心疾患、川崎病後のフォロー、学校検診への対応を行っている。

近隣の病院小児科との連携は順調であり、専門領域の疾患についてはふさわしい後方病院へ紹介している



(文責：佃 和弥)



『一年間の動向』

糖尿病内科においては 2023 年の目標に「継続する組織的な糖尿病診療と糖尿病療養指導」、そして「新病院建設の足固め」を掲げ、上田と押切医師の 2 人体制で糖尿病内科の診療を継続した。新型コロナウイルス感染症が 2 類から 5 類に引き下げとなったが、新型コロナウイルスが撲滅したわけではなく、感染対策を講じた診療体制の構築が必要あった。通院・入院患者にも感染が及んだが幸いにも重症化する症例は少なかった。



かかりつけ診療所・クリニックからの紹介や基幹病院からの逆紹介の患者は順調に増えている。特に、代謝失調状態で入院治療が必要な症例の円滑な受け入れ体制に重点を置いた。また、他科入院症例の血糖管理を行った。

栄養教室や糖尿病教室は集団指導となるため開催は出来なかったが、管理栄養士による個別指導、看護師の療養指導外来・フットケア外来・血糖自己測定指導、薬剤師の服薬指導とインスリン自己注射手技指導など各スタッフが自分の職種の専門性を活かした療養指導に重点を置いた。

2023 年の糖尿病センターの診療活動としては①看護師による療養指導外来・フットケア外来（水曜日）、②月 1 回の糖尿病チームカンファレンス（毎月第 4 火曜）、等が挙げられる。療養指導外来・フットケア外来の知名度も向上しており、利用希望の患者も増えつつある。糖尿病チームカンファレンスはスタッフのレベル向上と意思疎通を図るという目的があり、チーム医療の観点からも重要であった。新型コロナウイルス蔓延で 2022 年はスタッフの自習であったのが、集っての糖尿病チームカンファレンスが再開できた。糖尿病センターの院外活動・研究活動として近隣の開業医諸氏との勉強会（糖尿病地域医療勉強会）は 2023 年 7 月 13 日に開催した。また、学会活動では、関西全域が対象となる第 30 回関西行動医学研究会（2023 年 6 月 3 日）を主催、第 36 回日本臨床内科医学会（福岡、2023 年 10 月 8 日～9 日）で現地発表、第 60 回日本糖尿病学会近畿地方会（2022 年 10 月 14 日）では一般演題座長を務めた。

糖尿病治療の目標の「健康な人と変わらない人生」の実現として、これまでの良好な代謝状態維持に基づく糖尿病血管合併症の発症・進展阻止に加え、高齢化で増加するフレイルなどの併存症の予防・管理が加わった。更には糖尿病が原因となって社会的不利益や云われない差別から糖尿のある人を守るという姿勢も重要視される。弛まなく患者を支える診療と新たな療養指導・支援を目標に掲げ続け、かかりつけ医として患者に寄り添った診療を心掛けて行きたい。

（文責：上田 容生）

□ 精神科

「一般救急・精神科等地域連携モデル事業（リエゾン事業）」

平成 30 年度より神戸市北区医師会における在宅医療充実強化推進事業の一部として、一般救急・精神科等地域連携モデル事業（リエゾン事業）が開始された。

真星病院においては、入院中の患者様における精神症状（認知症を含む）への対応困難事例について、兵庫県立ひょうごこころの医療センター精神科リエゾンチーム（医師・看護師等）の訪問により専門的なアドバイスを頂くことで同疾患に対する対応力の向上を目的としている。

令和 4 年 12 月よりリエゾン事業で構築した連携体制を発展させ、兵庫県立ひょうごこころの医療センター精神科専攻医による毎週の定期精神科コンサルを開始、病棟での多職種カンファレンスへの参加、患者の診察、主治医への処方調整の提案、看護師への患者対応の助言等を行って頂いている。

令和 6 年 1 月よりさらに連携体制が発展し、当院において毎週火曜日の午後に精神科外来を開始。医師はこれまでリエゾン事業にメインで出務して頂いていた兵庫県立こころの医療センターの茂木香織医師にご担当頂いている。入院患者における精神科コンサルも継続しているため外来枠に限りがあり、現在は当院医師からの紹介患者のみを対象とした外来診療を行っている。相互の連携として、当院循環器内科の大石醒悟医師が令和 6 年 1 月より毎週水曜日午前に兵庫県立こころの医療センターに出務し、内科診療を行っている。

令和 5 年度の精神科診療実績

内容	件数	症状等
入院患者に対するコンサル（定期）	58 件	せん妄、不眠、食欲不振、等
入院患者へ対するコンサル（緊急）	1 件	徘徊・不眠
外来診療（R6.1 月～R6 年 3 月）	13 件	適応障害、抑うつ、等

地域包括ケア部 課長 真保 友仁

コロナ禍が落ち着き、指定感染症から5類に引き下げられ通常の業務に戻りつつある1年間でした。職員が一体となってコロナと対峙した日々を終え、少しずつコロナ禍前の状況に戻っていく中、人材不足という大きな課題にぶつかり病床を制限しながら日常診療に対応しなければならず、地域の皆様には大変なご迷惑をおかけしました。人材も少しずつ増加し全てではありませんが2024年には制限していた病床も開放していける方向に進む第1歩の年になりました。



後継者であるご子息が戻ってこれられ人事改革や組織改革、救急受け入れ、DPC 急性期病床の在り方についても病院全体を巻き込み大きな土台作りの1歩を踏み出したとしました。

減収減益で終わった1年でしたが斜陽ではなく飛躍につながる1年だったと感じています。医療環境が益々悪化する中で地域に必要とされるまほし会に成長するため、これから大きく変わっていくことと期待しています。

法人の管理職を一堂に集めた管理者研修も行い組織としても成長の第1歩を踏み出しました。遅れていた新病院建設も本格的に動き出しゴールも見えています。大きな借財も抱えながら前進していかなければなりません。2024年度以降は逆境を乗り越え1年1年まほし会が成長を遂げ、新病院竣工を迎えるべく新たな気持ちで私たちがやるべき医療や介護、地域に必要とされる法人づくりに向けて確実に階段を上っていく決意です。

理事長補佐 櫻井寛司



『1 年を振り返って』



2020年に始まった新型コロナウイルス感染症が2023年5月には指定感染症2類から5類へ移行し、長期間にわたったコロナ禍が終わる気がした。終わったわけではなく政策緩和のステップに移行しただけだといえるが、それでも気分は一気に変わるだろうと警戒した。感染対策を講じた上での緩和でなければならないのは、私達が医療従事者だからである。

この3年間で失ったものも多い、年齢、能力、社会的地位にも関係なく大切なのは命であり、本来、命が助かっているだけ奇跡なのかもしれないが、その命を懸けた戦いの中で、疲弊し人間関係のギクシャク、晴れない気持ちやストレスにより、命とは別の大切なものを失った人も多いと思う。

当看護部においても、例外ではない。2016年～2020年の平均看護師数は97.2人に対し、2023年4月1日看護師常勤者61人、非常勤17人、准看護師 常勤3人 非常勤2人 合計 83人

介護係も同じく5年平均は57人、2023年には、常勤21人非常勤24人合計45人でのスターとなった。私が看護部長になり、ゆっくりと積み上げ増やしてきた人財を失い、この人数で、何ができるのか、真星病院の医療体制の再編成のため、大石醒悟先生が着任されるが、果たして看護部としての協働し、貢献することができるのか不安でしかなかった。しかし、失ったものも多かったが得たものもあった。

感染に対する知識と技術の習得、実践の重要性へ理解もその一つといえる。また、身近には、オンライン、IT化の波が一気に上がったことである。研修や会議、面接などに大いに活用できる。

オンラインとリアルを混ぜ合わせたハイブリッド型を活用し、対話の文化や生活習慣にどのように組み立て、創造していくかが重要になってくる。今までの方法に凝り固まることなく、柔軟に切り替え、個々の目標を定め具体的に一つ一つ修復し、新しい発見を喜びに変えて、スタッフと協働することから再スターを切ろうと決意した。

看護部の目標には、「新病院に向け基盤となる組織の充実を図る」とし、1番に病院機能の充実を図るための人材確保をあげた。総務課と協働し、介護では、外国人雇用を進めた。業者へのアクションやスカウトにより求職者、面接の方は増えた。できうる限り最短での面接希望時間に合わせ、1次面接の作文の削除、二次面接の一次と同日実施、自己応募優遇制度や職員紹介制度の充実を図った。

結果として1年間入職者数は、看護師常勤9人 非常勤4人 介護係常勤4人非常勤13人であった。

早期離職者もあり、離職率は、看護師准看護師計で10.8% 介護の介福12.5%CWで14.3%であった。

2024年4月1日時点と比較すると、看護師2名増 准看護師1名減 介護係13人増 であった。

求人活動のみでなく、入職者へのサポート体制への強化とともに、副院長中心に始まった、カイゼンWGでの会議に参加し、働きやすい職場環境改善に取り組んだ、職員のモチベーションや心理的安全性に影響力を高めていると感じている。

2番目の目標として、病床機能を最大限生かすとした。

5月以降は、病床管理カンファレンスへの医師の参加もはじまり、協働した活動ができたが、病床の拡大には至らなかった。各部署の役割を意識し、患者ケアの充実と退院支援に対する多職種協働により、限られた病床を最大限活用し稼働率を担保し、回転率でカバーし実績へ貢献した。

5月の看護の日には、地域の方々へ「この街であなたらしく生きるため、あなたの思いを伝えよう」ACP：人生会議についてイベントを開催した。興味を持った患者さんや地域の方や職員を含め、「私のもしもノー

ト」は、好評であった。病院内で活用できるように、電子カルテ内文書作成の同意書へ、意思決定支援「当院における医療・ケアの基本的方針」を策定し、文書保存出来た。そして意思決定支援2「もしもの時の私の希望」病院版として文書保存した。患者の尊厳を大切に、家族とともに考え、倫理的課題として向き合いケアに活かすことが、今後の課題であると考えている。

地域との連携や地域交流活動をコロナ前へ戻し、トライやるウィークの受け入れ ふれあい看護体験 地域イベントへの救護班活動参加、など地域へ貢献した。今後の課題は、この地域活動も一つのチーム活動として、年間計画に組み込みたいと考えている。

監査では、7月の医療監視・11月近畿厚生局の立ち入り監査が実施されたが、大きく指摘はなく、評価と捉えた。

3番目の目標である人材育成では、医療の質の担保に欠かせないコミュニケーション能力を高め、管理職として、病院の向かう方向性を理解し、具現化し組織として自部署や自己の活動目標を定めるため、院外研修会場にて、全管理者対象で管理研修が開催された。看護部管理者も全員参加でき、進むべき病院方針を理解できたと言える。

2月には、同じく管理者中心に院外講師を迎え、ハラスメント対応研修を開催し、ハラスメントについて正しい知識をもって日々の業務に活かすことを共有できた。

人材確保とともにその後の人材育成は、特に重要といえる、「人が育てば企業も育つ・人材こそ最大の資源」の考えのもと、2023年度は、ラダーチャレンジが容易に受けやすく、自己のレベルを意識し向上心を持って活躍できるよう、看護師全員のチャレンジレベル設定を行い、2024度より全員参加を必須とした。教育委員会を中心に看護師の4つの力（ニーズをとらえる力・ケアする力・協働する力・意思決定を支える力）に3つの力（マネジメント能力・教育、研究能力・人間関係、役割遂行能力）を加え、質の高い看護ケアの提供が、病院評価へ繋がるよう看護師能力育成に力を注いでいる。

医療機器管理課では、内視鏡をはじめとする検査部門への業務拡大を目指し、活動を始めた。

2024年度は、看護部から眼科・クラーク科が部署異動となるが、今後も協働し活躍できると期待している。

1年間、看護部の活動・運営にご協力いただいた皆様に心から感謝しています。

2024年度は、【革新！新時代の医療・看護を担うために】～病院理念に基づき新たな価値を創造しよう～とスローガンを掲げ、病床拡大を一番の目標とし、組織的に貢献できるよう取り組んでいきたい。

（看護部長：園田 慶子）

2023年度看護部方針

【新病院に向け基盤となる組織の充実を図る】

病院機能の充実と展開

1. 人材確保：看護師配置基準（10：1）（13：1）（20：1）を担保できるよう人材を確保する
 - 1) ワークライフバランス実現にむけ、アンケートによる阻害因子分析結果を基に改善案を提案し改善に向けて取り組む
 - 2) 人財確保に向け人事部との連携を図り、効率的な病棟運営に繋げる
2. 病床機能を最大限活かせるよう協働する
 - 1) 多職種連携を図り病床運営を行う
 - 2) 一般病棟において質の高い周術期看護を提供する
 - 3) 安全で質の高い透析医療と看護を提供する
 - 4) 安全で質の高い手術室運営と看護力の強化を図る
 - 5) 療養病棟の看護体制の再構築に向けて取り組み、より安全で安心できる療養環境を提供する
 - 6) 人生の最終段階における医療・看護・介護が協働できる体制を構築する
 - 7) 認知症予防対策と認知症ケアに関する医療連携体制の構築とケアの充実を図る
- ①リエゾンチームの活動継続②認知症ケアチームの活動推進（ケア加算継続）
- 8) 看護の質評価と看護記録・介護記録の充実を図る
- 9) 医師事務作業補助業務の拡大（医師・看護職員の負担軽減対策強化）
メディカルクラーク科としての役割拡大・業務整理（業務の効率化）を行う
3. 外来機能の充実を図る
 - 1) 外来機能の充実を図る
 - ① 外来手術・検査に対する質の高い医療・看護が提供できる体制を強化する
 - ② かかりつけ医機能が果たせるよう看護師の役割を発揮する
 - ③ 総合サービス課との連携による受付システム・予約システムの評価と修正を行う
 - ④ 糖尿病看護外来の継続・チーム活動を支援する
 - 2) 病児保育室の受け入れシステムを変更し、受け入れを拡大する
4. 介護医療院の看護・介護の質向上を目指す
 - 1) レクリエーションの充実を図り、年間計画を作成する
 - 2) 介護と連携しケアの充実を図る
5. 医療安全管理体制を担保する（安全管理者全員参加）
6. 感染管理の充実を図る（継続）
7. 看護部災害対策委員会活動を行い、災害対策マニュアル・BCPを完成させる
8. 人材育成：教育活動を継続する
 - 1) 教育推進室の活動を支援する
 - 2) 認定看護師・特定行為研修参加看護師の推薦を行う
9. 病床稼働率を確保する
 - 1) 実績（24500万円／月平均を達成する）
 - 2) 4E（1単位）70%以上28床／日 5E稼働率85%以上22人／日
 - 3) 療養病棟（2単位）95%（61床中：平均58床）介護医療院（1単位）ベッド稼働率98%

2023年2月看護部長 園田慶子

【看護部活動報告】

年間

看護部幹部会開催 1～2回／月 年間 14回 開催

月間

4月

- 看護部年度目標・病棟目標発表
- 新入職者オリエンテーションの実施
- 介護係求人活動について検討 外国人雇用推進の方向で面接実施
- 教育推進室より年間教育スケジュール発表 youtube 動画研修の配信スタート
- 懸濁ボトルについて検討し、経管栄養の患者の内服薬投与へ採用（コスト削減へ繋がった）
- 春・秋 トライやるウィーク 2023 年度受け入れ再開を決定

5月

- 看護の日イベント開催 5/12・13「この街であなたらしく生きるため、あなたの思いを伝えよう」ACP/人生会議について玄関ホールで開催（同時看護・介護職 就職説明会開催）
- 2023 年度ふれあい看護体験受付開始
- 内視鏡検査介助に、OE 活用（新入職）について検討：連携を強化した
- 認定看護管理者コース（ファースト）参加推薦 年度内 1 名決定
- 病床管理カンファレンスへ医師の参加が決定
- コロナ感染症、5 類への変更に伴い、院内ゾーニング変更・感染者の隔離期間や職員の自宅待機期間の変更・特休制度中止が決定去れ、職員周知を図る

6月

- 副院長中心に、カイゼン WG 活動開始（幅広く職場環境改善に取り組み、求人活動に繋げる）
- 春のトライやるウィーク 唐櫃中学校 2 名受け入れ実施
- 拘縮が強い患者へのケアについて検討し、研修会開催
- 拘縮を含めた患者ケアの充実と安全・患者の快適さを考慮し、病衣変更について業者と打ち合わせ開始
次年度に向けて、製作から交渉

7月

- 医師の依頼により麻薬マニュアルの変更
看護師側のドラックする場合は、薬剤師で処方箋持参の上、担当医師との確認後払い出しを決定
- 7月25日 医療監視実施
- 透析室：コロナ禍で中止していた外来患者への昼食再開を決定

8月

- ふれあい看護体験 神戸市内高校生 2～3 年生 9 校 12 名 生徒の受け入れを実施
- 花山・大池・箕谷 夏祭りの救護班の派遣

9月

- 退院支援パンフレット作成（5E NS）各病棟で活用できる事を報告
- 9/21～10/27 認定看護管理者課程（ファーストレベル）1 名参加
- 血液ガスキット BD を採用中 使用しにくい → 他メーカーへデモ依頼

10月

- 10/17 櫻井補佐より機能評価勉強会開催
- 10/16～コロナ有熱診療を院内へ変更、1 診察 14：00～16：30 外来看護師で対応（必要時応援）

11 月

- 近畿厚生局立ち入り監査
- 監査指摘事項を共有

12 月

- 糖尿病療養指導士への活動理解と支援を強化出来るよう活動内容の共有
- 救急カート 院内すべて統一を図る

1 月

- 病床運営について検討
- 離床センサー件数を身体拘束から除外することを決定
- 1/9～1/19 目標管理・ラダー評価期間を設定し実施

2 月

- 2/6 全管理職対象ハラスメント研修実施 「院外講師：杉本登志子 社会保険労務士」
- とろみサーバー導入について検討開始

3 月

- 認知症ケアチームの活動を中身のある活動について協議、次年度進めていくことを決定
- OE 科の業務拡大：内視鏡実施日の追加に向けて、担当者の育成を開始
- 病児保育室：2023 年度実績 800 人超 受け入れ定員数増への届ける方向で決定
- 一般病棟病床拡大に向けて人材確保対策強化を共有
- 2024 年度 新入職オリエンテーションの実施計画 (4/1 月)

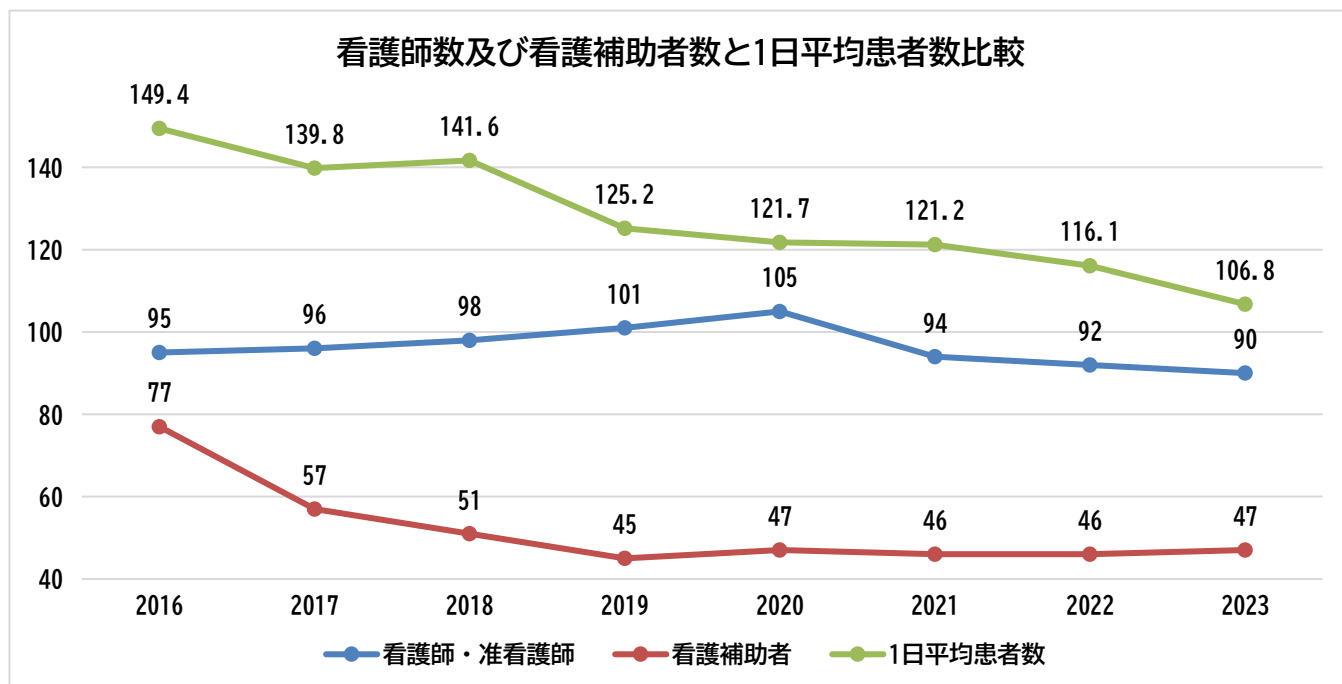
2024 年度 理事長方針 看護部方針 部署目標 発表

【病床稼働実績】

2023年度 病床稼働実績

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	月平均	次年度目標
救急受け入れ件数	33	39	36	63	72	36	54	46	41	75	60	60	615	51	70
手術件数	97	89	86	104	64	112	93	87	78	103	70	92	1,075	90	100
透析患者数	89	89	87	88	87	87	91	88	88	91	89	88	1,062	89	95
4E	1日平均入院数	25.2	23.9	23.4	23.3	25.2	24.0	25.2	25.0	24.6	26.1	26.9	25.9	25	34
	平均在院日数	11.9	13.2	12.6	12.6	12.0	10.1	10.1	11.3	9.8	10.5	13.7	10.9	12	12
	単価	45,783	41,862	47,684	46,316	46,804	48,460	44,699	48,473	45,846	46,647	48,610	46,080	46,439	
5E	1日平均入院数	22.5	22.6	22.1	15.8	20.3	23.8	22.7	22.4	19.6	22.6	21.3	23.3	22	23
	平均在院日数	22.7	28.0	17.9	17.9	14.6	16.0	16.6	18.5	15.9	14.1	29.8	18.2	19	18
	単価	37,726	38,186	40,087	43,073	39,298	46,267	41,612	40,013	43,615	43,145	37,797	38,885	40,809	
3F	1日平均入院数	39.6	38.9	38.5	38.5	37.2	37.5	37.8	36.4	35.8	37.1	38.1	39.3	38	38
	単価	24,482	24,933	25,289	25,195	24,941	25,764	25,497	25,678	25,038	25,583	26,281	25,484	25,347	
2F	1日平均入院数	23.0	22.8	22.3	20.6	19.7	20.9	20.8	21.8	21.2	22.3	21.2	22.1	22	22
	単価	20,919	20,676	20,506	21,218	21,500	21,554	21,835	21,801	21,479	21,308	21,762	21,866	21,369	
													病床平均	106	117
介護療養	1日平均入院数	17.6	17.8	18.0	17.9	17.7	17.2	17.8	17.3	18.0	17.9	16.7	18.0	17.7	18

【看護部人員の動向】



職種／年	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023
看護師	86	86	87	90	96	88	87	85
准看護師	9	10	11	11	9	6	5	5
看護補助者	77	57	51	45	47	46	46	47
計	172	153	149	146	152	140	138	137
1日平均患者数								
年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
一般	34.9	30.8	31.5	33.7	30.7	27.6	24.4	25.0
地ケア	24.0	22.6	22.0	22.8	21.8	21.6	22.1	21.8
療養	90.5	86.4	88.1	68.6	69.2	72.0	69.6	59.9
全体	149.4	139.8	141.6	125.2	121.7	121.2	116.1	106.8
	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023
看護師・准看護師数	95	96	98	101	105	94	92	90
看護補助者数	77	57	51	45	47	46	46	47
1日平均患者数	149.4	139.8	141.6	125.2	121.7	121.2	116.1	106.8

【職種別離職率】

離職率	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023
看護師	15.1%	29.1%	9.2%	8.9%	6.3%	10.2%	12.6%	10.6%
准看護師	11.1%	20.0%	9.1%	9.1%	33.3%	33.3%	0.0%	20.0%
看護補助者	5.2%	14.0%	25.5%	24.4%	14.9%	10.9%	17.4%	8.5%
臨床工学技士	0.0%	28.6%	28.6%	12.5%	44.4%	0.0%	0.0%	14.3%
クラーク	33.3%		18.2%	8.3%	7.7%	13.3%	5.9%	6.3%
保育士	16.7%		0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%
眼科(ORT)	0.0%	40.0%	66.7%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	33.3%
眼科(OMA)	28.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
助手								0.0%
看護師・准看護師計	14.7%	28.1%	9.2%	8.9%	8.6%	11.7%	12.0%	9.8%
計	12.5%	24.7%	13.4%	11.0%	12.2%	10.3%	12.9%	10.2%

2018年に神戸市北区医師会における在宅医療充実強化推進事業の一環として、兵庫県立ひょうごこころの医療センターとのリエゾン事業が開始となり、今年で5年目を迎えました。当院にとって、精神科治療は専門外であり、ひょうごこころの医療センターとのリエゾン事業は、私たち医療従事者にとっても、患者にとっても、とても大切な機会となっています。

毎週火曜日に、ひょうごこころの医療センターから精神科の医師を迎え、入院中の患者の、認知症の周辺症状や、せん妄、摂食障害や不眠、精神科疾患の悪化に対し、問診を行い、治療薬の選択、使用方法や使用量、日常生活援助へのアドバイスをいただいております。今年度は、決められた枠内で当院医師から紹介された外来患者の診察も始まっています。小児科からの紹介も多く、当院受診後、こころの医療センターへの受診につながる場合もあります。

次年度は認知症チームによる活動も強化させ、リエゾンの取り組みと共に、安全な入院生活の継続に繋がっていきたいと考えています。

【病床運営について】

当院には、一般病棟・地域包括ケア病棟・療養病棟・介護医療院と役割の異なった病棟があります

当院に入院される患者は、当院かかりつけの患者や救急搬送で入院となった患者以外にも、三次救急での治療が終了し、治療の継続が必要な患者、治療後、生活の場を変更しなければならなくなり、施設への退院調整を行っていく患者、術後のリハビリが必要な患者、継続的な医療の介入が必用であり、在宅、施設への退院が困難な患者、今後、当院での訪問診療を開始し、在宅サービスの調整を行い、地域で暮らしていくためのサポートが必用な患者等、受け入れさせていただいております。

又、独立行政法人自動車事故対策機構ナスバとの連携で、自動車事故により、重度障害を負った方のレスパイト入院も受け入れており、短期入院協力病院として介入を開始し15年が経過しました。コロナ禍で中止をしておりましたが、交通外傷を負った家族を持つ、家族同士の意見交換の場も開催しております。

他院からの紹介入院に関しては、ベッドの調整を行い、できるだけ早期の入院受け入れを努力しておりますが、人員不足やコロナクラスターの影響で、入院調整に時間を要すこともありました。

真星病院の強みである、様々な機能を有する病棟の運営を活かし、入院前面談や紹介状からの情報、紹介元連携室との連携を通じて、入院していただく病棟を選定し、治療に専念していただけるように取り組んでいます。

又、今年度は面会時間も拡大されたことで、転院患者の中には、面会制限がないから、真星病院を療養の場にしたという方もおられました。感染管理には意識を高く持ち、これからも取り組んでまいります。

入院患者及びその家族には、それぞれの病棟の役割や特性を十分に理解していただき、療養生活を送っていただきたいと考えております。特に、療養病棟を希望される患者、家族に関しては、ソーシャルワーカーや医師と共に、入院前面談を行い、当院を知っていただくと同時に、患者の入院前の様子や、今後の生活について、又、家族の思いなどを聞き取り、共に考えていく時間を作っています。

入院後は、患者の病状や治療内容、治療に係る日数、退院後の生活の場などを考え、医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、理学療法士、ソーシャルワーカーなど多職種でカンファレンスを行い、病床の運営を行っています。

これからも、連携を密にとり、患者様、ご家族様に安心して入院生活を送っていただけるように取り組んでまいります。

□ 療養病棟科

看護師 21 名、CW22 名、ケアアシスタント 3 名、クラーク 2 名

3 階病棟：48 床、2 階病棟：27 床

2 階病棟は、主に長期療養を目的とする患者様を受け入れております。人員不足により病床数を削減し、23 床での稼働を継続しています。3 階病棟は透析患者を中心に受け入れ、透析室と連携し、シャントの管理を行っています。

両病棟では、人員不足が共通の課題となっています。そのため、3 階病棟のスタッフが 2 階病棟への応援を行い、人員配置の最適化を図っています。この応援体制により、両病棟間の連携が強化され、患者様に対するケアの質を維持しています。

また、両病棟ともに、退院支援に力を入れており、地域連携室と協力して患者様が在宅や施設で安全に過ごせるよう支援を行っています。CW 中心に外国人スタッフの雇用を推進し言語のサポートし円滑なコミュニケーションと高品質なケアの提供を目指し、スタッフの多様化を活かしチーム医療の質の向上を目指しています。

竹田悦子（2 階・3 階療養病棟 師長）

□ 介護医療院

看護師 8 名、CW6 名、ケアアシスタント 1 名、ケアマネージャー 1 名 クラーク 1 名（育休中）

介護医療院は 18 床で運営しています。2023 年度は 4 名の看取りと 4 名の入所を受け入れてきました。

介護医療院でもスタッフの不足はありますが、その中でも毎日感染対策に注意しながら体操や昭和歌唱を歌い、少しでも生活の楽しみを感じて頂けるようなレクリエーションを行ってきました。また、季節感を感じて頂けるよう廊下のディスプレイや運動会やクリスマス会なども開催することができました。

些細な事ではありますが、毎日の生活に少しでも彩りが加わるように、これからも丁寧に生活の援助を行っていききたいと思います。

介護医療院 管理者 長井由美



□ 腎・透析センター

看護師 6 名 臨床工学技士 10 名 介護福祉士 1 名
CW 1 名 クラーク 1 名

スタッフ不足から透析患者月平均 88 名と例年になく少ない患者数だった。転入患者 60 名、転出患者 50 名、死亡患者 16 名で転入出については例年を上回っていた。本年度は大きな感染症の発生もなく比較的安定した透析室だった。

外来患者の比率が大きくなっておりベッドコントロールに難渋している。

新規導入患者数は 2 名で、導入後は 2 名とも当院へ通院されている。引き続き導入間もない患者や高齢患者にも onlineHDF を導入し長期療養患者の合併症予防にも力を入れていきたい。

スタッフの増員により今後は患者受入数を拡大していく予定である。

今後もスタッフ一同新しい取り組みを行っていききたいと考えている。

草葉 ユカ（腎・透析センター 室長）



□一般病棟科

4 東一般病棟では、急性期病棟として主に救急搬送等の緊急入院や整形・外科手術、眼科手術の受け入れを行っています。病床制限下での運営が続いていますが、限られた病床の中でもできる限り入院早期から退院支援を行い、患者さんが安心して退院できるよう、また安心して他病棟へ転棟でき、急性期治療を必要とする患者の受け入れがスムーズに行えるよう退院支援にも力を入れています。

また、昨年に引き続きコロナウイルス感染者を受け入れながら運営しており、スタッフ一丸となり感染対策に取り組む日々が続きました。

まだまだ厳しい状況は続きますが感染対策をより強化させながら、安全に看護を提供出来るようスタッフ一同頑張ります。

一般病棟 師長 坂野 楓

□外来科

今年度は、大石醒悟医師の着任により救急外来の受け入れ体制に大きな変革があり、受け入れ人数の拡大が推進されました。しかし、スタッフの減少による対応困難な状況に直面し、思うような運営ができませんでしたが、人員調整・業務改善により年度後期には比較的安定した運営につなげる事ができました。また、新たな取り組みの多い年度でもあり新しい検査や業務に取り組む際には、患者が安全・安楽に満足して受けてもらえるよう日々試行錯誤しながら改善してきました。来期は眼科手術においてもタスクシフトを行う予定であり、本来の看護師業務として外来から手術に向かう患者の関わり密に行うよう改善を行い質の高い「外来看護」を行っていききたいと思います。

次年度もたくさんの改革があると思いますが、現在の外来の良い所を引き継ぎながらも新しい可能性に向けてスタッフ一同日々努力をしていきたいと思っています。

外来科 科長 三木 康臣

□手術科

2023 年度の手術件数は前年とほぼ同等の 1075 件でした。整形外科では、関節鏡下 ACL 再建術を初めて実施しました。メーカーの説明会やチームでの事前学習など入念に準備を行い、スムーズに手術を実施することができました。

中央材料室では、洗浄機の故障時に手術器材の洗浄を外部委託することがあり、一台での稼働の課題も見えました。

今後も各部署と連携し「手術を受ける患者さんやその家族の心に寄り添う周術期看護」の展開と実践を追求し、質の高い周術期看護を目指します。

手術科 師長 小南 慶子



□ 医療機器管理室

医療機器管理室の主な仕事は透析室業務、医療機器管理業務、医療ガス設備の点検、医療機器と医療ガスに関わる研修の実施でしたが、本年度より上部・下部内視鏡検査業務にも携わるようになりました。

透析室では透析治療に従事しながら、透析監視装置・水処理装置・透析液溶解装置・透析液供給装置などの定期的な保守・点検を実施しています。次年度の装置更新のために、各メーカーの勉強会の実施や病院見学に行き情報収集を行いました。

医療機器管理業務では院内の人工呼吸器・輸液ポンプ・シリンジポンプ・人工呼吸器、除細動器などの使用前点検・日常点検・使用後点検・定期点検を実施し、常に安全に使用できるようにしています。今年度は医療機器安全管理研修として輸液ポンプ・シリンジポンプの使用方法和人工呼吸器の使用方法的勉強会を各病棟で開催しました。

医療ガス設備の点検としては、1日1回のラウンドを実施し、異常の早期発見・対応ができるように努めています。医療ガスを正しく安全に使用できるように、学研ナーシングを利用した研修も実施しました。

内視鏡業務では介助スタッフとして内視鏡装置の点検、スコープの洗浄、治療の介助(ポリペクトミー、EMR)を行っています。安全に検査ができる環境作りに取り組んでいます。

医療機器管理科 西垣 香織

□ 病児保育室

【病児保育室活動報告】

2023年度は、COVID-19感染症が5類となり、病児保育利用件数は増加傾向である。一方では、コロナ禍による在宅ワークやWEBによる面接や会議開催も可能になったことから、休みやすい環境となった職場も多く、受入数が伸び悩む施設も多かった。

当院においては、2月より導入した「あずかるこ」予約システムとホームページの活用により、登録者数は434件まで増加した。そして受け入れ調整においては、受け入れ確定、確定後のキャンセルやキャンセル待ちキャンセルなど、日々流動的であるが、それに対して保育士同士で連携し、Web上の手続きを素早く行う事で、預かり可能人数を最大限確保し、対応できるよう活動した。その結果、病児保育室稼働実績としては、過去最多の実績となり、延べ人数856人となった。月平均は71.3人 1日平均 3.5人であった。その内訳として、年齢別では、1～2歳時が、全体の1/3を占めており、疾患別では、上気道炎、インフルエンザ、感冒で、半数以上を占めている。感染症では、ノロやロタ・ヘルパンギーナ・手足口病・RSウイルスなどであった。

Withコロナとして、感染対策の継続、病児保育室内での受け入れ前診察、受け入れ後の消毒作業等を徹底し、安全で安心できる病児保育環境を提供出来るよう活動したが、コロナ感染症の受け入れ段階とはいかなかった。

医師・看護師・保育士との連携が重要であり、病児保育運営会議を開催し、様々な視点から考え、協議し、互いが納得した上で密なコミュニケーションのもと、連携し活動できたと言える。次年度は、更なる広報活動のため病児保育室ブログの掲載など、ホームページのリニューアルに先駆けて、掲載予定である。

引き続き、地域の子育て支援としての役割が果たせるように、取り組んでいきたい。

看護部長 園田 慶子

【病児保育室実績報告】

月別受入数延べ人数 昨年度比較 2023 年度（2023 年 4 月～2024 年 3 月）

2022 年

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
延べ人数	15	22	17	24	27	34	38	33	31	35	66	58	400

月平均	1日平均	稼働日
33.3	1.6	246

あずかるこ導入

2023 年

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
延べ人数	53	68	74	87	77	81	73	64	80	49	91	59	856

月平均	1日平均	稼働日
71.3	3.5	243

『疾患別年間受け入れ数 2 年比較（2022 年 1 月～2023 年 12 月）』

2022 年

インフルエンザB	0
インフルエンザA	0
喘息様気管支炎	19
気管支炎	12
上気道炎	124
感染性胃腸炎	21
ヒトメタニューモ	5
アデノウィルス	1
下痢	2
溶連菌感染症	0
中耳炎	4
扁桃腺炎	6
感冒	34
急性胃炎	2
急性咽頭炎	0
ヘルパンギーナ	3
手足口病	3
てんかん	0
突発性発疹	0
RSウィルス	11
水痘	0
おたふくかぜ	3
その他	19
合計	269

2023 年

インフルエンザB	0
インフルエンザA	133
喘息様気管支炎	22
気管支炎	23
上気道炎	237
感染性胃腸炎	50
ヒトメタニューモ	9
アデノウィルス	22
下痢	6
溶連菌感染症	7
中耳炎	21
扁桃腺炎	10
感冒	108
急性胃炎	0
急性咽頭炎	9
ヘルパンギーナ	45
手足口病	16
てんかん	0
突発性発疹	9
RSウィルス	9
水痘	1
おたふくかぜ	3
その他	78
合計	818

『年齢別年間受け入れ数 3 年比較 2021 年～2023 年（1 月～12 月）』

1 月～12 月

年齢	2023 年	2022 年	2021 年
0歳	19	18	9
1歳	177	77	20
2歳	142	69	69
3歳	113	46	24
4歳	123	21	14
5歳	109	14	14
6歳	52	14	3
7歳	33	8	6
8歳	34	2	0
9歳	10	0	2
10歳	1	0	0
11歳	2	0	0
合計	815	269	161

開設日数	243	243	233
1日平均	3.4	1.1	0.7
キャンセル	469	50	91

『令和5年度を振り返って』

診療技術部と事務部が統合し総合支援部となり3年目ですが、今年度はそれぞれが新たな事にチャレンジした1年でした。

診療技術系は循環器分野における知識・技術の向上に励み、CPXなど機器の導入も行いました。事務系では人事・労務システムを導入し、各種手続きをペーパーからオンライン上へと変更しました。また、駐車場を一部コインパーキング化し、運営委託することで、受診される方に有効に利用して頂けるようになりました。

年度末には外部の先生をお招きし、院外で初めての管理職者研修を開催しました。途中、昼食が届かないというトラブルもありましたが、60名の管理職者による対応力で無事に乗り切る事が出来ました。次年度からはさらに救急課と眼科、クランク係が加わり120名程の組織となります。技術職・事務職の専門家として診療部、看護部、地域包括ケア部と協働し、地域に必要とされる医療・介護を提供出来るよう努めていきたいと考えております。

総合支援部 部長 杉原 麻理子

□ 薬剤科

2023年度は大石醒悟医師の着任と共に始まりました。近年新しい心不全治療薬が発売され、また既存の糖尿病薬に心不全治療薬としての適応が増えるなど大石医師が専門とされている循環器領域の治療に変化が起っています。私達薬剤師はこうした新しい知識を吸収し患者様がより良い治療を受けられる体制作りの力になればと考えています。

薬剤科ではこれまで同様、入院患者さんの薬の準備を始め院内の薬に関する様々な業務に取り組みました。患者様は年々高齢化し複数の疾患を持つ方が少なくないため、服薬指導などを通して得られた情報を他職種のスタッフに発信することで入院・退院を通してシームレスな薬物治療の継続を目指しました。その他にも他部署と連携し救急カートの院内統一化、救急外来に配置する薬剤の見直し等安全な治療へも貢献しました。また、入院患者様だけでなく、訪問診療の患者様の緩和ケアにおいて訪問看護師と連携し医療用麻薬の調剤を柔軟に行いました。

科内の職員の働き方も時短勤務、産休・育休取得とさらに多様化しました。また、近年特にコロナ後はインターネットを介して学会参加や研修を受講することが出来るようになり学び方も変化しました。薬剤科ではこうした機会を上手く利用し一人一人が自分のペースで働き学び続けています。

今後も信頼され働きやすい部署であり続けられるよう努めて参ります。

2023年度服薬指導算定件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
件数	155	177	184	155	138	139	137	118	125	139	103	140

平均 142 件/月

薬剤科 科長 元持 富見代

□ 放射線科

令和 5 年度の放射線科は、人員的に変化はなく 5 名体制の配置を維持しております。

放射線科業務に大きく関わる整形外科は、常勤医師 2 名と非常勤医師 3 名の 5 名体制を維持し外来診療枠は月曜から土曜にまでと変わりなく、撮影件数・手術件数とも昨年度とほぼ同様となりました。手術件数は、関節鏡手術(31 件)を含む 74 件、エックス線 TV 透視装置を使用する神経根ブロックが 62 件でした。また科員一人が担当(検査科と共同)している腹部超音波検査は 92 件でした。

放射線機器装置的に更新になったものは、病棟・手術室撮影用の画像読み取り装置で FPD(フラットパネル検出器)を導入しました。これにより被曝線量低減につながるとともに、撮影画像の表示即時性が向上しトータルの撮影時間短縮に貢献し患者様の負担軽減になると思われます。これにより当院の画像読み取り系機器は FPD で統一されました。

今年度 4 月より開始になった心臓 CT の検査数は全 9 件でした。撮影のみならず撮影後に行う画像処理・画像作成に関して精度を上げ、診断能向上に貢献し件数増加につなげていきたいと考えます。現在、造影剤を使った造影 CT 検査は腹部領域がほとんどの件数を占めますので循環器領域の撮影(心臓 CT や肺塞栓症および下肢深部静脈血栓症)が今後さらに増えることを期待します。

よりよい病院づくりをめざし、科員全員が自己研鑽し自身の技術を磨き、地域の皆様のさらなる健康増進に貢献するとともに、安心安全の医療を提供していきたいと思えます。

放射線科 三宅 豪

□ 栄養科

令和 5 年度は管理栄養士 1 名の退職があり新入職者 1 名を迎えて 3 名で活動を行った。

糖尿病療養指導士の認定資格を新たに 1 名が取得し、合計 2 名となった。生活習慣病の栄養指導は外来でも多くの割合を占めており個々の生活に合わせたきめ細やかな指導を心がけている。入院では嚥下機能低下、低栄養の患者様の増加が顕著で栄養指導件数は嚥下機能低下と低栄養を合わせると昨年よりも 135 件増加している。退院後は施設入所となる方も多く退院後もスムーズに栄養管理が繋がれるよう栄養情報提供書の作成も始めた。栄養管理が注目されている中、専門職としてできる事を考え努めていきたいと考えています。

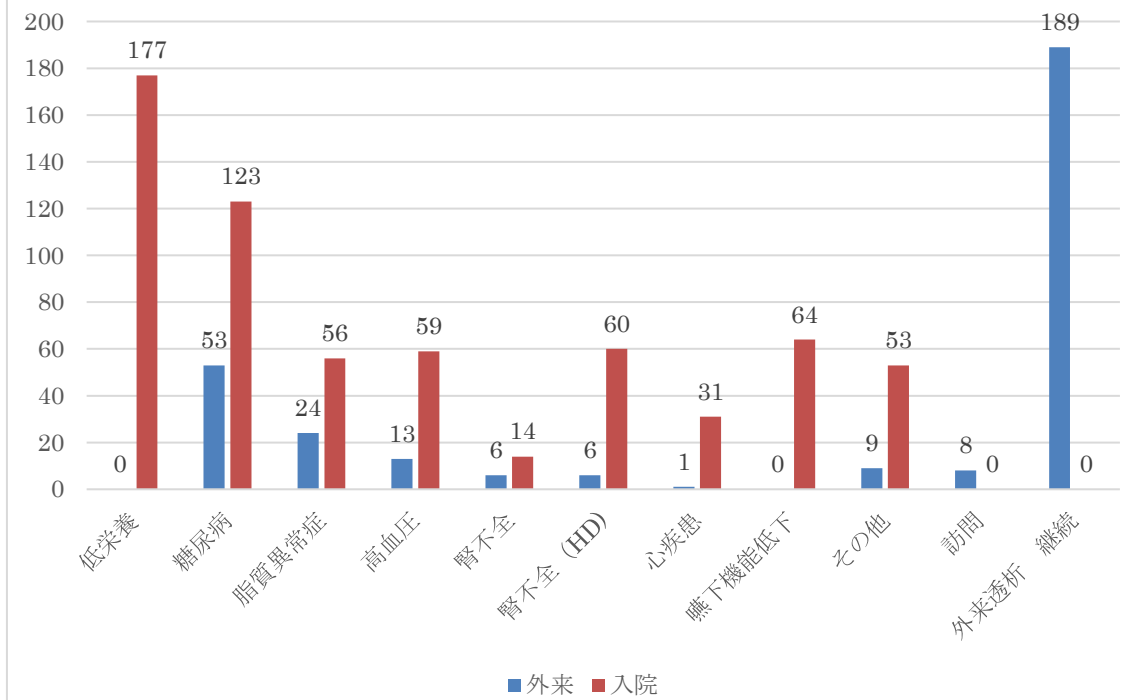


令和 4 年度 栄養指導件数 : 776 件 [入院 : 426 件、外来 350 件]

令和 5 年度 栄養指導件数 : 946 件 [入院 : 637 件、外来 309 件]

栄養科 戸次 由実子

栄養指導件数 2023.4月～2024.3月



□ 臨床検査科

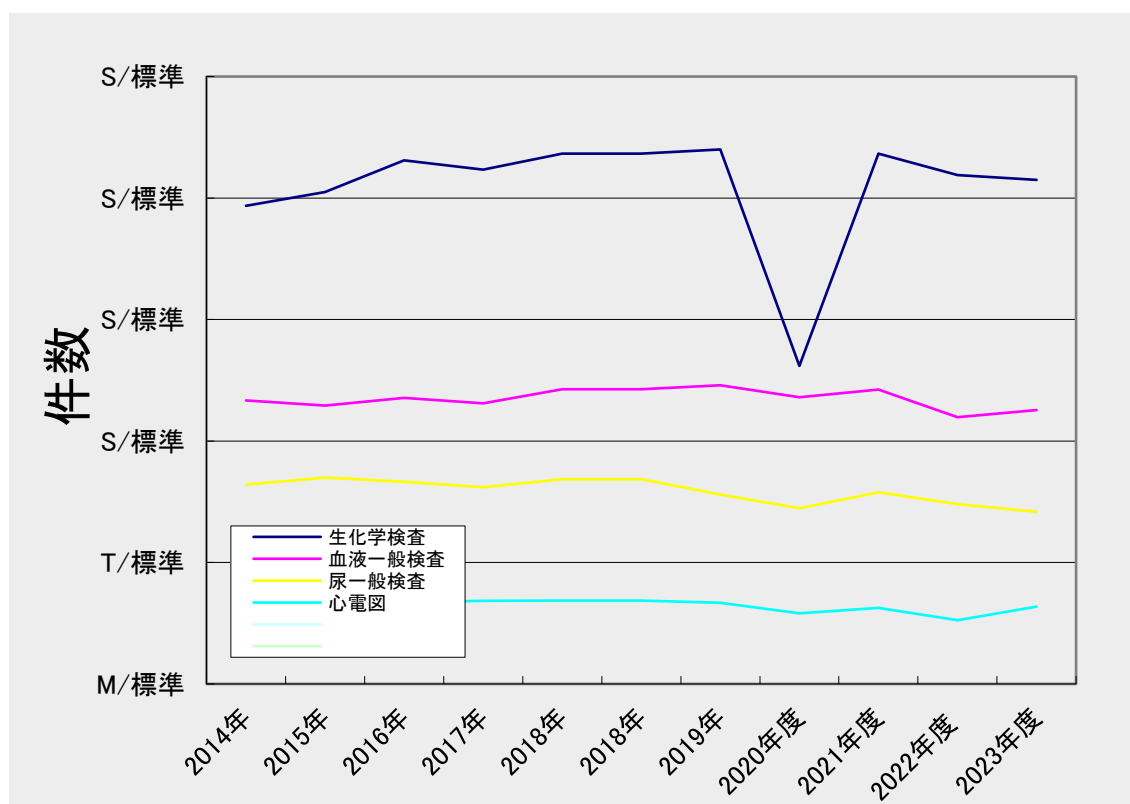
スタッフ：臨床検査技師 6名（常勤者：4名 非常勤：2名）

2023年度は大石醒悟医師の着任もあり、心臓エコー検査数が増加しました。新たな検査として、免疫検査やCPXの検査も追加され、改革の一年となりました。

南出 有利子（係長）



検査件数	生化学検査	血液一般検査	尿一般検査	心電図
2017年度	21172	11554	8094	3419
2018年度	21831	12130	8433	3431
2019年度	21999	12293	7792	3345
2020年度	13091	11795	7226	2907
2021年度	21831	12122	7880	3130
2022年度	20945	10979	7403	2623
2023年度	20741	11267	7086	3183

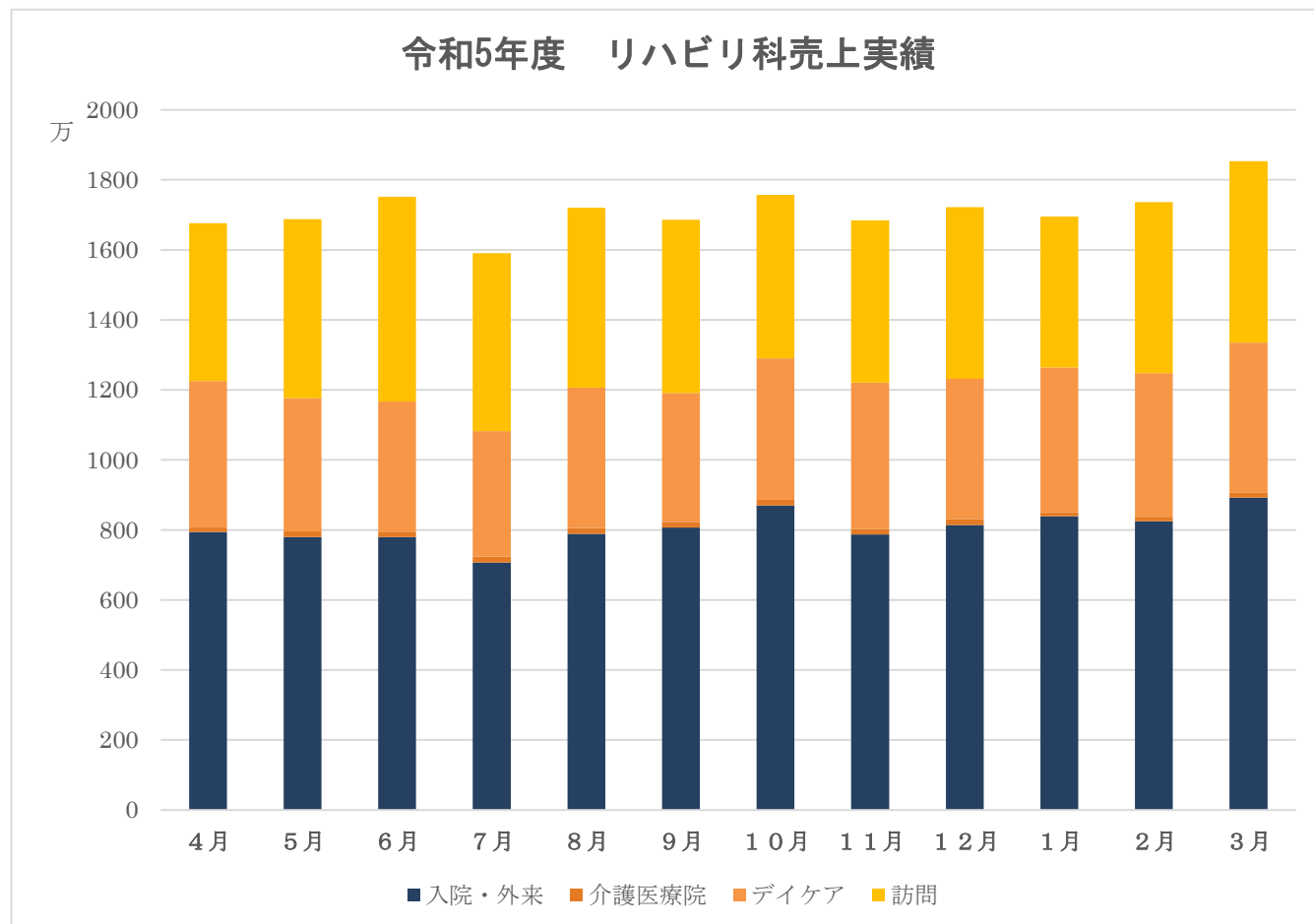


□ リハビリテーション科

【リハビリ】

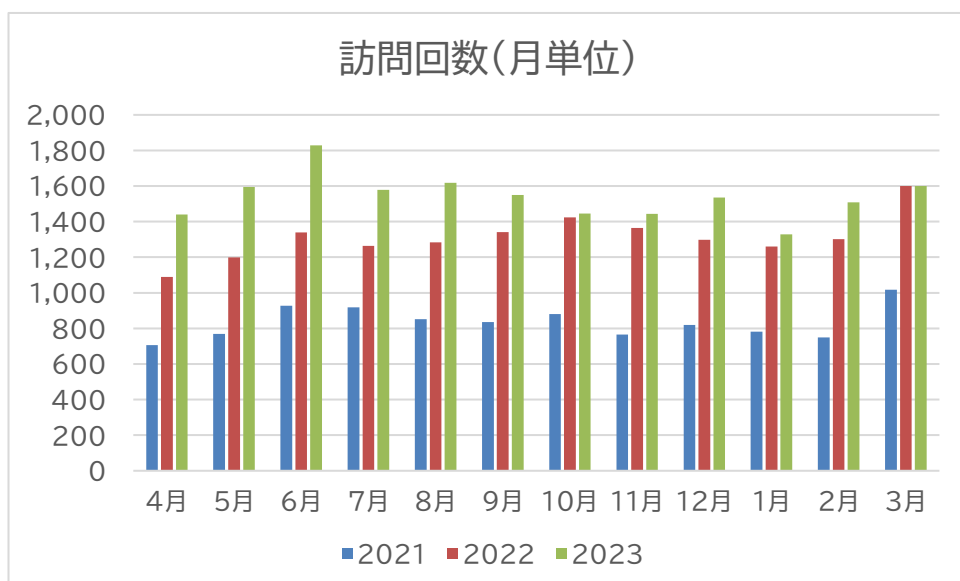
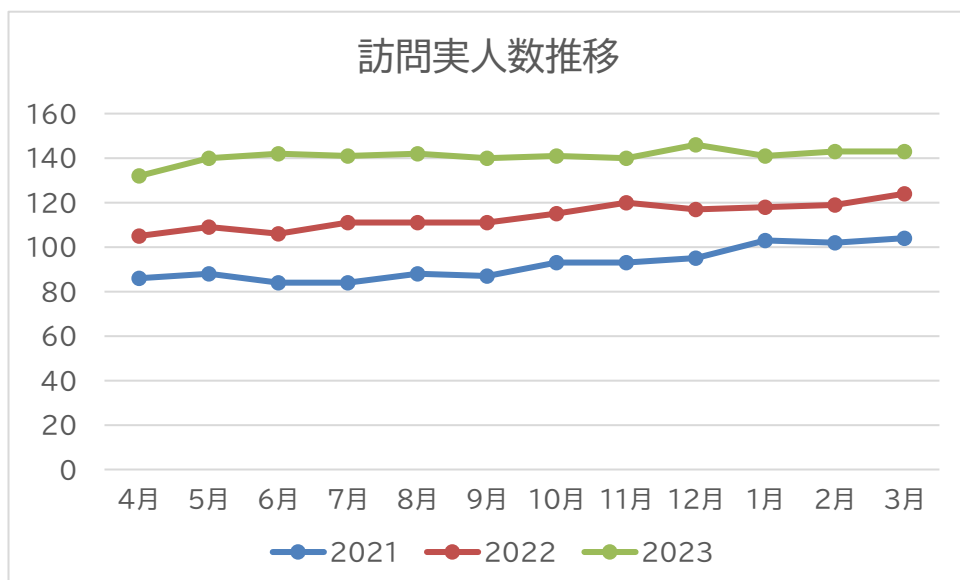
院内部門では、入院・外来心臓リハビリテーションを開始した。入院では肺炎に伴う呼吸器リハビリオーダーが増加したことや、外来では新患数増加（主に整形外科や小児科）に伴い、実績は昨年度と比べ約40%増加しました。デイケアは、新規利用者が増加したことにより実績は昨年度と比べ約8%増加しました。

リハビリテーション科 科長 内藤 涼介



□ 訪問リハビリテーション科

2023年度の訪問リハビリに於いて利用者数は過去最高となり、利用者延べ人数は前年比124%と増加を続け、それに伴い訪問回数は前年比117%となっています。新規依頼が多く、兼務者が増員されましたが、半年足らずでスケジュールが埋まる状況が続いています。女性のセラピストを希望される等、特定の需要に関してはスケジュール調整が困難なケースもあり、様々な需要に対応出来るよう体制を整えていく必要があると考えます。



□ 総合サービス課

【令和5年度を振り返って】

総合サービス課では、地域の皆様へのサービス向上を目指し、様々な取り組みを行っています。令和5年度における総合サービス課の取り組みをご報告いたします。



1. 患者さまの利便性の向上

患者さまの利便性向上のため、スマートフォンで予約を行えるシステムを導入しており、コロナワクチン接種の予約で活用いたしました。鎌倉先生の診察ではオンライン診療も行っており、利用拡大に向けて取り組んでいます。また、AI問診票の導入に向けての検討を継続しているところです。

2. 災害対策室を中心としたBCPの構築

災害時発生時には、患者さまや職員の安全確保や診療機能の維持だけでなく、一次避難所として利用していただいたり、傷病者を受け入れたりできるよう、災害対策委員会を中心として、災害時医療体制の構築に取り組んでいます。

3. 発熱患者さまへの対応

新型コロナウイルス感染症の5類移行により、発熱患者さまを院内で診させていただくようになりました。その感染防止対策として、院内滞在時間を最小限に抑えるために適切な来院時間の案内や、定期的な換気の案内とドアの開閉による空気の入替えを行いました。

4. 救急外来への対応

救急隊からの情報伝達を円滑にするため、聞き取り内容や院内での情報経路の見直しを行いました。また、空床情報等の受け入れ体制の確認作業も複数名で行い迅速化を図っています。

5. 新病院建設プロジェクトの推進

新病院建設プロジェクトにおいて、インターネット環境の提案や部署レイアウトの調整など、さまざまな取り組みを行いました。

令和5年度は、これらの取り組みを通じて、より良い医療サービスの提供に向けて前進しました。来年度は、デジタル化による医療サービスの提供拡大や、医療・健康サービスの効率化と品質向上に取り組んでまいります。

総合サービス課 課長 高木 和喜

□ 総務課

■総務課 人員

1. 人事係 … 2 名(期首 2 名)
2. 経理係 … 2 名(期首 3 名)
3. 庶務係 … 14 名(期首 12 名)

■年度総括

令和 5 年度は、人材確保や給与・労務関連のDX促進に尽力した 1 年でした。また、内科部長が着任され、就業規則や賃金規程の見直しや労働環境改善のワーキンググループの始動、新病棟建設計画の進行等、組織全体で大きな変化の兆しが見られた年でした。各部門での総括は以下の通りです。

人事部門では、人材確保を重要課題と捉え注力しました。有料広告や就職説明会等の実施で採用活動に努め、また、各規程の見直しや定年後の再雇用条件の改定、労働環境改善のワーキンググループといった職員満足度向上の取り組みを行い、入職者 58 名（前年比+5 名）退職者 42 名（前年比-2 名）という職員数の推移になりました。依然として、有資格者や常勤職員の獲得が難しい状況は続いていますが、今期の活動が次年度以降の人材確保と職員満足度の向上に繋がればと期待しています。

経理部門では、長年勤めてくれた職員が 1 名退職され、新しい職員と入れ替わりになりましたが、円滑に業務継承をしてくれました。また、新たに始まったインボイス制度や電子帳簿保存法の対応や、給与明細のWEB化といったDXの促進が図れました。安定した組織運営のため、賃金規程の改定やベースアップ等に対応し、堅実な経営基盤を維持できるよう尽力していきます。

庶務部門では、期中に 2 名増員できましたが職員の休職等があったため、課内で協力して対応した 1 年でした。送迎分野では事故の減少、職員の高齢化、運転技術の向上等が今後も取り組むべき課題です。また、設備面では建物の老朽化により様々なトラブルが発生していますが、ベテラン職員の技術と経験で修繕・対応できたケースも多く、経費削減に貢献できました。これからも様々な側面で職場環境の改善に寄与していきたいと思います。

次年度は、医療・介護報酬の同時改定に始まり、賃金のベースアップや人事・賃金制度改定等変化の多い一年になります。外部環境においても、物価高騰や人材不足が進むことで、ますます経営に影響が与えられることと思います。これら様々な変化に対応し、安定した組織運営を継続できるよう、そして地域において必要とされる組織を維持できるよう革新を進める 1 年にしていきます。

総務課 課長 大森 嘉顕



□ 在宅診療

令和 5 年は大石醒悟医師が石井医師に代わり月曜午前の訪問診療に従事するようになりました。それにより、心不全患者の在宅管理が強化されました。また、堀井医師も居宅の訪問診療を行うようになり、医師の体制が強化されました。それに伴い居宅患者の訪問回数も 1 回から 2 回に戻すことが可能になりました。居宅患者の訪問回数が増えたため、スーパーコートの診療から愛新が抜け、スーパーコートは堀井医師、鎌倉名誉院長の 2 名が担当し、おかば学園は村田医師が継続して訪問しました。



コロナウイルス感染の終息を見て、訪問診療時の感染対策も徐々に緩和していきました。コロナウイルスの予防接種は前年と変わらず訪問診療の患者は自宅で、近隣の老健施設にも積極的に集団予防接種を行い、地域の感染対策に貢献しました。

訪問診療の対象患者やその家族からも数名コロナウイルス感染が発症しましたが、ほとんどの患者を自宅で治療しました。

居宅の訪問診療患者は月平均 64.7 人に増加。院内紹介は年間 21 件（前年度 5 件）大幅に増加しましたが、他院からの紹介は 24 件（同 31 件）と減少しました。他院からの紹介患者のうち 6 名が癌患者でした。

看取り件数は居宅が 11 件（同 20 件）、施設看取りは 9 件（同 13 件）といずれも減少しました。

また、レスパイト入院はコロナウイルスによる院内クラスターの影響や、病床制限の影響により受け入れが難しくなり、延べ人数は 21 人（同 59 人）と減少しました。

毎週木曜日に行っている在宅カンファレンスは継続しました。緩和ケアの勉強会は中止のままでした。

在宅部門の ICT 化を進める方針となったことから、スケジュールの共有と連絡ツールの見直しを行うため話し合いを進めました。最終的にスプレッドシートを利用して訪問診療や訪問看護のスケジュールを共有し、連絡ツールとして THP+ から LINE ワークスに変更することとなりました。

在宅診療 地域包括ケア部部長 愛新 啓志



□ 地域連携室

2023 年度は MSW3 名、看護師 2 名、事務員 3 名の 7 名でスタート、事務員 1 名が育児休暇を取得するため新たに事務員 1 名が 8 月に総合サービス課より地域連携室へ異動、合計スタッフ数 9 名となった。また、事務員 1 名が社会福祉士国家資格を取得し、年度末には MSW4 名、看護師 2 名、事務員 3 名（1 名育児休暇）の体制となった。

2023 年度は救急医療体制が強化されたことにより 2022 年度に比べ大幅に入院患者数が増加、それにより退院支援を必要とする患者数も増加した。退院支援介入患者、入退院支援加算取得件数、介護連携指導料取得件数ともに前年度に比べて 2 倍近くの実績となった。

救急患者が入院するためのベッドを確保するため、これまでより早期の退院支援が必要となり早期介入、早期支援、幅広い社会資源の提案、利用調整が求められた。

退院支援における実績は以下の通り。

	退院支援介入患者 件数	入退院支援加算取得 件数	介護連携指導料取得 件数
2024 年度	476 件	354 件	65 件
2023 年度	254 件	183 件	33 件

訪問診療、在宅支援の実績については愛新啓志地域包括ケア部長の項目参照。

その他の活動では院外の連携会議はほぼ対面で開催可能となり、地域の関係機関と顔の見える連携が新型コロナウイルス流行前とほぼ変わらない状況で行えるようになった。

今年度の大学からのソーシャルワーク実習の受け入れは 1 名であった。

被災地支援として MSW1 名が令和 6 年能登半島地震において、被災地で生活する高齢者の支援を行った。

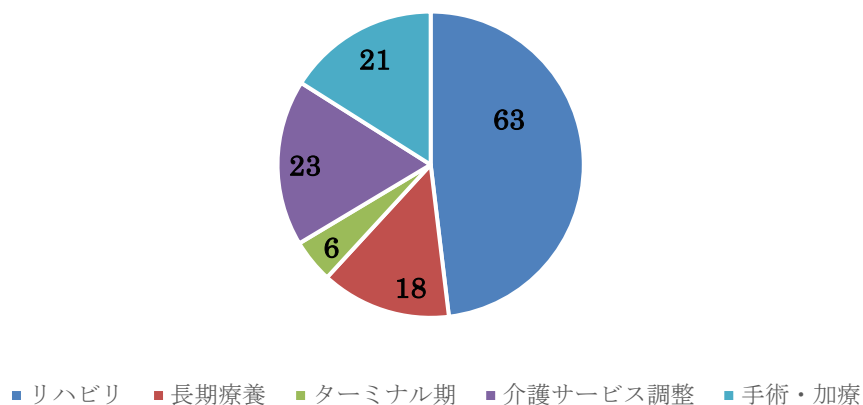
氏名	派遣先	派遣期間
真保 友仁	石川県輪島市	2024 年 3 月 7 日～2024 年 3 月 11 日の 5 日間

地域連携室スタッフ

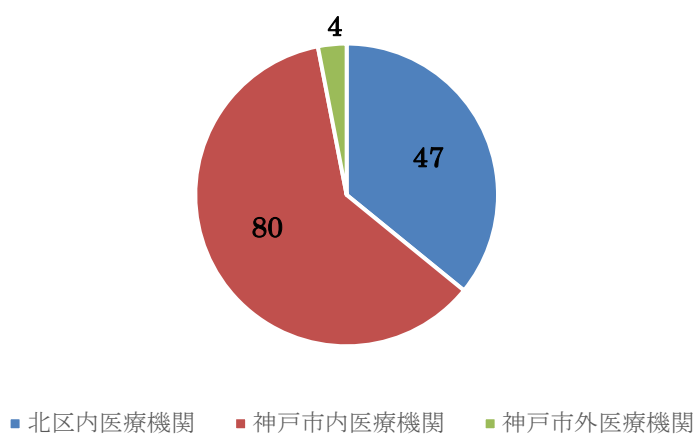
役職	氏名	職種	担当業務
室長	真保 友仁	MSW	部署内業務全般
	山本 睦	MSW	地域連携・退院支援・相談支援
	田中 憧美	MSW	地域連携・退院支援・相談支援
	俵 由夏	MSW	地域連携・退院支援・相談支援
	加藤 浩美	看護師	訪問診療・在宅支援
	秋山 恵里香	看護師	訪問診療・退院支援・在宅支援
	井上 真希子	クラーク	訪問診療・医師事務作業補助
	岩本 しずか	事務	地域連携・入院調整・在宅支援
	石川 薫奈	事務	地域連携・入院調整

2024 年 3 月末現在

紹介目的別内訳 総計131件



紹介元別内訳 総計131件



地域連携室 室長
真保 友仁

□ 通所介護 デイサービスセンター まほしの里

里は季節の流れを肌で感じられる所です。大きな窓から空の青さと白い雲をバックに緑の山並みが見えます。

この2年間、食の改善に努めてきました。その結果、里の食事やおやつが美味しいからと来て下さる方が多くなりました。

「美味しく食べて元気になっていただく」その目標が達成されました。今年の目標は「デイをコミュニティ広場」にするです。

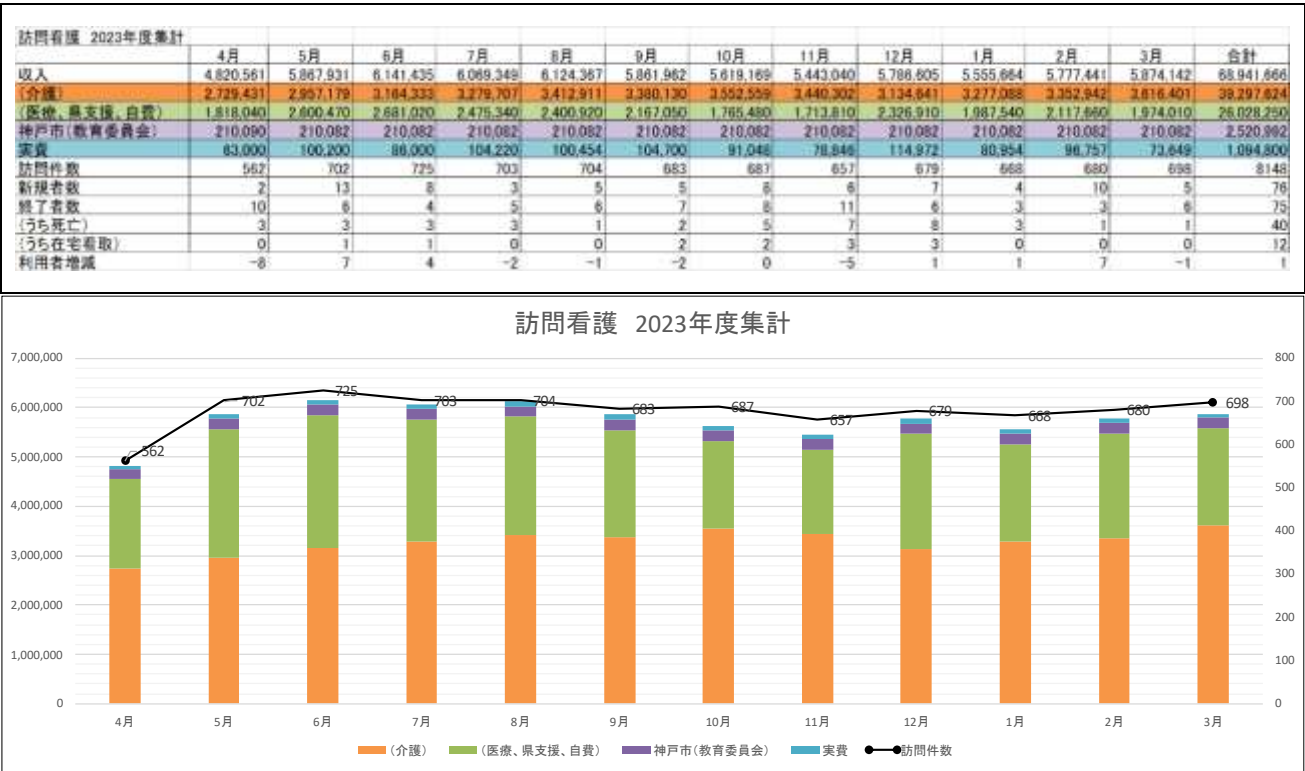
同年代だからこそ分かり合える、励まし合えることが出来るのではないのでしょうか。今、その繋がり輪が広がって皆さんどんどん仲良くなっておられます。一人で生きるよりみんなで生きる、それがたくましく生きる術になっていくと信じます。皆さん里にいらして下さい。コミュニティ広場に遊びに来てください。



□ 訪問看護ステーションまほし

令和5年度は、1名の訪問看護師が退職し看護師6名となったが、訪問件数は7582件から8148件へ増やすことができた。昨年に引き続き、小児の糖尿病医療的ケアで平日ほぼ毎日小学校を訪問し、訪問看護師としてのスキルアップを図る事もできた。BCP策定に際しては、他部署はもちろん、地域の訪看や役所等との連携にも取り組んだ。今後も、より知識を深め、地域医療の発展に貢献したい。

訪問看護ステーションまほし



□ まほし居宅介護支援事業所コスモス

2023 年を振り返って

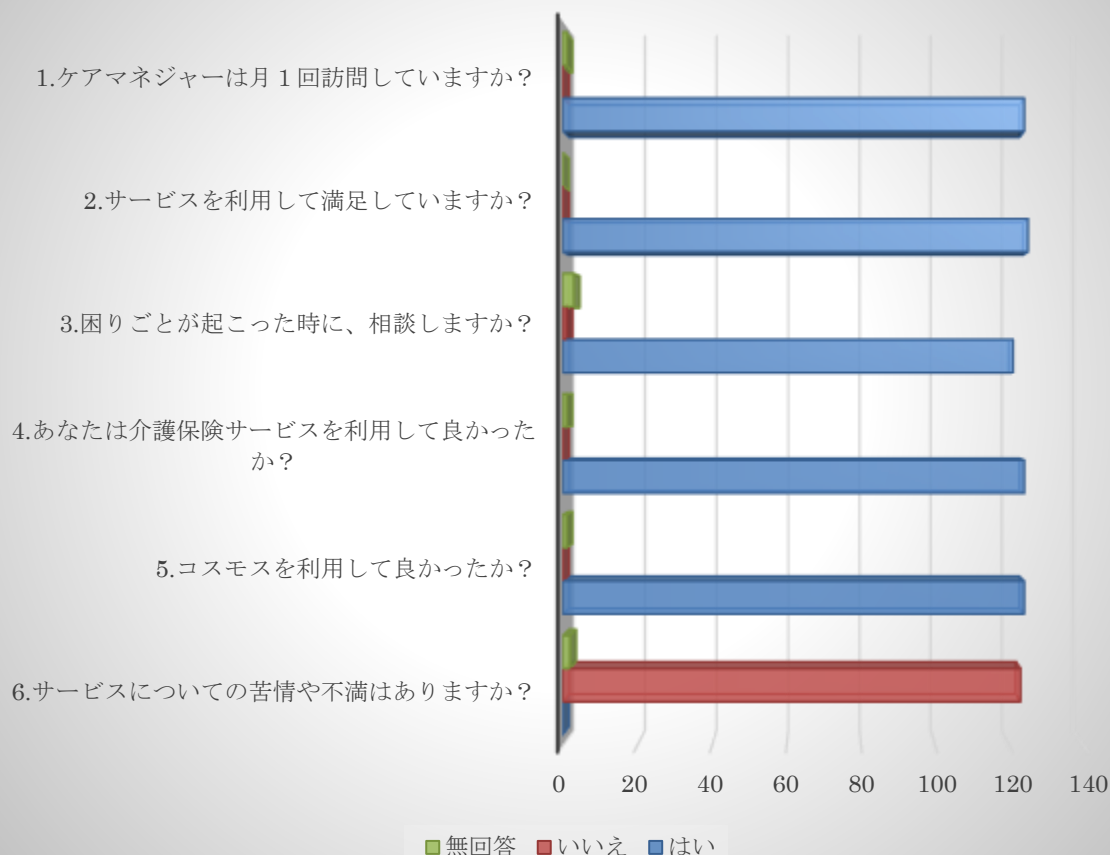
今年度 8 月から介護支援専門員資格を取得した新人ケアマネが入職し、ケアマネ 4 名、事務員 1 名の体制で業務にあたっています。実績も皆が新規対応し、徐々に伸びました。高齢者が増え、介護保険サービスの利用を希望される方が以前に比べ増えています。90 代の利用者さんも増えています。今後もしっかりと在宅で生活をしている方々の支援を行っていきます。

まほし居宅介護支援事業所コスモス 國重 真由美

満足度調査 令和 5 年度

	はい	いいえ	無回答
6. サービスについての苦情や不満はありますか？	0	123	2
5. コスモスを利用して良かったか？	124	0	1
4. あなたは介護保険サービスを利用して良かったか？	124	0	1
3. 困りごとが起こった時に、相談しますか？	121	1	3
2. サービスを利用して満足していますか？	125	0	0
1. ケアマネジャーは月 1 回訪問していますか？	124	0	1

満足度調査



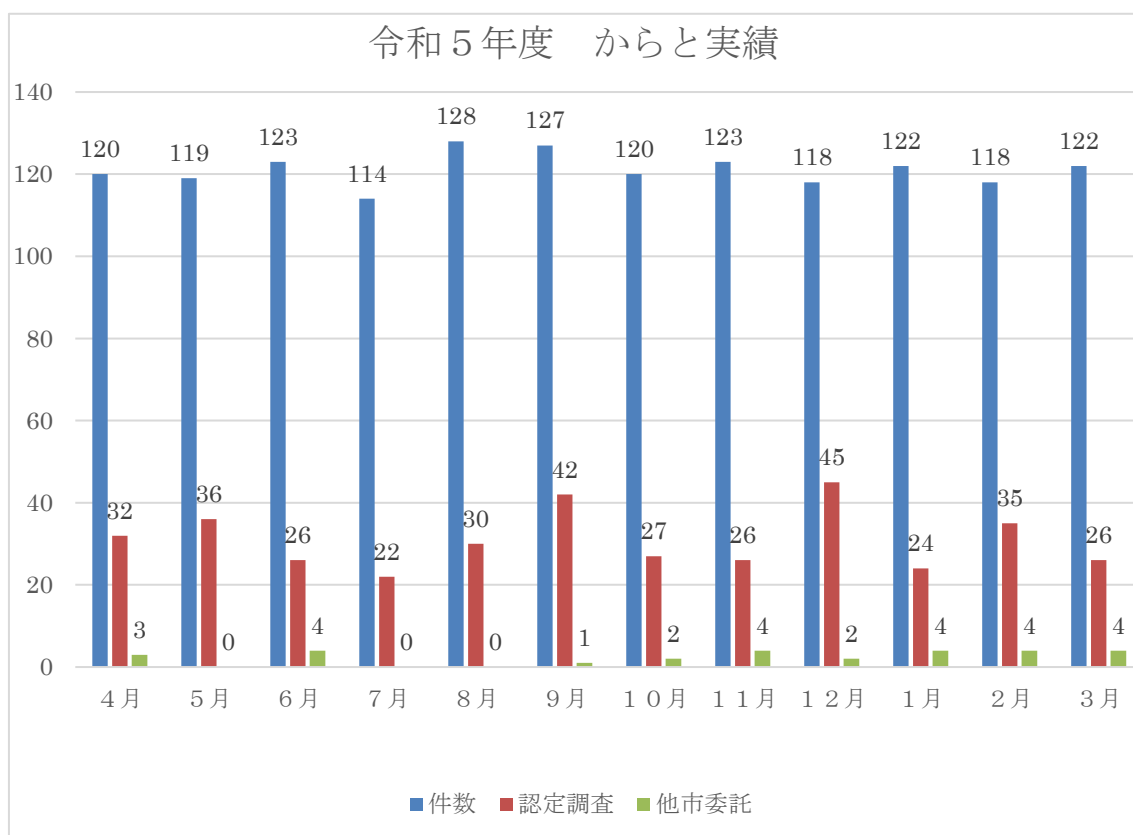
□ まほし居宅介護支援事業所からと

管理者 1名 主任介護支援専門員 1名 介護支援専門員 2名

人員不足の中でのスタートとなりましたが大きな混乱もなく業務を行う事ができました。年明けより地域包括ケア部内でのケアマネージャーの移動で事務所内でも慌ただし状況でしたが、3月には次年度の体制作りに向けて業務内容の見直し等を行い、各々が各自行すべき業務内容の見直しを図る事ができました。また、事務員のタスクシフト制の導入で事務処理を任せる事でケアマネ業務に専念できる環境作りが出来ました。

引き続き、神戸市委託業務である認定調査の実施、同法人内での連携を強化し、地域に根差した居宅介護支援事業所として業務を行って参ります。

まほし居宅介護支援事業所からと 管理者：西樂 ゆかり



□ 有馬あんしんすこやかセンター

あんしんすこやかセンターは神戸市が市内76か所に設置する高齢者に関する総合相談窓口です。そのうちの一つの有馬あんしんすこやかセンターは、有馬地区から東大池までの圏域を担当しており、まほし会が神戸市から受託して運営しています。

保健医療・福祉・介護の専門職がいます。

専門職が連携して対応します。

- ・保健師または看護師
- ・社会福祉士
- ・主任ケアマネジャー
- ・地域支え合い推進員
- ・予防プランナー
- ・事務員



神戸市が設置しています。

- ・公的な相談窓口です
- ・相談は無料です
- ・相談内容の秘密は厳守します



委員会等の活動報告

□ 教育推進室 2023 年度の活動報告

【2023 年度の病院教育推進室活動の報告と次年度の抱負】

2023 年度も研修形態をオンデマンド・YouTube 配信とし、多くのスタッフが勤務時間を活用し研修に参加できる体制で教育活動を継続しました。例年同様に、中途採用者の新入職オリエンテーション、入職 3 か月のフォロー研修を行い振り返りました。新入職者へのアンケートでは、オリエンテーションで多職種の活動内容や悩みなどを聞いて参考になっているという声もあり、今後も研修内容を吟味し継続していきたいと思っています。

看護師ラダー研修では 11 名が修了しラダーを取得、認定看護管理者ファーストを 1 名終了しており、引き続き看護管理者育成支援を行っていきます。

2024 年度はラダー V の始動、看護師ラダー参加必須、全ラダー研修がオンデマンド研修へ移行し、ラダー毎に集合研修を再開する予定となっています。監査に向けても病院全体で取り組むべき感染、安全、倫理研修の開催、それぞれの部署の教育内容の整備などが必要となります。組織全体が教育に取り組めるよう、病院教育委員会の立ち上げに向けて活動していきます。

● 院外研修参加者

・ BLS 研修	2 名
・ 心不全療養指導に必要な技術と心不全チーム医療の実践を学ぼう	13 名
・ 看護補助者の更なる活用のための看護管理者研修	2 名
・ 人生の最終段階の意思決定支援	1 名
・ 本人の意向を尊重した意思決定のための研修	4 名
・ 現場で実践できる ACP（初級編）	13 名

● ケーススタディ 2024 年 1 月 30 日

・ 患者のための家族への意思決定支援 ～ 家族看護の視点から学ぶ患者と家族への関り～	高野 亜佑美
・ UKA 手術を受ける不安症患者の精神的看護 ～ 周手術期の精神的援助を振り返る～	東本 真琴

教育推進室 室長 吉田 ゆう子
副室長 江角 亜里沙
藤本 聖子

● 院内研修【2023 年度（2023 年 4 月～2024 年 3 月）】

日時	研修名	研修内容	研修対象者	講師
4 月 1 日	新入職員オリエンテーション	新入職オリエンテーション	新人職員	各担当者
4 月 27 日	看護記録 看護診断	・ カルペニートの看護診断 概念がわかる ・ パンフレットの使用方法 が理解できる	レベル I	記録委員
4 月 13 日	終末期看護	いのちの終わり人備えて看護師の役割を知る	レベル II	重久看護師
4 月 18 日	看護理論	看護理論について	レベル III	中室師長
5 月 25 日	嚥下障害患者の看護	嚥下障害患者の看護について	レベル I	竹田師長
5 月 12 日	救急・急変時の対応	急変時の救急対応について	レベル II	谷間看護師 加藤看護師

5月16日	急変時の対応・ 予測リーダーシ ップ	急変時のリーダーシップに ついて	レベルⅢ	播摩副師長
5月2日	人材育成の基礎 理論（総論）	人材育成について学ぶ	レベルⅣ	中室師長
5月13日	看護必要度	看護必要度の伝達講習	看護師全職員	一般病棟代表看 護師
6月22日	コミュニケーシ ョンスキル	コミュニケーションの方法	看護師全職 員	吉田副部長
6月16日	新入職オリエン テーション	新入職オリエンテーション	新入職員	各担当
7月1日	3か月フォロー 研修	接遇・中材物品の取り扱い について	新入職員	各担当
7月27日	循環器疾患	循環器疾患について学ぶ	レベルⅠ	鎌倉医師
7月13日	社会資源のしくみ	社会資源のしくみについて 学ぶ	レベルⅡ	一般病棟看護 師
7月18日	ファシリテーシ ョン	ファシリテーションについて	レベルⅢ	南副師長
7月4日	看護実践に活か す情報管理	情報管理について	レベルⅣ	中室師長
7月4日	認知症ケア加算 研修	認知症ケア加算について伝 達講習	看護師全職 員	療養病棟代表 看護師
8月24日	消化器外科疾 患・看護	消化器外科疾患について 学ぶ	レベルⅠ	堀井医師 赤尾看護師
8月10日	退院支援連携	退院支援連携について学ぶ	レベルⅡ	理学療法士 地域包括ケア 看護師
8月15日	医療における分 析の手法	看護実践における分析の手法 について学ぶ	レベルⅢ	小南師長
8月1日	看護チームマネ ジメント（総論）	チームマネジメントに ついて学ぶ	レベルⅣ	中室師長
9月28日	整形疾患	運動器を治療する外科	レベルⅠ	鷲見医師
9月14日	コーチング	コーチングについて学ぶ	レベルⅡ	ジョンソン& ジョンソン
9月19日	セルフケア能力 向上支援	セルフケア能力を向上する ための支援	レベルⅢ	谷口副師長

9月5日	問題解決手法	看護実践における問題解決 手法について学ぶ	レベルⅣ	播摩副師長
10月16日	3カ月フォロー 研修	接遇、中央材料の取り扱い など	新入職員	各担当者
10月1日	新入職オリエン テーション	新入職オリエンテーション	新入職員	各担当
10月26日	意思決定支援	意思決定について	レベルⅠ～ レベルⅥ	赤木副師長
11月24日	糖尿病治療と看 護	糖尿病疾患について学ぶ	レベルⅠ	糖尿病療養指導 士 薬剤師
11月9日	人工呼吸器の基 本と実践	人工呼吸器管理と実践に ついて	レベルⅡ	臨床工学技士 一般病棟看護 師
11月21日	心不全・呼吸不 全のフィジカル アセスメント	心不全・呼吸不全のフィジ カルアセスメント	レベルⅢ	坂野副師長
11月7日	組織管理（総 論）	組織管理について学ぶ	レベルⅣ	江角看護師
12月28日	眼科疾患・看護	眼科疾患・看護について学ぶ	レベルⅠ	OMA 手術看護師 赤尾看護師
12月14日	家族看護	家族看護について学ぶ	レベルⅡ	森井看護師
12月19日	エビデンスに基 づく看護ケア	エビデンスに基づく看護ケ アについて学ぶ	レベルⅢ	江角看護師
12月5日	データを活用し た看護	データを活用した看護を学 ぶ	レベルⅣ	藤澤副師長
1月17日	新入職オリエン テーション	新入職オリエンテーション	新入職	各担当
1月25日	透析治療・看護	透析治療・看護について 学 ぶ	レベルⅠ	透析室
1月11日	ハイリスク薬剤	ハイリスク薬剤について学ぶ	レベルⅡ	薬剤師
1月16日	地域包括ケアシ ステム	地域包括ケアシステムにつ いて	レベルⅢ	地域包括ケア 部
2月22日	医療・看護倫理	医療・看護倫理について学ぶ	看護師全職員	園田部長
2月10日	高齢者総合評価	高齢者総合評価について	看護師全職員	紀医師

□ 救急委員会

2023 年度から私が赴任し、これまで委員長を務めておられた新井医師から 6 月に委員長業務を引き継がせていただきました。

2023 年 4 月に初回の委員会を開催した時点ではコロナ感染症が 2 類感染症であり、有熱患者の受け入れが困難であり、対策物品の保管場所ともなっていたことから、救急外来は半面の使用で 1 名のみの受け入れ体制となっている状態でありました。

また、超音波機器は設置されておらず、D-dimer や NT-pro BNP など、救急診療に必須と考えられる項目の測定も緊急では困難な状態にありました。

二次救急病院指定病院としての体制としては不十分と考え、6 月以降は 2 ヶ月 1 回開催から 1 ヶ月 1 回開催に変更し、委員会での検討を経て、システムの変更、設備・物品の変更を行ってまいりました。主な変更点および実績を下記にまとめます。

1 年間で関係各所の協力もあり、多くの改善を図ることができました。

結果として昨年度と比して、救急受け入れ患者数 1934⇒2771 名（43%増）、救急搬送患者数 351⇒615 名（75%増）、救急経由の緊急入院 129⇒330 名（156%増）となりました。

2024 年度は新たに救急救命士を迎え、救急課を独立部門とすることでさらなる充実を図っていきたいと考えております。引き続きご協力宜しくお願いいたします。

◎システム変更

1. 救急輪番体制の見直し：外科輪番に加え、内科輪番担当を開始。月曜日 新井医師、火曜日 大石医師で対応。計月 6 回程度となった。同日に関しては、看護部と協働し、4 回一般病棟の夜勤を 2 名から 3 名体制に増員し、夜間の受け入れ体制の充実を図った。
2. 救急外来診察場所の確保：外来物品を整理し、1 箇所から 2 箇所並列で診療可能とした。
3. 救急看護記録の見直し：コスト漏れを防止する目的で処置項目を追加した（縫合処置・エコー検査（心・腹・その他）COVID 検査・松葉杖指導（貸出）など）
4. 採血項目追加：平日日中のみであるが、D-dimer、NT-pro BNP の緊急対応を可とした
5. 院内トリアージ実施：2024 年 3 月から看護師による院内トリアージを開始した。

時間外に救急車以外で来院する患者を対象として院内トリアージ実施料（300 点）取得

◎設備・物品の変更

1. 救急カートの見直し（緊急性の高い薬剤のみ選択、施錠可能なカートに全館統一、整備）
2. CBC 検査機器の入れ替え（老朽化しており、新規購入）
3. ストレッチャー・移動用モニター（救急外来を 2 診体制とするにあたり新規購入）
4. 超音波装置の設置（救急外来での心臓・腹部 echo を実施可能とするため新規購入）
5. ビデオ喉頭鏡、NPPV 蛇腹マスク、CV カテ（ダブル・トリプルルーメンキット）の購入
6. シリンジポンプの配置（1 台から 3 台へ。2 台シリンジポンプ購入）

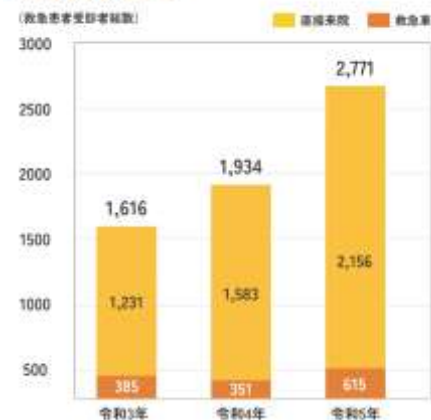
救急委員会 委員長/副院長 大石 醒悟

	R5.4	5	6	7	8	9	10	11	12	R6.1	2	3	計	平均	年間目標
救急搬送連絡件数	53	50	55	82	113	46	65	59	62	125	97	83	890	74.2	1200件
救急受入れ総件数	33	39	36	63	72	36	54	46	41	75	60	60	615	51.3	840件
救急受入率	62%	78%	65%	77%	64%	78%	83%	78%	66%	60%	62%	72%	69%	70%	70%
受け入れ不可	20	11	19	19	41	10	11	13	21	50	37	23	275	22.9	
新患者数	10	15	13	21	29	9	20	17	11	35	27	25	232	19.3	
新患者率	30%	38%	36%	33%	40%	25%	37%	37%	27%	47%	45%	42%	38%	36%	
初診患者数	16	27	23	39	55	29	39	31	22	51	36	40	408	34.0	
初診患者率	48%	69%	64%	62%	76%	81%	72%	67%	54%	68%	60%	67%	66%	66%	
入院数	16	15	16	21	20	15	20	17	20	27	20	27	234	19.5	360件
入院数率	48%	38%	44%	33%	28%	42%	37%	37%	49%	36%	33%	45%	38%	39%	
院内トリアージ件数												46	46	46.0	

(2023 年度(令和 5 年度) 救急搬送受け入れ実績)

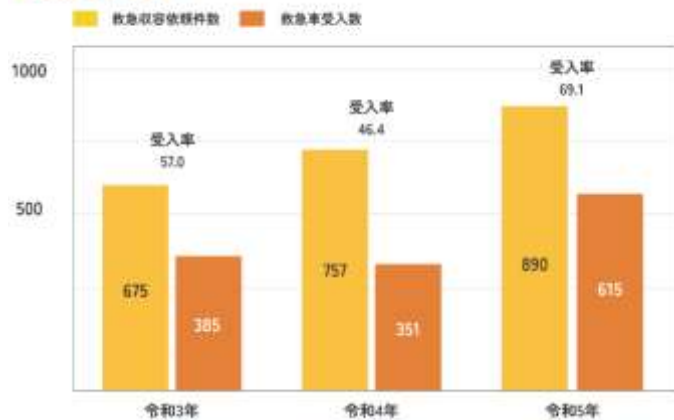
救急患者受診者総数

(救急患者受診者総数)



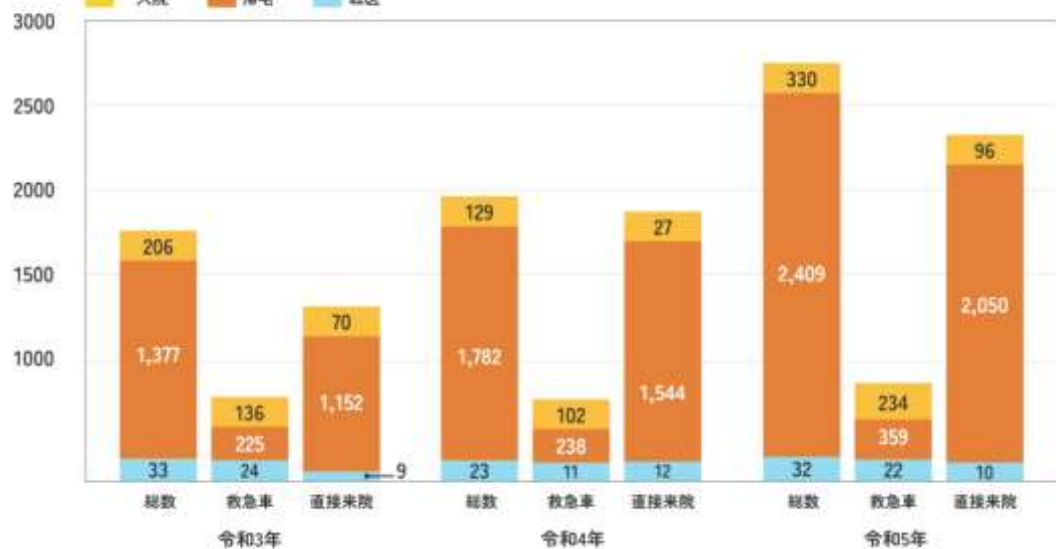
救急収容依頼受入率

救急収容依頼件数 救急車受入数



診療後入院外来別患者数

入院 帰宅 転院



□ カイゼンワーキング

2023 年、法人内の至るところで業務改善への要望があり、2022 年に行われた人員確保・適正配置プロジェクトで提案された課題も多数未解決のまま残っている状態にありましたので、6 月より即時対応可能なメンバーを招集し、実効性のある取り組みを行うことを目的として、カイゼンワーキングを立ち上げ、月 1 回活動しております。

活動内容は随時院内に公開しておりますが、1 年間の取り組みについて総括します。
2024 年度も継続して活動しておりますので、業務改善に繋がるご意見をカイゼンワーキングのメンバーへお伝えいただけましたら幸いです。

役割	職位	氏名	担当部署
ワーキンググループ長	内科部長	大石 醒悟	診療部
	看護部長	園田 慶子	看護部 医療機器管理室 手術科 腎透析センター科 クラーク科 病児保育室
	副看護部長	吉田 ゆう子	介護医療院 外来科
	看護師長	南 あき	一般病棟科 4東 地域包括ケア病棟科 5東
	看護師長	竹田 悦子	療養病棟 2階・3階
	介護係長	益井 志美	全介護係
	総合支援部 部長	杉原 麻理子	薬剤科 臨床検査科 リハビリ科 栄養科
	総合支援部 副部長	高木 和喜	放射線科 総合サービス科
副ワーキンググループ長 事務局	総務課 課長	大森 嘉顕	総務課
	地域連携室 室長	真保 友仁	地域連携室 居宅介護支援事業所 訪問看護事業所 デイサービス まほしの里 地域包括支援センター

メンバーの役割と担当部署

※カイゼンおよび実施された内容

◎決定、変更事項

- ① 介護士の研修内容の見直し ⇒ 研修に関する負担軽減
- ② 広報誌を用い、求人を進める（7/25 街ナビ, 43000 部配布）
- ③ 人事・労務管理のクラウド化推進（smart HR, 9 月から開始）
- ④ ホームページの外注（2024 年 4 月リニューアル）
- ⑤ 資格更新に費用補助を検討。⇒主任ケアマネージャー更新費用を病院負担

- ⑥ 1年目の有給休暇前倒し取得⇒入職1年目に限り3日まで前倒しで取得可とする。
：正式採用となった職員を対象に入職6ヶ月以降、入職1年目に限り3日まで前倒しで有給を取ることで了承。2024年4月から就業規則の中に追加。
- ⑦ 保育園（ぽかぽか保育園）利用料の均てん化
：保育園利用料が職種によって異なり、AからCの職員区分によって定められおり、職種間格差を是正できないか？⇒全ての職種をA(もっとも職員負担が少ないもの)に合わせることであった。2024年1月給与から反映
- ⑧ 職員の時短業務について
：当院では3歳に満たない子を養育する職員、小学校1年生から3年生の看護師および准看護師には別途時短勤務が認められている。3歳から小学校1年生までを養育する職員に対しての時短業務勤務および看護師および准看護師の職種限定を外すことはできないか？⇒時短業務の対象拡大を看護師以外も含めて認める。ただし、職種によっては人員配置から困難なこともあり、その都度職場毎に検討する必要がある。また、短時間正職員に日勤帯の労働時間を越えて、原則労働させないことが前提であることも記載する。就業規則に2024年4月から追記し、反映
- ⑨ 60歳時(以前の定年退職時)以降の給与の見直し
：管理職を除く職員に関しては60歳以降、これまで給与を7割とし、勤務継続していたが、業務内容、勤務形態が変わらない状況であれば給与も維持することはできないか？⇒定年を65歳まで上げることが義務化されることも決定されている中で見直しを検討。地域の雇用促進、経験のある職員の雇用継続の観点から議論を行った。
60歳以降の雇用に関しては、7割から現状維持の範囲内で1年毎に見直すこととする。2024年1月以降開始
- ⑩ 職員の病児保育に関わる費用補助について
：病児保育の費用を一部病院負担とできないか⇒昼食およびお菓子代を病院負担とすることで決定(2024年度)

◎継続検討課題

- ① 教育・研修費用について
教育・研修費用については現時点では部門毎に決まった額が支給されているわけではなく、学会などで必要経費が出た場合にその都度支払いを行っている。教育委員会の整備と併せて、研修費用の在り方について検討。研修委員会を含めて継続し、検討していく。重要事項であるので引き続き経過報告を行う。病院として必要であり、研修へ派遣する場合には、勤務時間とすることも検討する。

参考) 日本病院会の調査報告によると、年間の人材確保・育成費の平均は100床あたり約3,600万円、医業収益の1.57%を占める(奨学金、派遣企業への支払いが含まれる)
一般企業を対象とした報告では、2022年度 教育研修費用 29,904円とされている。
https://www.e-sanro.net/research/research_jinji/kyoiku/kyoikukenshu/pr2210.html

- ② 職員の休日数増、長期休暇取得、休日手当について
職員数が不足している部門も多く、人員の確保を優先する。
- ③ 健康診断について
職員健康診断について、視力などの項目が自己申告になっていること、採血項目が不十分なのではな

いかという意見がある。⇒職員アンケートを行い、病院として対応を検討する。職員の健康を維持するために外注も含めて検討する。

◎議論の上、不採択

- ① 病棟のお茶の味が不評であり、給湯器(デモ機)も導入し、検討⇒ 検討の結果不採択

カイゼンワーキング代表 大石 醒悟

□ 安全対策委員会

【2023 年度の総括と 2024 年度の取り組みについて】

安全対策委員会スタッフが事例に対して積極的に改善点や質の改善に向けた働きかけを行うことにより重大な医療事故防止に努める事が出来た。管理室に関しては、活動時間が十分に確保できず、提出された事例に対して評価・分析等が十分に行う事が出来なかった。

今年度は、医療安全管理室の定期的な活動時間を十分に確保し、医療安全ラウンドの実施や事例報告に対して要因・原因分析を細かく行い、組織的弱みを抽出し、業務改善を行い、医療事故防止に向けて管理体制の強化を図ります。

延東 靖浩（医療安全管理室 室長）

① インシデントレポート件数

【2023 年度（令和 4 年 4 月 1 日 ～ 令和 5 年 3 月 31 日）】

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
医局	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
外来	9	7	3	5	5	6	6	5	12	2	3	3	66
2 本	1	0	2	1	0	0	1	0	0	1	3	0	9
3 本	2	7	5	1	4	5	5	7	4	4	3	8	55
介護	5	1	2	1	2	0	4	1	1	2	0	0	19
4 東	5	4	5	7	7	6	5	7	9	3	3	6	67
5 東	7	4	4	3	7	6	11	11	7	1	6	5	72
手術室	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
透析	8	4	4	7	5	11	12	10	8	15	4	10	98
リハ	0	0	1	2	0	1	2	0	1	0	1	2	10
放科	0	1	0	0	0	0	1	2	1	0	1	0	6
薬剤	3	0	3	1	1	4	3	4	2	3	2	2	28
総合	3	1	0	3	0	1	1	0	0	2	1	1	13
検査	0	0	0	0	1	0	0	0	6	2	0	1	10
栄養	5	2	0	3	4	4	2	3	2	0	0	3	28
地包	0	2	0	0	2	1	1	0	0	2	1	1	10
クラーク	0	0	2	0	0	0	1	1	2	3	3	1	13
合計	48	33	32	34	38	45	55	51	55	40	31	43	505

※地包（地連・訪看／まほしの里含む） ※クラーク（クラーク科） ※総合サービス（総務課含む）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	割合
薬剤に関する	8	3	8	6	8	10	10	9	6	8	6	9	91	18.00%
治療・処置	2	2	1	1	0	7	8	3	7	10	2	5	48	9.50%
ドレーン・チューブ	3	1	0	2	2	3	0	1	0	2	5	3	22	4.30%
医療機器等	4	1	1	0	4	1	2	3	3	1	0	1	21	4.10%
検査等に関する	2	4	3	3	4	5	11	3	11	6	4	3	59	11.70%
輸血に関する	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00%
療養上の世話	20	17	13	11	16	12	12	23	17	6	7	17	171	33.90%
その他	9	5	6	11	4	7	12	9	11	7	7	5	93	18.40%
合計	48	33	32	34	38	45	55	51	55	40	31	43	505	

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	割合
※転倒・転落	8	7	6	3	9	4	6	6	15	6	4	6	80	15.80%

アクシデント報告（7件）

2023年5月 ベッド上での 骨折	2023年5月 ワクチンの種類 間違えて接種	2023年5月 胃カメラ施行後 容態急変	2023年6月 転倒・転落 骨折	2023年6月 人工呼吸器の フィルター誤接続
2023年12月 転倒・転落 骨折	2024年1月 転倒・転落 骨折			

② 院内勉強会開催および院外研修会・勉強会への参加実績

【2023年4月1日～2024年3月31日】

	(院内/院外 研修)	研 修 内 容
院 内 外 研 修	医療安全全 体研修	オンデマンド研修：【人工呼吸器の基礎をおさえよう】 (看護師、薬剤師、ME 対象) ※多職種希望者があれば
		医療機器研修(実技含)PCAポンプ(自己調節鎮痛法)※ 看護師対象
		オンデマンド研修：医療ガスの安全管理と事故防止策(全職員対象)
		オンデマンド研修：医療安全関連研修(2項目全職員対象)
		医薬品管理研修DVD研修(全職員対象)
		全職員参加型BLS研修(令和4年11月～継続して研修実施中)
		医療安全研修：転倒予防とKYT(移乗、トランスファー等)※ 病棟スタッフ対象
		真星病院「医療安全管理体制」「インシデントレポート活用方法」新入職者対象 (随時開催)
	医療安全研 修等	神戸市保健所予防衛生課(Web会議)
		第2回施設・環境・設備安全セミナー(ZoomによるWeb会議)
		第2回検査・処置・手術安全セミナー(転倒・転落予防)オンラインセミナー
		働き方に関する基本的知識、ハラスメント研修会(講師：特定社会保険労務士)
		日本医療機能評価機構「医療の質可視化プロジェクト」モデル事業参加

③ 2023 年～2024 年度に提出されたレポート分析後の主な業務改善事項

項 番	改善事項
1	医療安全業務指針見直し・改訂
2	医療事故対応マニュアル見直し、改訂
3	人工呼吸器の誤接続事例を受けて接続回路を変更
4	食物アレルギー禁止対応の食事入力法を一部変更
5	病院内で無許可での撮影および録音等の行為や SNS 等への投稿禁止をする旨を全部署にて掲示
6	診察の予約（再診含め）に関して前科共通の病院ルールを作成
7	抗生剤投与時間に関して時間点滴指示漏れを防止のため、時間指定の場合のみ投与時間を統一
8	食物の異物混入の事例を受けて、異物混入発生時の対応手順を作成
9	透析開始時の始業点検時の点検項目のチェック漏れ事例を受け始業点検表のチェック項目を変更
10	診察中のトラブル（紹介状紛失の事例）の事例を受けて課内で紹介状受け渡しに関する手順を作成

■2023～2024 年度 医療安全対策委員会 開催記録（第 229 回 ～ 第 240 回・・・開催場所：会議室

回数	開催日	ヒヤリハットレポート 報告検証	医療安全 情報の近況	その他の主な議事内容
229 回	4 月 6 日	●	●	インシデントレポート報告（前回会議での検討事例報告） 今年度の目標、活動内容、業務改善事項 等
230 回	5 月 11 日	●	●	インシデントレポート報告（前回会議での検討事例報告） 今年度の医療安全研修テーマ検討、レポート改善事項 等
231 回	6 月 1 日	●	●	インシデントレポート報告（前回会議での検討事例報告） レポート改善事項、転倒・転落に関する報告 等
232 回	7 月 6 日	●	●	インシデントレポート報告、医療安全情報 レポート改善事項、医療安全規定の見直し・問題点を抽出 等
233 回	8 月 3 日	●	●	インシデントレポート報告（前回会議での検討事例報告） 医療監視受審後の報告、医療安全情報の提供 等
234 回	9 月 7 日	●	●	インシデントレポート報告（前回会議での検討事例報告） BLS 研修、医療安全オンデマンド研修に関する報告 等
235 回	10 月 5 日	●	●	インシデントレポート報告（前回会議での検討事例報告） 前回会議でのレポート検討事例報告、転倒・転落予防対策 等
236 回	11 月 2 日	●	●	インシデントレポート報告（前回会議での検討事例報告） レポート報告、改善事項・他部署への意見・要望等
237 回	12 月 7 日	●	●	インシデントレポート、他部署への意見・要望等の報告 インシデント管理システムの問題点を抽出、改善 等
238 回	1 月 4 日	●	●	インシデントレポート報告（前回会議での検討事例報告） 医療安全情報の提供、医療安全 Web 研修に関する報告 等
239 回	2 月 1 日	●	●	インシデントレポート報告（前回会議での検討事例報告） 他部署への意見・要望等の報告、医療安全情報の提供
240 回	3 月 7 日	●	●	インシデントレポート報告（前回会議での検討事例報告） 医療安全情報の提供、医療安全 Web 研修に関する報告 等

※ 毎月第 1 木曜日に開催

会議参加者：19 名（安全管理責任者、各部署安全対策委員【全部署】1 名ずつ参加）

開 催	主な議事内容
第 379 回 (4 月 6 日) ～第 417 回 (3 月 25 日)	1・地域医療安全ネットワークの構築
	2・安全管理研修予定計画立案
	3・医療事故調査制度の現状把握、情報収集、研修会参加
	4・報告された事例を基に医療安全対策ラウンド実施（不定期）
	5・問題事例（提出レポート）の原因・分析・調査・改善案を検討、実施
	6・医療安全対策に関する規定を見直し・改訂
	7・提出されたレポートを基に各部署のWチェックを含めた確認方法を調査し、その結果を部署ごとにどのようにフィードバックし、今後の対策とするか検討
	8・BLS 研修・院内救急対応訓練を病院全体での研修として内容を検討（全員参加型）
	9・各種手術・検査等の説明書及び同意書の内容を変更
	10・医療事故防止マニュアルの見直し・改訂
	11・機能評価受診に向けての準備（規定改訂・マニュアル見直し・情報収集など）
	12・転倒・転落防止に向けての取り組み方法の検討・実施
	13・医療安全、事故防止に関する院外研修参加
	14・事故報告に沿っての現場検証および対応策について検討
	15・医療安全地域連携加算 2 取得に際し年 1 回の地域合同連携会議準備・開催

参加メンバー:3 名【医療安全管理室長・看護部医療安全管理者・総合支援部医療安全管理者】

※ 医療安全管理責任者担当者会議は、1 週間～10 日に 1 度の割合で開催（所用により変更も）

※ 医療安全対策ラウンド⇒医療安全管理室メンバーに加え、医療機器管理者 1 名参加（内容により変更も）



□ 感染対策委員会

活動内容は以下の通り

新型コロナウイルス感染症対策（コロナ対策本部を中心に）

- 入院患者、職員の感染状況に応じて入退院、転棟、面会などを一時的に制限
- 予定入院患者さんへの入院前検査実施を段階的に中止
- コロナ感染後の隔離期間を見直し
(5月8日改定 入院患者 10→7日、職員 7→5日)
- 2021 年年明けよりコンテナハウスで行っていた有熱外来を 10 月 16 日より院内の診察室へと変更
- 小児・乳幼児も含めコロナワクチン接種を継続、2023 年度中自己負担は不要
- 患者、職員の院内での感染状況が共有できるよう体制を整備

院内感染対策委員会

定例協議事項

- 針刺し切傷事故（202 年度 4 件、前年 7 件）
- 細菌検査サーベイランスレポート（検査科より）
- 抗菌薬の使用状況（サーベイランスレポートに基づく）
- 院外における感染症情報（石井医師より）
- 感染ラウンド報告（各グループリーダーより）
- 部署毎の手指消毒剤使用量の情報共有

その他の報告・協議事項

- 感染性胃腸炎・ノロウイルス感染症への対応・他部署への伝達など再度徹底
- 療養病棟での疥癬患者発生に対応
- 麻しんワクチン接について年代別に推奨される回数を院内に情報発信
- アルコールフリー手指消毒薬の導入
- 耐性菌検出患者の隔離方法の見直し

その他の活動

- 感染対策研修会（学研ナーシングサポート視聴・テスト受講）
- 他施設との合同カンファレンスに参加
済生会兵庫県病院/恒生病院、兵庫県立こころの医療センター 各年 4 回
済生会病院 ICN による感染ラウンド実施
- N95 マスクフィットテスト実施
- 院内クラスター発生予防のための職員への抗インフルエンザ薬予防投与

2023 年 5 月には新型コロナウイルス感染症の法令上の分類が第 2 類から第 5 類へ変更されました。これを受けて 2021 年年明けからコンテナハウスで行っていた有熱外来を 2023 年 10 月 16 日より院内の診察室へと変更しました。入院患者、職員のコロナ感染も散発的に見られましたが、重症化することは殆どなくコロナとの共存が進んだ一年間でした。

当委員会では 2023 年度も様々な感染症に関わる事例に関わって来ました。多くの職員の方々の協力なしに感染対策は成り立ちません。これからも職員一人一人のご協力を得ながら病院全体の感染対策の質向上に取り組んで参ります。

石井 日出夫（感染対策委員会 委員長）

□ 診療情報管理委員会

【2023 年度（令和 5 年 4 月 1 日 ～ 令和 6 年 3 月 31 日）】

回数	開催日	場所	主な議事内容
第 154 回	5 月 16 日	会議室	・ 退院要約作成率について ・ 適切なコーディングに関する事項について ・ 記録の監査について ・ 会議日程について ・ 乖離差のある症例の検討について
第 155 回	7 月 18 日	会議室	・ 退院要約作成率について ・ 適切なコーディングに関する事項について ・ 記録の監査について ・ 読影依頼時の依頼医の入力について
第 156 回	9 月 19 日	会議室	・ 退院要約作成率について ・ 適切なコーディングに関する事項について ・ 記録の監査について ・ コロナワクチンの問診票のスキャン取り込みについて
第 157 回	12 月 18 日	会議室	・ 退院要約作成率について ・ 適切なコーディングに関する事項について ・ 記録の監査について ・ 医療情報システムの監査内容について
第 158 回	2 月 20 日	会議室	・ 退院要約作成率について ・ 適切なコーディングに関する事項について ・ 記録の監査について ・ 医療情報システムの監査内容について

高木 和喜（診療情報管理委員）

□ 人間ドック委員会

令和 5 年度は新型コロナも 5 類になり、規制などがかなり緩和されました。街中でもマスクを外されている方が大多数で、以前の様な賑わいが戻ってきています。

今年度は人間ドック・企業健診を合わせるとありがたいことに 200 名を超える方に受診していただきました。次年度は中村先生にお越しいただき胃カメラ検査実施日も増え、新たに契約した企業様もあり、より一層受診者が増えることと思います。

新病院建設時には予防医学に注力すると伺っていますので、ハード面だけでなく、ソフト面でも受診された方に満足していただけるよう現状の問題点を洗い出し、ベースをしっかりと作り、その上で新設備にも柔軟に対応できるような体制を整えたいと思います。

また脳コースやメタボリックコースなど検査項目をピンポイントに絞ったコースを作成すれば曜日に縛られずに受診していただけるのではないかと可能性も広がります。ニーズに合った検査を関連部署と話し合い提案できればと考えています。

新型コロナが 0 になったわけではありませんし、他の感染症も時期によっては流行することが懸念されます。新規の方・リピーターの方みなさまが安心・安全に受診していただけるよう各部署と協力していきます。

□ 広報委員会

【2023 年度（令和 5 年 4 月 1 日 ～ 令和 6 年 3 月 31 日）】

主な活動として、広報誌を年 2 回発行しております。また、ホームページと院内放映コンテンツの随時更新並びに LINE での情報配信を行っております。今年度は広報誌「まひるの星」を改め、「新まひるの星」として 12 月に vol.1 を発行しました。ホームページも以前よりサイトスピードが遅い等の問題がありました。これらを踏まえ、集患の促進を図るとともに、医療関係者（近隣医療機関や採用希望者等）への情報発信の強化。また、自院の特長や取り組みを患者様目線で分かりやすくかつ正しい病院の情報を発信することを目的として、令和 6 年 4 月公開に向けリニューアルする運びとなりました。

広報委員会では、皆様に少しでも有益な情報を提供し、皆様の利便性がより向上するように努めてまいります。また、真星病院のことをよりご理解いただけるように、情報公開に努めたいと考えております。一方的な情報提供でなく、皆様と共によりよいコミュニケーションを築き、皆様のお声を病院改善に反映させていきたいと思っております。

回数	開催日	開催場所	主な議事内容
第 1 回	4 月 24 日	会議室	・ 広報誌の発行時期について ・ 病院パンフレットの製作について ・ ホームページのリニューアルについて ・ メディネット（院内モニター）内容の修正について ・ まほしキッズの配信 (あずかるこちゃん、小児科コロナワクチンのお知らせ)
第 2 回	7 月 24 日	会議室	・ 広報誌の製作工程について ・ 病院パンフレットの製作について ・ ホームページ業者選定について ・ メディネット（モニター）の追加について
第 3 回	8 月 29 日	会議室	・ ホームページ業者選定について ・ 病院パンフレットの製作について ・ 広報誌の製作について ・ 北区医師会 50 周年式典で使用したポスターの掲示について
第 4 回	9 月 26 日	会議室	・ ホームページ業者選定について（決定） ・ 病院パンフレット製作者について（決定） ・ 広報誌の掲載記事内容を検討 ・ まほしキッズの配信（コロナワクチン接種の予約） ・ メディネット放映内容修正
第 5 回	10 月 24 日	会議室	・ ホームページ業者選定について（決定） ・ 病院パンフレット製作者について（決定） ・ 広報誌の掲載記事内容を検討 ・ まほしキッズの配信（コロナワクチン接種の予約） ・ メディネット放映内容の修正について
第 6 回	11 月 28 日	会議室	・ ホームページリニューアルについて (コンセプトカラー検討、原稿執筆依頼) ・ 病院パンフレット製作時期について

			・広報誌製作進捗状況の確認 ・院内掲示物のラウンド（1～2 か月のペース）
第7回	12月26日	会議室	・ホームページリニューアルについて（写真撮影スケジュールの調整） ・広報誌発行（新まひるの星 vol.1） ・メディネット放映内容修正 ・予約コーナーにブックスタンドの配置検討
第8回	1月30日	会議室	・ホームページリニューアル（写真撮影実施→データ受領、次月サブデザイン確定） ・広報誌の発行スケジュールについて ・院内掲示物のラウンド（月1回） ・メディネット（ホームページ内容と連動させる）
第9回	2月27日	会議室	・ホームページリニューアル（サブデザインの確認、3月中旬にデモサイトの提出） ・広報誌の発行部数について ・広報誌のスケジュールの見直し ・Instagramについて
第10回	3月26日	会議室	・ホームページリニューアル（デモサイトの完成、修正依頼） ・広報誌の製作会社の変更について ・広報誌次号発行スケジュールの確認 ・広報誌次号の掲載内容の検討 ・Instagram・動画配信について

森脇 健司 （広報委員会 委員長）

□ 接遇改善委員会

【2023年度（令和5年4月1日～令和6年3月31日）】

会議日	主な議事内容	その他の活動
4月21日	・引き継ぎ ・挨拶強化週間実施決定	・接遇ワンポイントポスター作成・配布（4/1, 10/1） ・新入職フォロー研修（7/3・10/16・1/16） ・挨拶強化週間実施（毎月1～7日）
5月19日	・役割決定（教育担当は電話対応マニュアル作成開始） ・各部署においても接遇ワンポイント唱和	
6月16日	・7/3 フォローアップ研修についての確認	
7月21日	・7/3 フォローアップ研修の報告 ・身だしなみチェック実施、集計 ・電話対応マニュアル案を各自考える。	
8月17日	・身だしなみチェックシートの見直し・作成 ・電話対応マニュアル資料収集	
9月15日	・下半期接遇ワンポイント開始日確認、各部署にポスター配布	

	・ 電話対応マニュアル土台作成	・ 身だしなみチェック 実施(7月, 2月)
10月20日	・ 10/16 フォローアップ研修実施、報告 ・ 電話対応マニュアル編集、資料収集	
11月17日	・ 接遇ワンポイントについて確認事項 ・ 活動内容検討 (次回会議まで)	・ ご意見ご要望についての内容検討 (毎月)
12月15日	・ 朝礼時の笑顔の練習検討 ・ 定例会議後の挨拶チェックラウンド検討 ・ 退院時アンケートの良い意見、朝礼時発表検討。	・ ワンポイント唱和 (朝礼開催時) ・ スマイルレッスン
1月19日	・ 1/16 新人フォロー研修の実施、報告 ・ 1/22 朝礼時スマイルレッスン開始、各病棟でも朝の送り出し時実施 ・ 次年度委員を次回の会議までに確認	
2月16日	・ 朝礼の出席率を問題定義、当番制検討 ・ 身だしなみチェック実施日確認 (3月3日~3月11日) ・ 電話対応マニュアル進捗確認	
3月15日	・ 下半期身だしなみチェック実施、集計 ・ 一年間の活動について反省・改善点・良かった点発表	

松尾 憲江 (接遇改善委員)

□ 輸血療法委員会

2023 年度

【毎回の定期案件】

- ① 輸血前後の感染症検査の実施状況について； 集計および考察
- ② 輸血の廃棄数および廃棄率
- ③ FFP とアルブミン製剤の使用比率について； それぞれ RBC 製剤との使用比率の算出

【個別の臨時案件】

- 1) 輸血療法に関する情報の院内周知；
 - ① 夜間および週末輸血時の対応について ⇒ 特に夜勤リーダー看護師を対象に再確認
 - ② 血液型検査； 異時的に 2 回施行 (改訂) (患者検体取り違い防止目的)

【輸血療法マニュアルの改訂に着手】

「輸血療法の実施に関する指針」(厚生労働省医薬・生活衛生局血液対策課) (平成 17 年 9 月改訂版) の改訂 (令和 2 年 3 月改訂) に伴う改訂

(ア) 総論、② 各論 に分けて担当部署ごとに分担して作業を進めることで合意した。

【輸血療法委員会 委員】 (2024.03 現在)

紀医師 (委員長)、櫻井理事長補佐、吉田副部長、坂野副師長、藤澤副師長、竹田師長、長井師長、草葉室長、三木師長、小南師長、元持科長、南出係長、高木副部長、山垣事務員 (書記)

(計 14 名)

(文責：紀 幸一)

□ 臨床検査適正化委員会

臨床検査適正化委員会では、臨床検査に関する質的向上と病院内における臨床検査業務の適正かつ円滑な運営を図ることを目的として開催されています。

委員は医師、看護師、事務部長、総合サービス課、臨床検査をもって構成し、1回/3か月のペースで開催されています。

開催回数	開催日	議事内容
第 110 回	2023/4/18	● 免疫測定装置の機器の購入の検討 ● エコー枠の拡大について ● 救急外来への機器の設置について
第 111 回	2023/7/18	● ALP 試薬の半減期について ● 心エコー枠の増枠 ● HDL、LDL コレステロールの院内検査実施
第 112 回	2023/10/17	● 金曜日の心エコー枠の増設 ● 免疫検査の院内至急検査実施について ● CK-MB 検査の実施について
第 113 回	2024/1/16	● 生化学測定器の TG 試薬 低値の原因について ● 生化学測定器のエラーメッセージの頻発について ● マイコプラズマ抗体キットの仕様変更

臨床検査科 南出 有利子

□ 退院支援及び病棟管理カンファレンス

入院患者の治療状況、リハビリ状況、退院支援状況を多職種で把握、意見交換を行うことで、退院支援の早期介入や支援内容の見直しを行うことを目的としている。

また、当院は急性期一般病棟、地域包括ケア病棟、医療療養病棟、介護医療院の 4 病棟で構成されている。治療状況や退院支援状況に合わせて適切な時期に適切な病棟への転棟調整、外部医療機関からの紹介患者の受け入れ時期や入院病棟の調整を行うことも当カンファレンスの役割となっている。

令和 5 年度より入院患者の大幅な増加に伴い、より効率的な退院支援・病床運営を目的としてカンファレンスに医師も参加。医師・コメディカル間の退院支援・病棟運営に関する情報共有の強化を図った。

週に 1 回の開催としており、令和 5 年度は 50 回のカンファレンスを開催した。

主なカンファレンスメンバー

診療部：大石（醒）医師、愛新医師

地域連携室：真保 MSW、山本 MSW、田中 MSW、俵 MSW、秋山看護師

看護部：吉田看護師

一般病棟：南看護師、坂野看護師、中瀬看護師、藤本看護師、森山看護師

地域包括ケア病棟：藤澤看護師、大林看護師、藤尾看護師、宮地看護師、谷間看護師、

東根看護師、三井看護師

療養病棟：竹田看護師、赤木看護師、泉田看護師、江角看護師

介護医療院：長井看護師

リハビリテーション科：内藤理学療法士、石邨理学療法士

薬剤科：元持薬剤師

総合サービス課：浜本事務員

地域包括ケア部 課長 真保 友仁

診療統計

【2023 年度（令和 5 年 4 月 1 日 ～ 令和 6 年 3 月 31 日）】

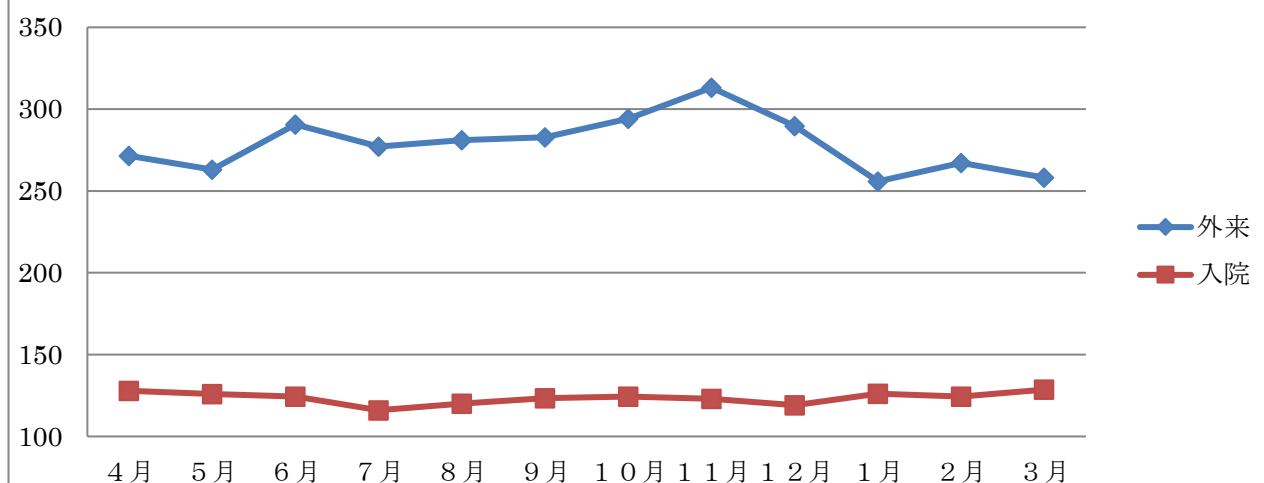
□ 外来

外来	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
延患者数	8,145	8,156	8,721	8,590	8,712	8,486	9,120	9,395	8,977	7,932	7,751	8,005	101,990
1 日平均 患者数	272	263	291	277	281	283	294	313	290	256	267	258	279
新患者数	222	241	257	116	487	184	392	261	221	225	274	233	3,113
初診患者数	979	1,110	1,249	1,305	1,386	1,256	1,479	1,603	1,312	1,258	1,130	1,111	15,178
救急件数	33	39	36	63	72	36	54	46	41	75	60	60	615

□ 入院

外来	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
延患者数	3,839	3,905	3,729	3,597	3,724	3,700	3,854	3,688	3,694	3,909	3,605	3,987	45,231
1 日平均 患者数	128	126	124.3	116	120.1	123.3	124.3	122.9	119.1	126.1	124.3	128.6	124
病床利用率	82.0%	80.7%	79.7%	74.4%	77.0%	79.1%	79.7%	78.8%	76.4%	80.8%	79.7%	82.4%	80.2%
平均 在院日数 (一般病床)	11.9	13.2	12.6	12.6	12.0	10.1	10.1	11.3	9.8	10.5	13.7	10.9	11.6

1 日平均患者数

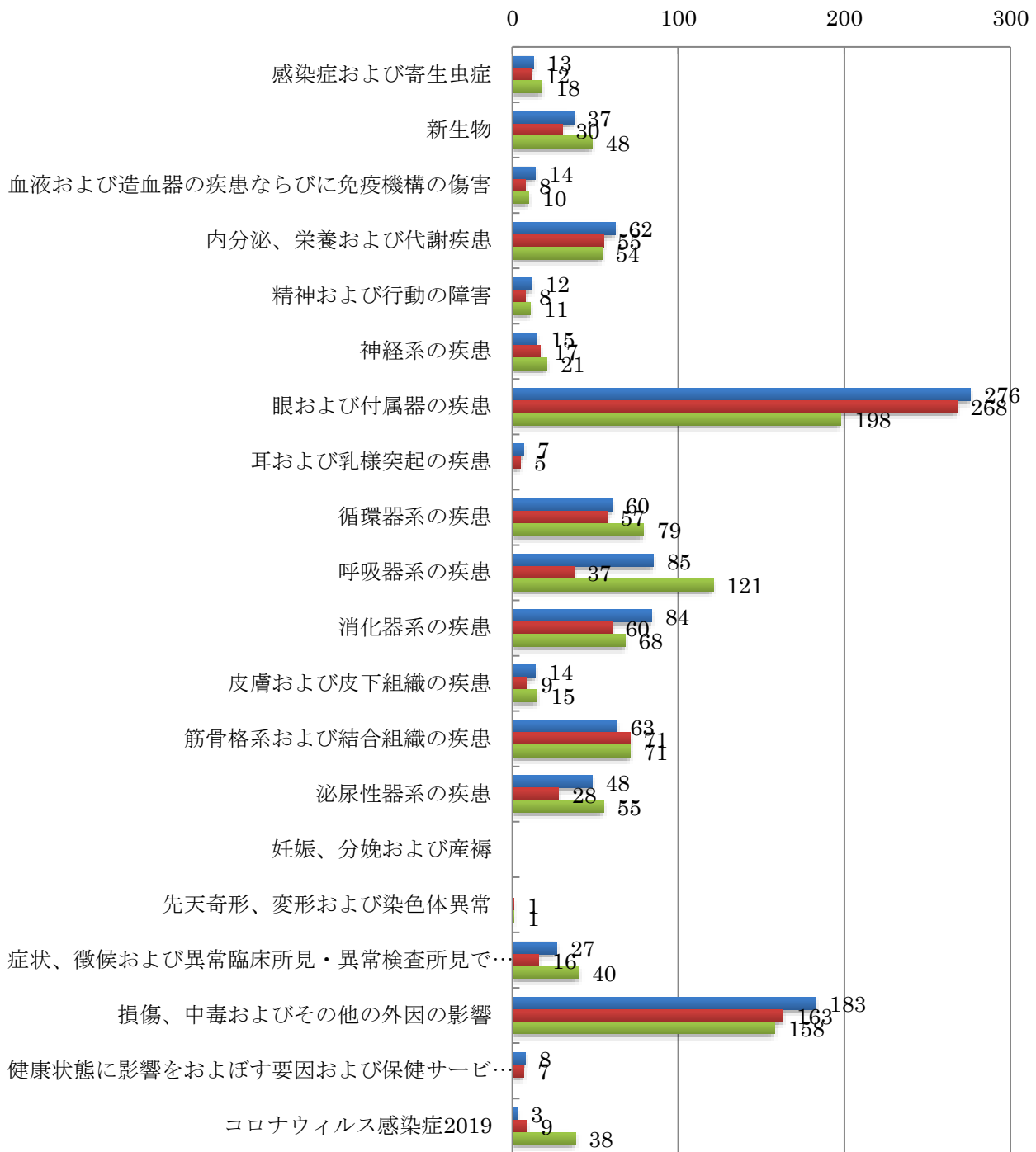


□ 疾患別退院患者数（ICD-10 章分類）

ICD-10	2021 年度	2022 年度	2023 年度
感染症および寄生虫症	13	12	18
新生物	37	30	48
血液および造血器の疾患ならびに免疫機構の傷害	14	8	10
内分泌、栄養および代謝疾患	62	55	54
精神および行動の障害	12	8	11
神経系の疾患	15	17	21
眼および付属器の疾患	276	268	198
耳および乳様突起の疾患	7	5	
循環器系の疾患	60	57	79
呼吸器系の疾患	85	37	121
消化器系の疾患	84	60	68
皮膚および皮下組織の疾患	14	9	15
筋骨格系および結合組織の疾患	63	71	71
泌尿性器系の疾患	48	28	55
妊娠、分娩および産褥			
先天奇形、変形および染色体異常		1	1
症状、徴候および異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	27	16	40
損傷、中毒およびその他の外因の影響	183	163	158
健康状態に影響をおよぼす要因および保健サービスの利用	8	7	
コロナウイルス感染症 2019	3	9	38
計	1,011	861	1,006

ICD-10分類 退院患者数

■ 2021年度
■ 2022年度
■ 2023年度

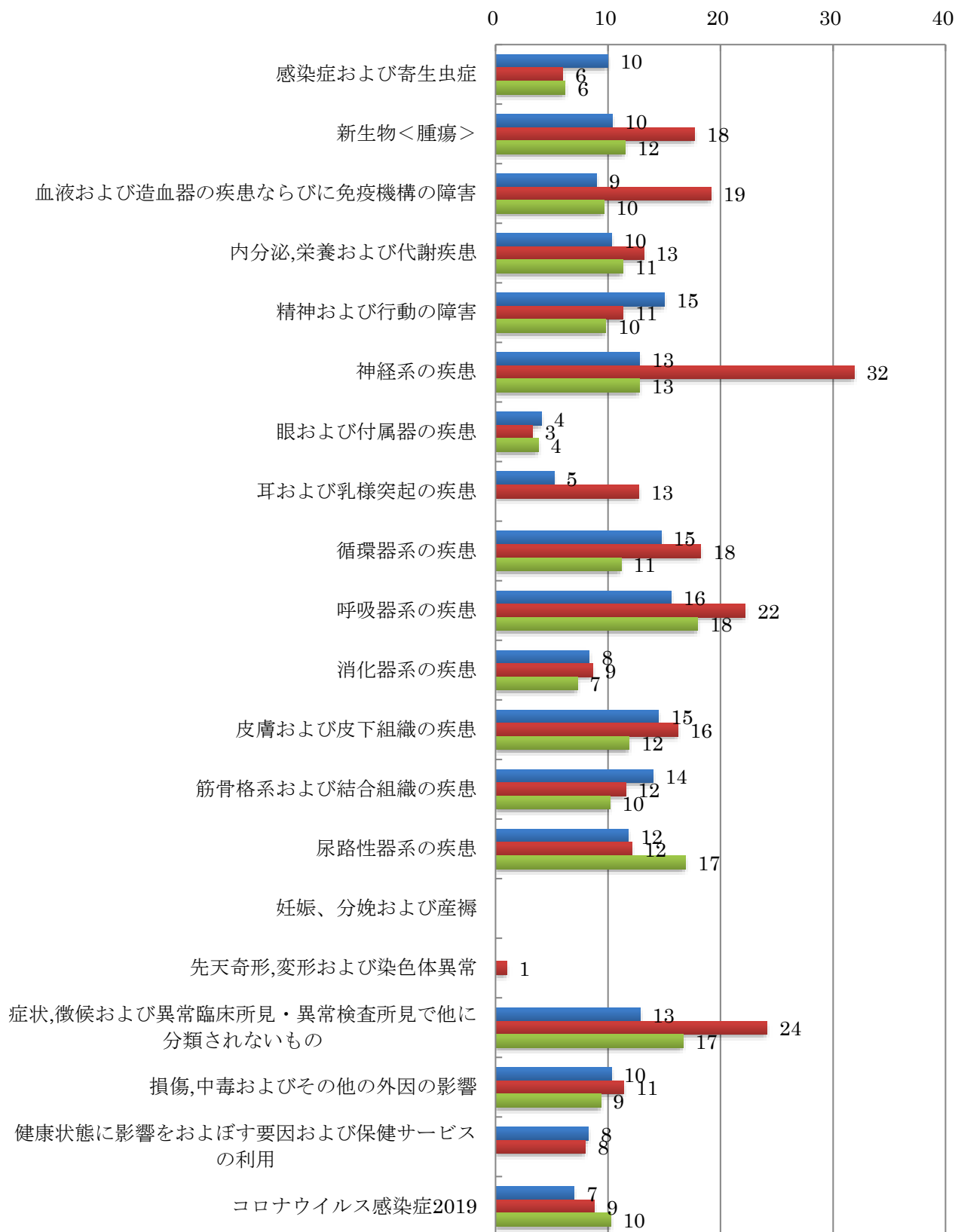


□ 疾患別平均在院日数（ICD-10 章分類）

ICD-10	2021 年度	2022 年度	2023 年度
感染症および寄生虫症	10	6	6
新生物＜腫瘍＞	10	18	12
血液および造血器の疾患ならびに免疫機構の障害	9	19	10
内分泌, 栄養および代謝疾患	10	13	11
精神および行動の障害	15	11	10
神経系の疾患	13	32	13
眼および付属器の疾患	4	3	4
耳および乳様突起の疾患	5	13	
循環器系の疾患	15	18	11
呼吸器系の疾患	16	22	18
消化器系の疾患	8	9	7
皮膚および皮下組織の疾患	15	16	12
筋骨格系および結合組織の疾患	14	12	10
尿路性器系の疾患	12	12	17
妊娠、分娩および産褥			
先天奇形, 変形および染色体異常		1	
症状, 徴候および異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	13	24	17
損傷, 中毒およびその他の外因の影響	10	11	9
健康状態に影響をおよぼす要因および保健サービスの利用	8	8	
コロナウイルス感染症 2019	7	9	10
平均	10	11	12

ICD-10分類 平均在院日数

■ 2021年度
■ 2022年度
■ 2023年度



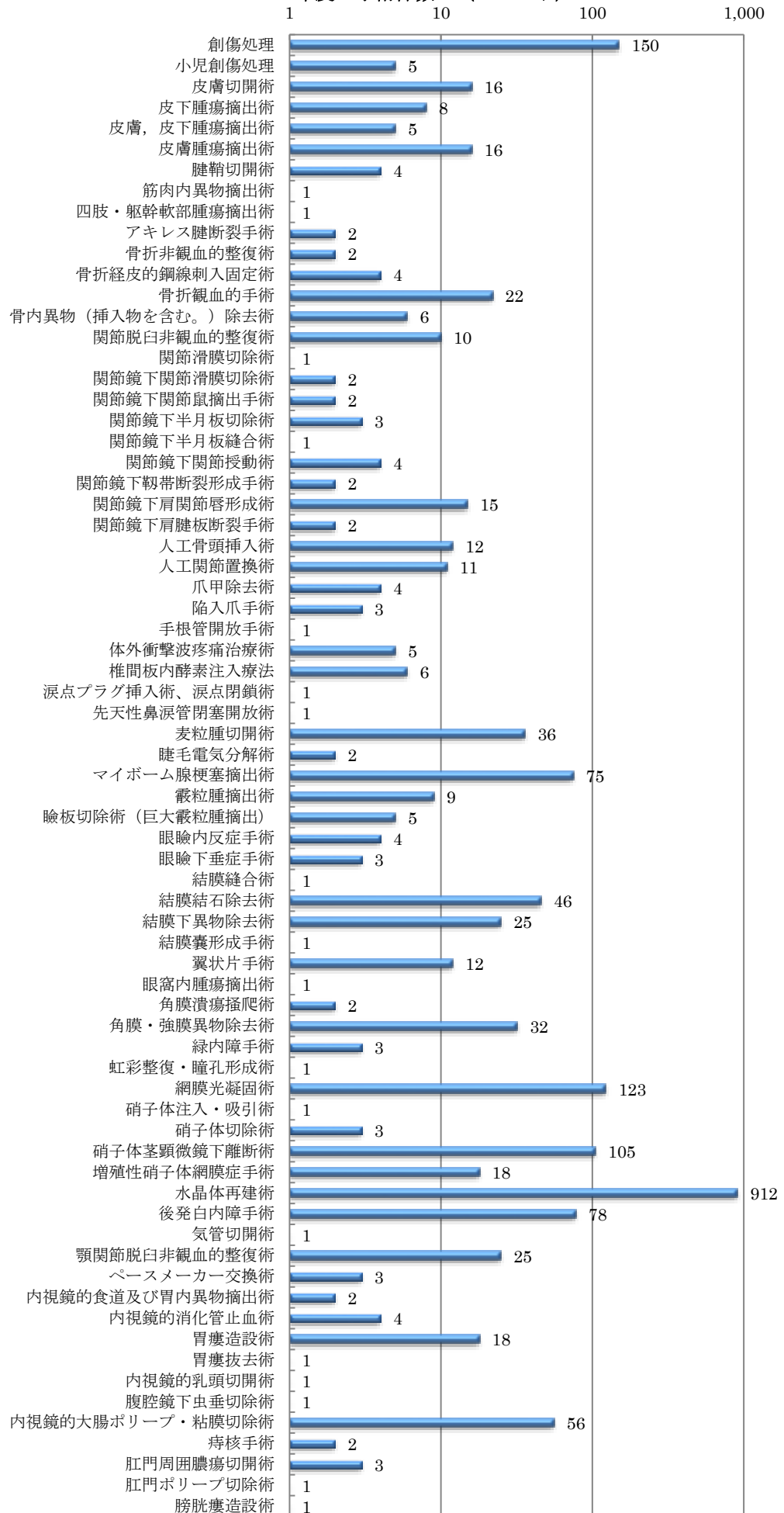
□ 手術件数

術式名	件数
創傷処理	150
小児創傷処理	5
皮膚切開術	16
皮下腫瘍摘出術	8
皮膚、皮下腫瘍摘出術	5
皮膚腫瘍摘出術	16
腱鞘切開術	4
筋肉内異物摘出術	1
四肢・軀幹軟部腫瘍摘出術	1
アキレス腱断裂手術	2
骨折非観血の整復術	2
骨折経皮の鋼線刺入固定術	4
骨折観血の手術	22
骨内異物（挿入物を含む。）除去術	6
関節脱臼非観血の整復術	10
関節滑膜切除術	1
関節鏡下関節滑膜切除術	2
関節鏡下関節鼠摘出手術	2
関節鏡下半月板切除術	3
関節鏡下半月板縫合術	1
関節鏡下関節授動術	4
関節鏡下靱帯断裂形成手術	2
関節鏡下肩関節唇形成術	15
関節鏡下肩腱板断裂手術	2
人工骨頭挿入術	12
人工関節置換術	11
爪甲除去術	4
陥入爪手術	3
手根管開放手術	1
体外衝撃波疼痛治療術	5
椎間板内酵素注入療法	6
涙点プラグ挿入術、涙点閉鎖術	1
先天性鼻涙管閉塞開放術	1
麦粒腫切開術	36
睫毛電気分解術	2
マイボーム腺梗塞摘出術	75
霰粒腫摘出術	9
瞼板切除術（巨大霰粒腫摘出）	5

術式名	件数
眼瞼内反症手術	4
眼瞼下垂症手術	3
結膜縫合術	1
結膜結石除去術	46
結膜下異物除去術	25
結膜嚢形成手術	1
翼状片手術	12
眼窩内腫瘍摘出術	1
角膜潰瘍搔爬術	2
角膜・強膜異物除去術	32
緑内障手術	3
虹彩整復・瞳孔形成術	1
網膜光凝固術	123
硝子体注入・吸引術	1
硝子体切除術	3
硝子体茎頭微鏡下離断術	105
増殖性硝子体網膜症手術	18
水晶体再建術	912
後発白内障手術	78
気管切開術	1
顎関節脱臼非観血の整復術	25
ペースメーカー交換術	3
内視鏡の食道及び胃内異物摘出術	2
内視鏡の消化管止血術	4
胃瘻造設術	18
胃瘻拔去術	1
内視鏡の乳頭切開術	1
腹腔鏡下虫垂切除術	1
内視鏡の大腸ポリープ・粘膜切除術	56
痔核手術	2
肛門周囲膿瘍切開術	3
肛門ポリープ切除術	1
膀胱瘻造設術	1

計 1,945 件

2023年度 手術件数 (Kコード)





救急告示病院



医療法人社団 まほし会

真星病院

2024年7月発行
編集責任者：高木 和喜